

O R I G A M I

T A N T E I D A N

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 600円

クローズアップ Close-up

「さかなのオブジェ」作品解説 —魚の形をした矢印—

Behind "The Fish Series": A Fish-Shaped Arrow

北條高史 Hojyo Takashi

折り図 Diagrams

犬 Dog

小松英夫 Komatsu Hideo

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge

蚊 Mosquito (*Neotopomyia tsudai*)

津田良夫 Tsuda Yoshio

イベント情報 Event Information

**パシフィック・コースト・
折り紙カンファレンス・
サンディエゴ**

 Pacific Coast Origami Conference
 San Diego Information

連載折り図 / Thematic Series with Diagrams

 やわらかユニット物語：川村みゆき
 The Stories of Mellow Units : Kawamura Miyuki

 おりがみ我楽多市：山口 真
 Origami Odds and Ends : Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

 高木智の折り紙資料館：高木 智
 Takagi Satoshi's the Origami Reference Room : Takagi Satoshi

 数理を楽しむオリガミクス：芳賀和夫
 Let's Enjoy Math through Origamics : Haga Kazuo

 やっぱり折紙散歩：前川 淳 ほか
 Origami Sampo Indeed : Maekawa Jun

 通巻 **80** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold.

山折り線
Line indicating
mountain fold.

手前に折る
Fold forward.

後ろへ折る
Fold backward.

折り筋を
つける
Fold and unfold.

段折り
Pleat.

裏返す
Turn over.

引き出す
Pull out flap.

図の見る
位置が変わる
Rotate.

図が
大きくなる
Diagram enlarged.

見えない
ところ
X-ray.

押す、
押しつぶす
Push here.

切る
Cut.

表紙作品解説

蚊 (*Neotopomyia tsudai*)

作：津田良夫 (P.34)

Mosquito (*Neotopomyia tsudai*)

Tsuda Yoshio (P.34)

■科学雑誌の拡大写真で見た、あの不気味なイメージがそのままに再現された「蚊」。羽根の持ち上げ方から足一本一本の角度に至るまで繊細に調整されているのも、昆虫の専門家である津田氏の作品ならではの。ホイル紙のメタリックな質感から、近未来の精巧なロボットのようにも見えますね。 (解説：北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Mosquito (Neotopomyia tsudai) : Tsuda Yoshio

クローズアップ／Close-up

P.11 「さかなのオブジェ」
作品解説

～魚の形をした矢印～
Behind "The Fish Series"
: A Fish-Shaped Arrow

北條高史
Hojyo Takashi

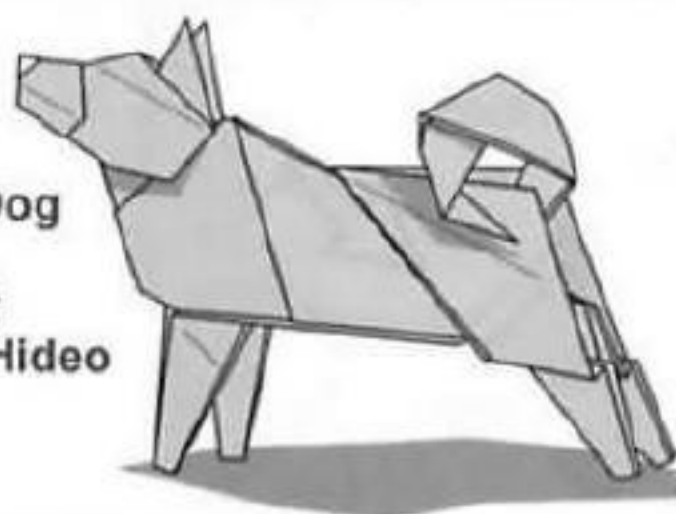
折り図／Diagrams and Crease Patterns

P.22

犬

Dog

小松英夫
Komatsu Hideo



P.34 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

蚊

Mosquito (Neotopomyia tsudai)

津田良夫
Tsuda Yoshio

カラーページ／Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

解説・北條高史
Comments : Hojyo Takashi

折り図／Thematic Series with Diagrams

P.4 やわらかユニット物語
The Stories of Mellow Units
小口を見せる
Beauty of cut ends

川村みゆき
Kawamura Miyuki

P.8 おりがみ我楽多市
Origami Odds and Ends

やまぐち真 (監修)
Yamaguchi Makoto

正方形による表現「蕾」／ニルバさんのひまわり
Square Based "Bud" / Nilva's Sunflower

読み物／Articles

P.14 数理を楽しむオリガミクス

芳賀和夫
Haga Kazuo

Let's Enjoy Math through Origamics
コピー用紙で正七角形
Regular heptagon from a single sheet of
standard sized rectangle paper.

P.16 高木 智の折り紙資料館

高木 智
Takagi Satoshi

Takagi Satoshi's the Origami Reference Room
歌麿画「浮世忠信蔵 十一段目」と
芳虎画の大判浮世絵2枚続き
"Ukiyo-ChushinGura Act 11" by Utamaro and
A Series of Two Large Ukiyo-E's by Yoshitora

P.18 やっぱり折紙散歩

前川淳
Maekawa Jun

Origami Sampo Indeed
会期大作戦
Mission Inappreciable

P.35 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File
ジューン・サカモト June Sakamoto

やまぐち真 (取材)
Yamaguchi Makoto

コラム／Columns

P.7 折り紙ビギナー奮戦記2

橘 基
Tachibana Motoi

Another Origami Beginner's Struggles and Agonies

P.10 折り紙の周辺

布施知子
Fuse Tomoko

Origami and Its Neighbors

P.32 おりすじ

水野 健
Mizuno Ken

Orisuzi ("Fold-Creases")

P.33 折り紙三昧

西川誠司
Nishikawa Seiji

Origami-Zanmai (This Origami and That)

情報／Information

P.36 つまみおり Rabbit Ear

パシフィック・コースト・折り紙カンファレンス・
サンディエゴ案内

Pacific Coast Origami Conference San Diego Information



川村みゆき
Kawamura Miyuki

第2話 小口を見せる

Beauty of cut ends.

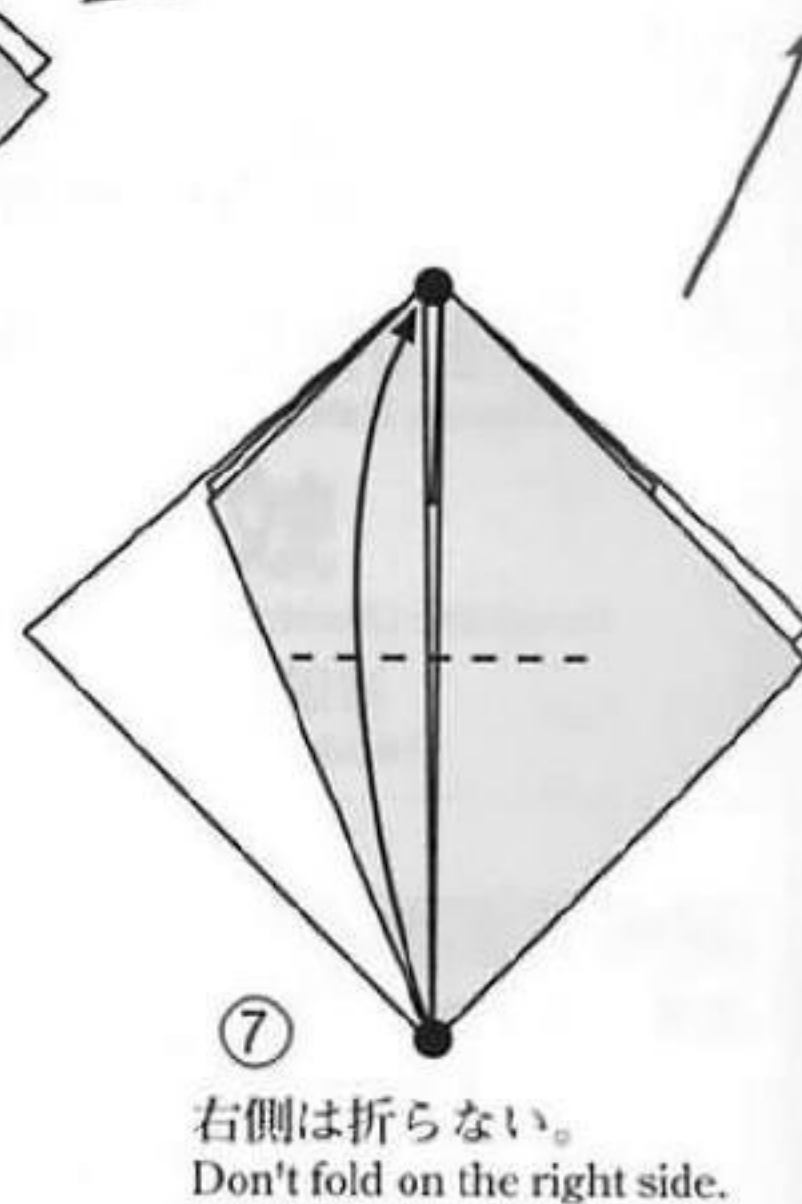
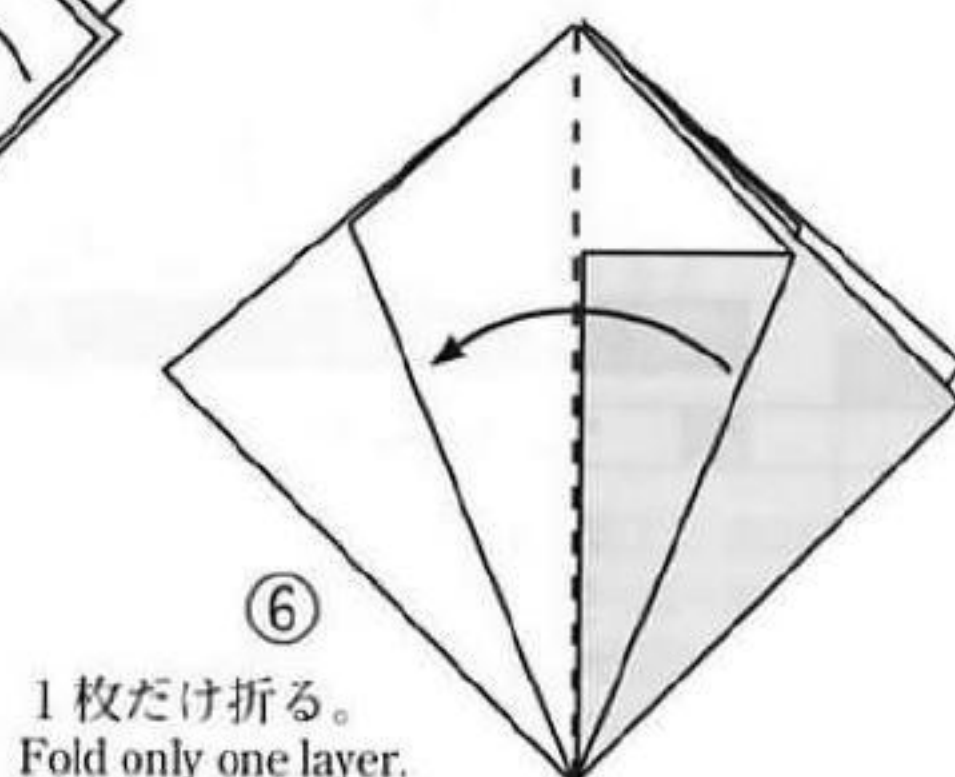
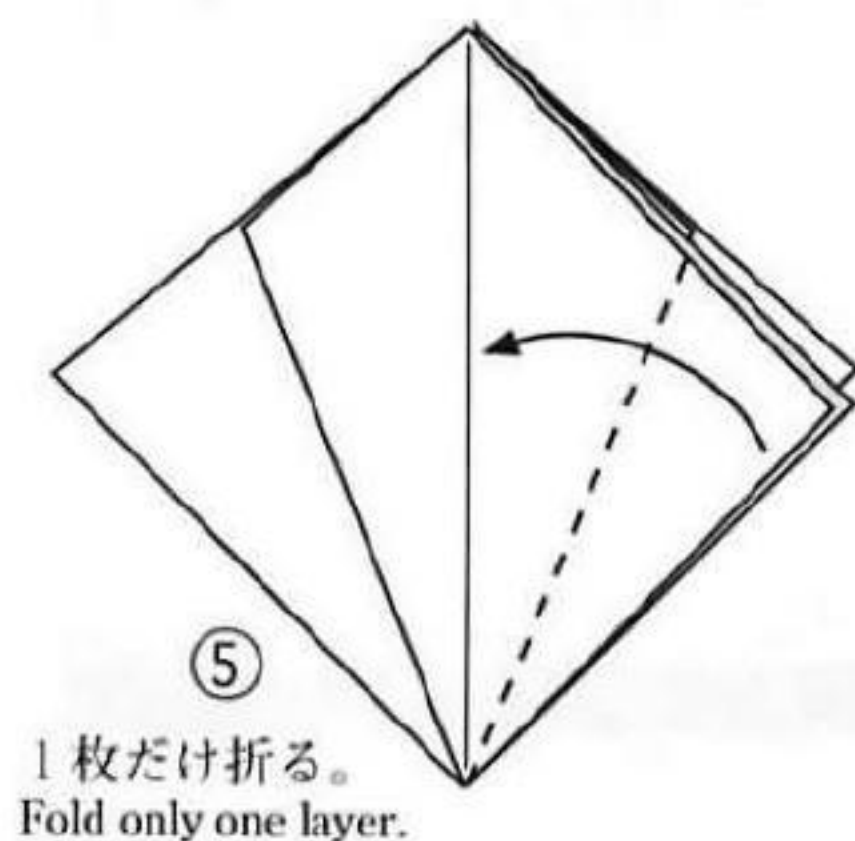
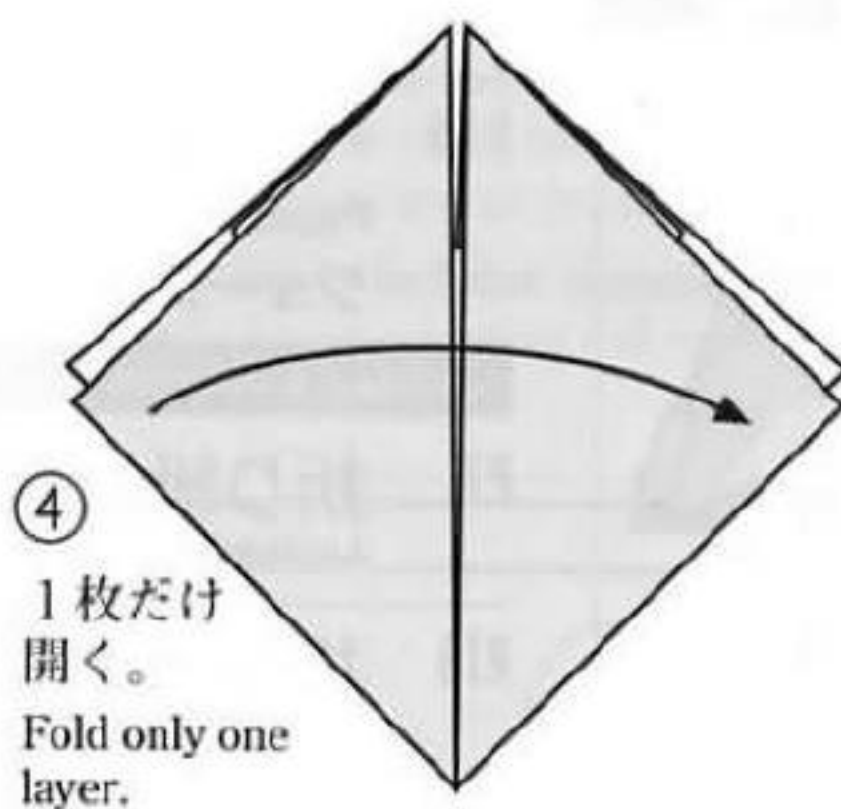
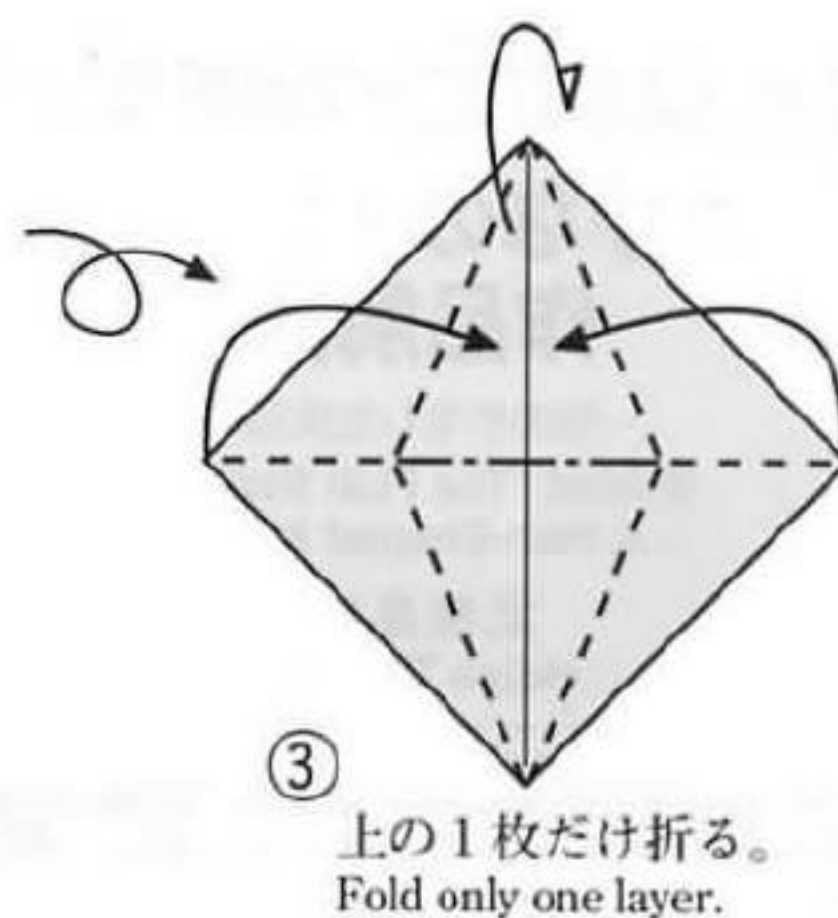
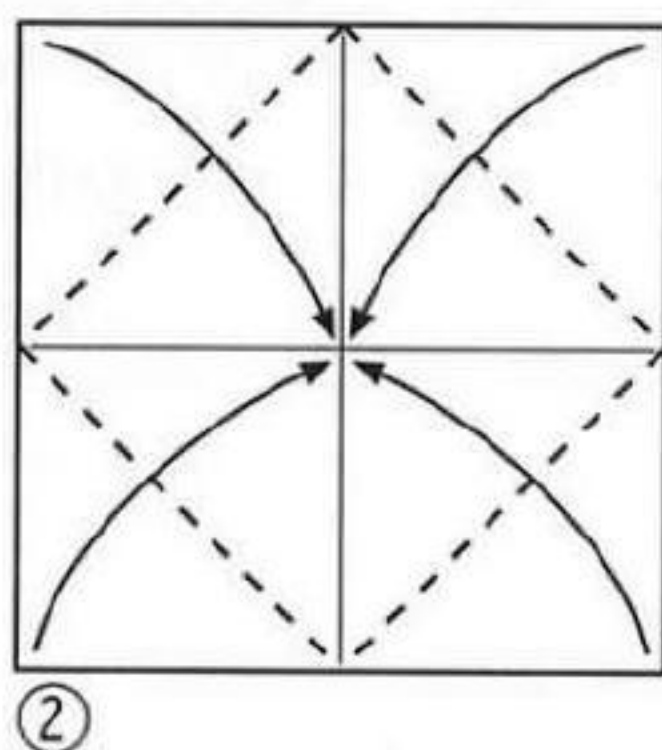
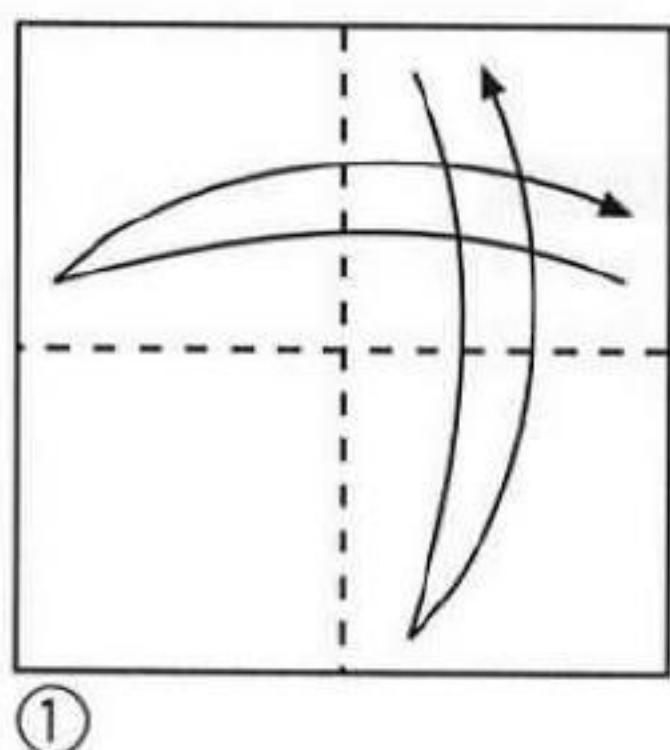
小口というのは紙の切断面、つまり紙の端のことです。花びらのような綺麗な曲線が出せました。

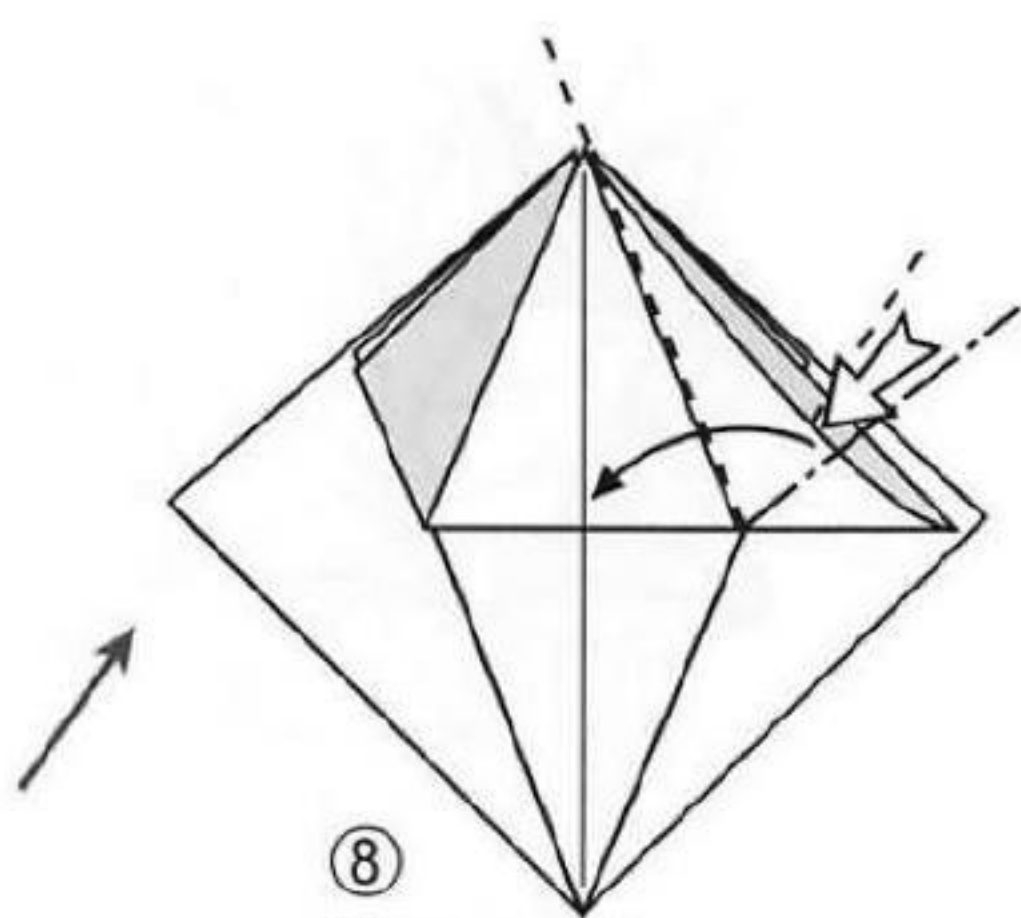
Here we will shape edges of a paper into beautifully curved lines, which look like petals.



【アマリリス】 ©2003 Miyuki Kawamura
Created 20030402

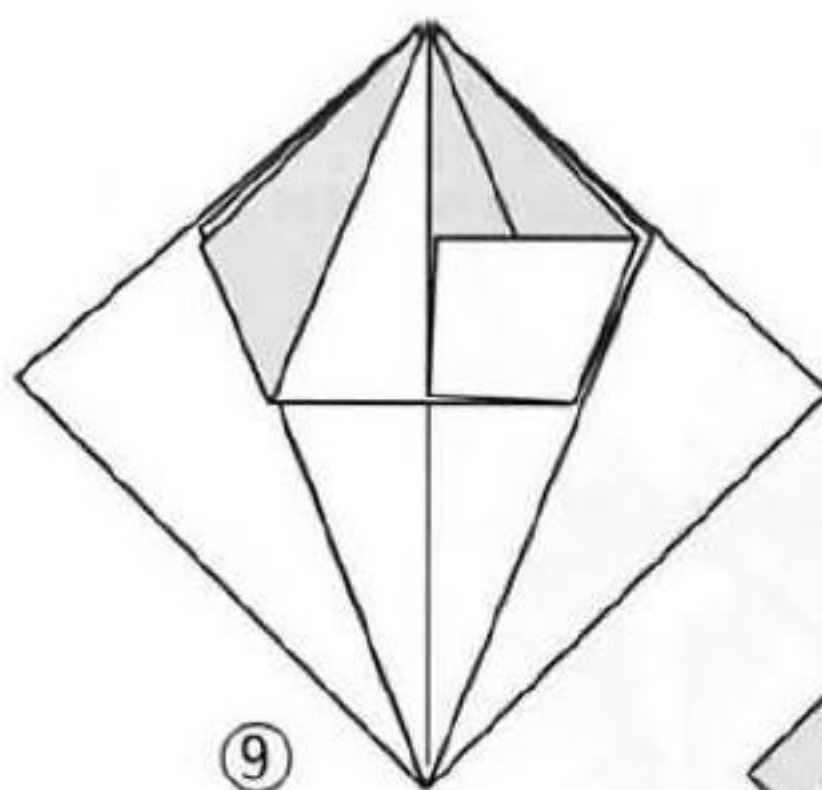
AMARYLLIS



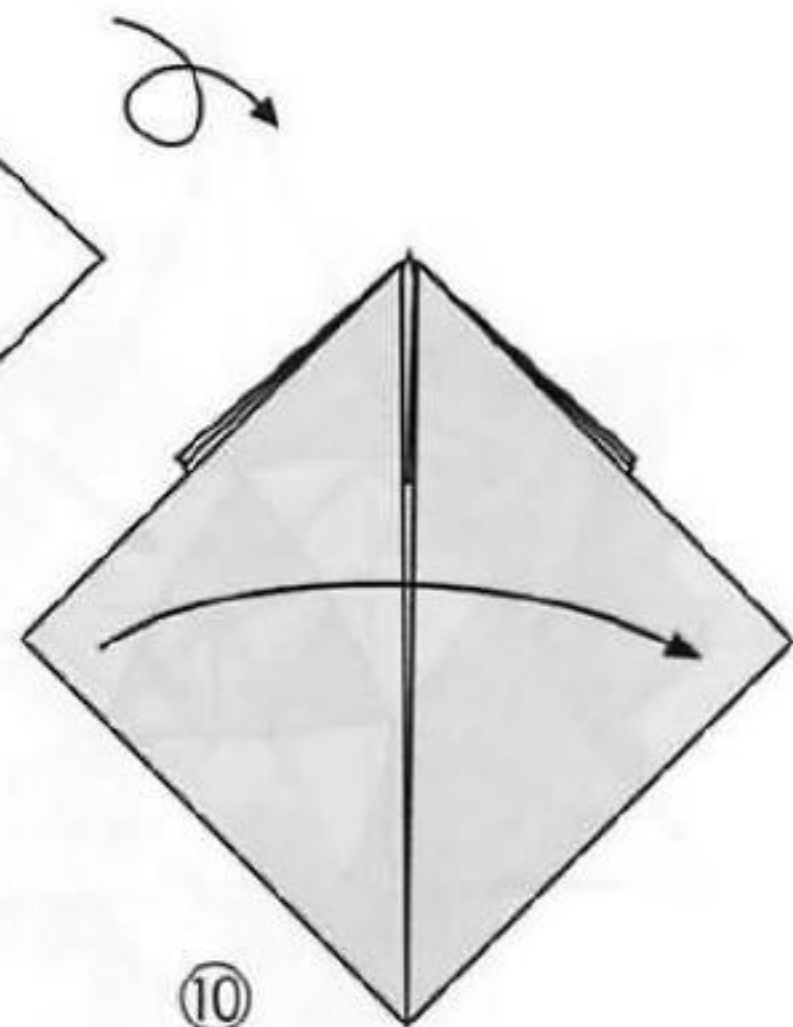


⑧

開いてつぶす。
Squash the pocket.

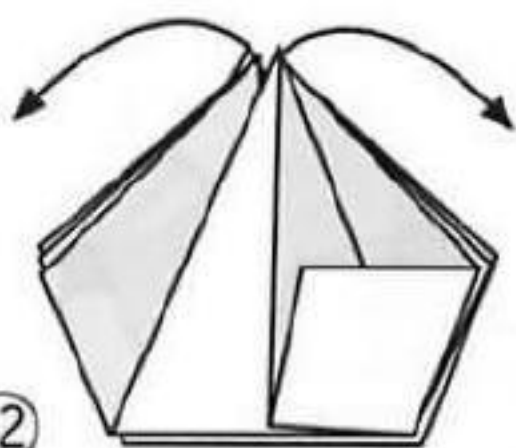


⑨



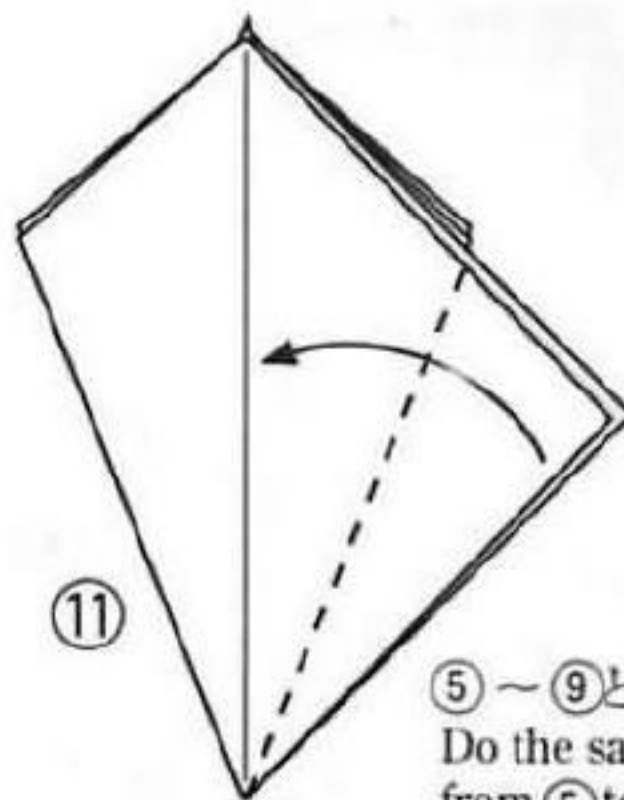
⑩

1枚だけ開く。
Swivel one layer to the right.



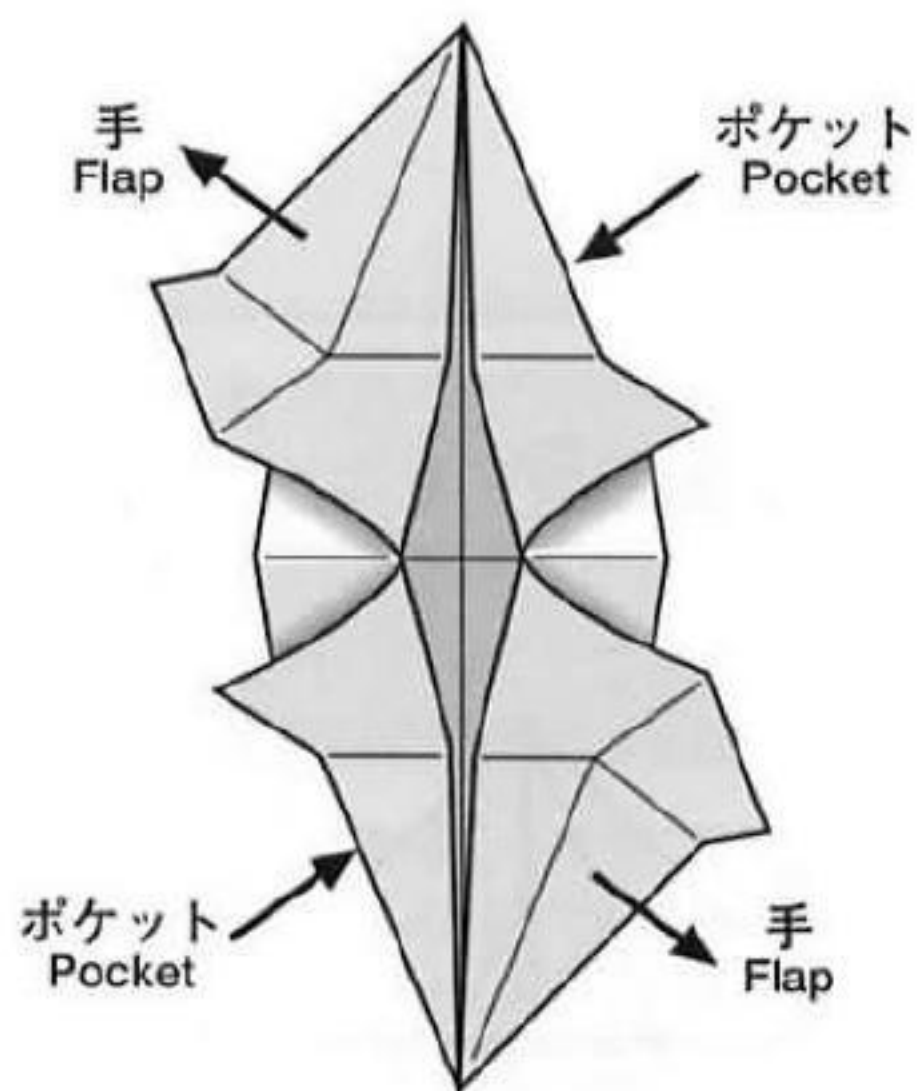
⑫

底が平らになるまで2つの角を左右にひっぱる。
Pull the two points open and flatten the bottom.

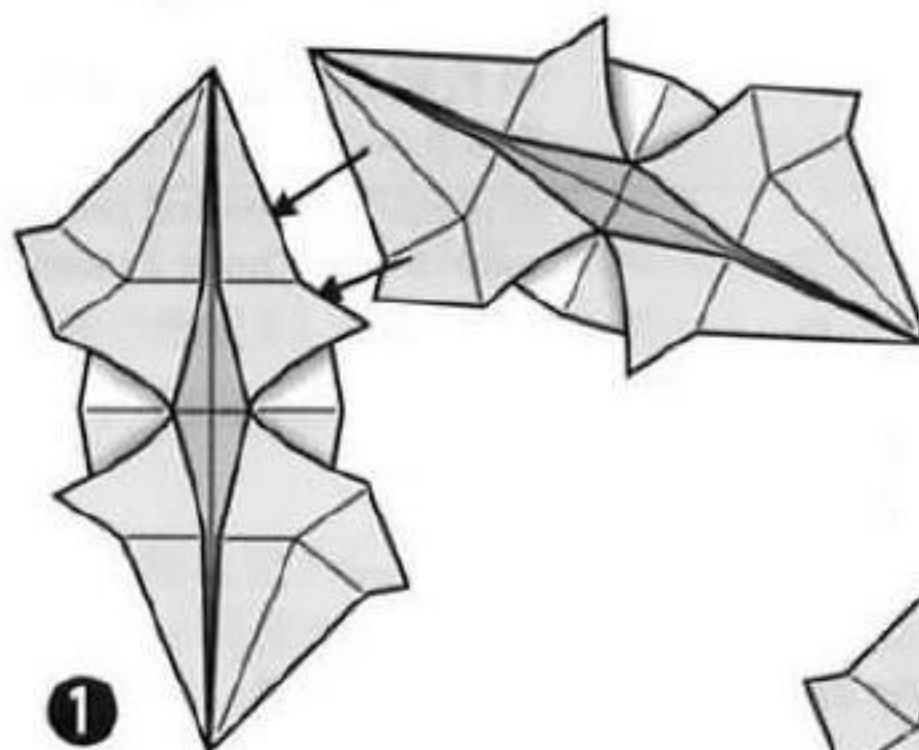


⑪

⑤～⑨と同じ。
Do the same steps from ⑤ to ⑨ on the right.

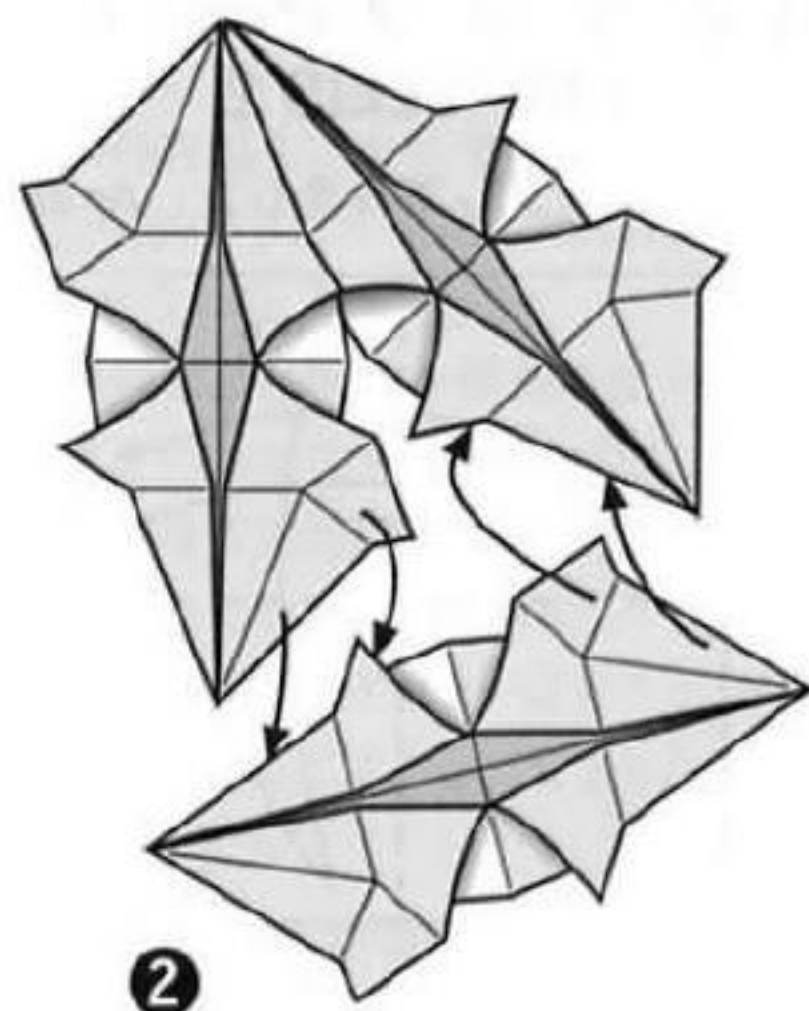


「アマリリス」のユニット
The AMARYLLIS unit.



①

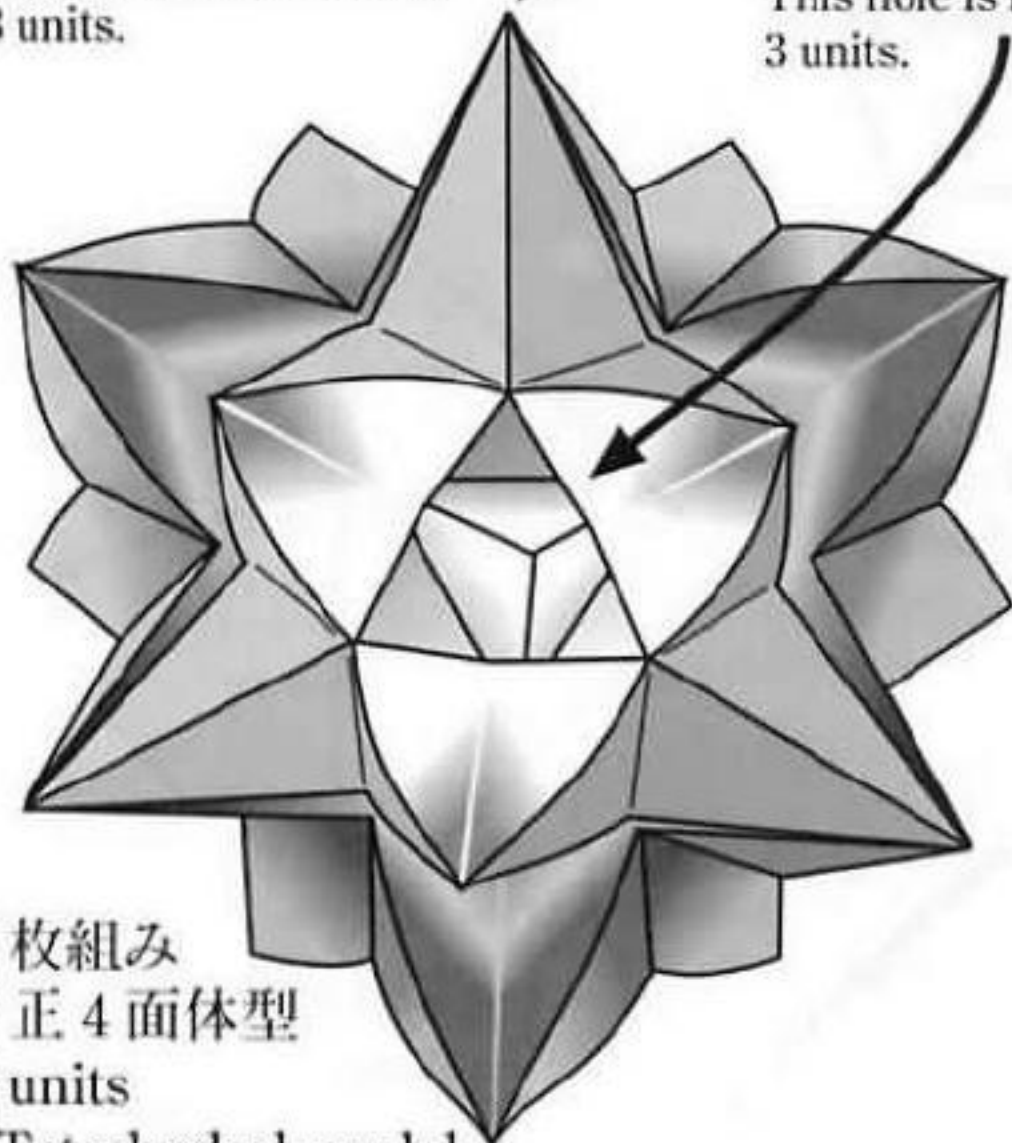
差し込む。
ふくらみを潰さない
ように注意。
Tuck the flap
into the pocket.
Don't squash the model!



②

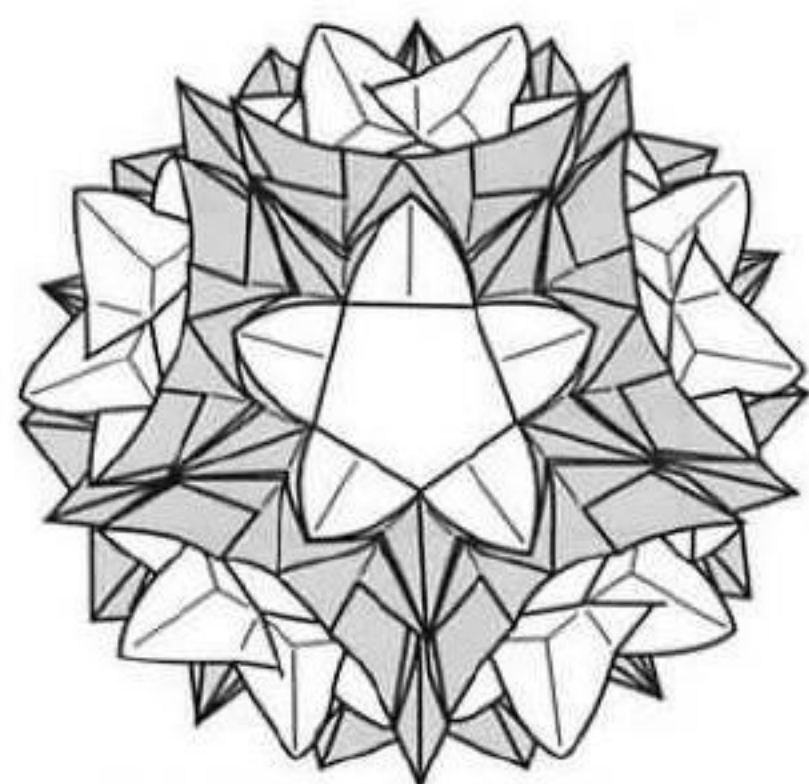
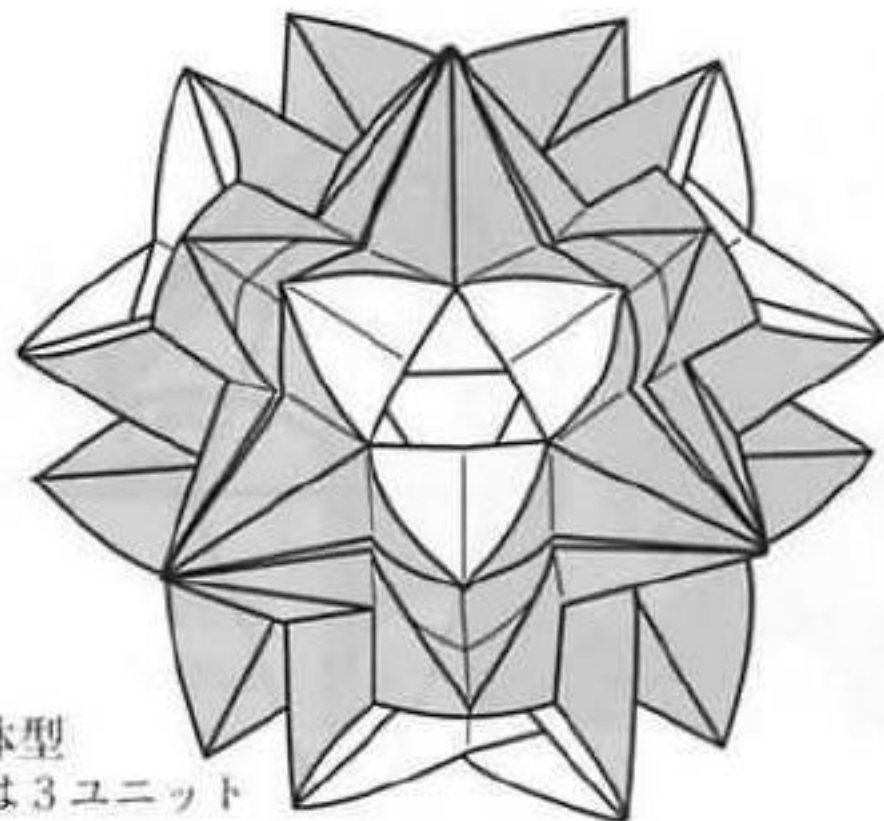
角はユニット 3 枚
で出来ています。
This point is formed by
3 units.

穴はユニット 3 枚
で出来ています。
This hole is formed by
3 units.

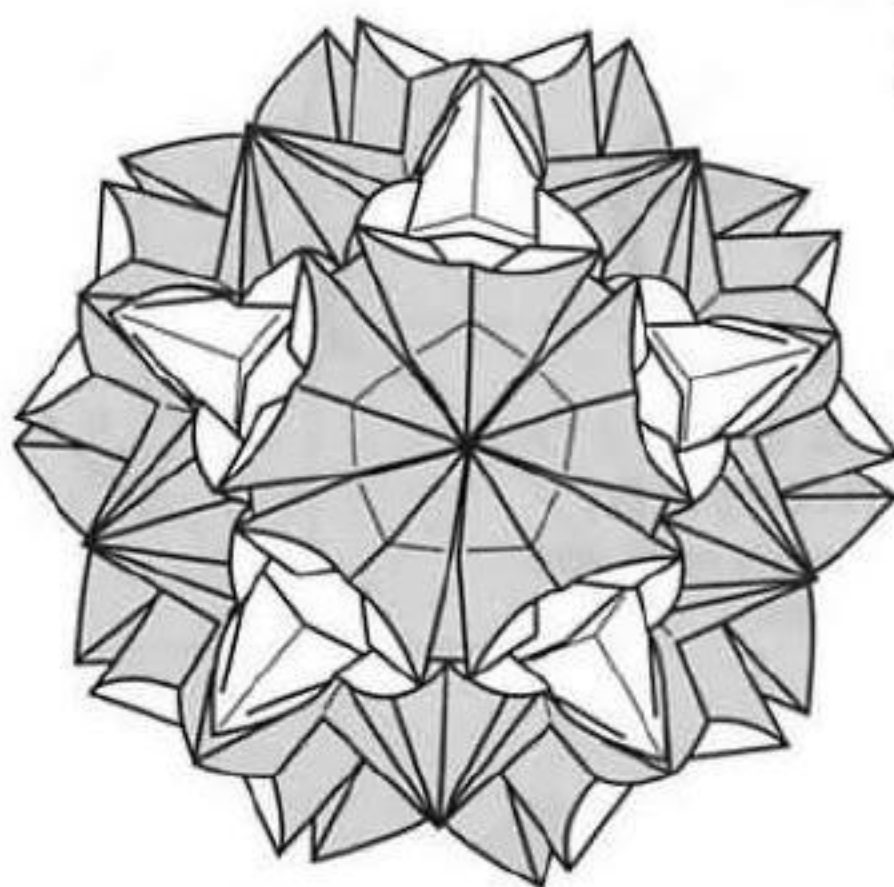


6 枚組み
/ 正 4 面体型
6 units
/ Tetrahedral model

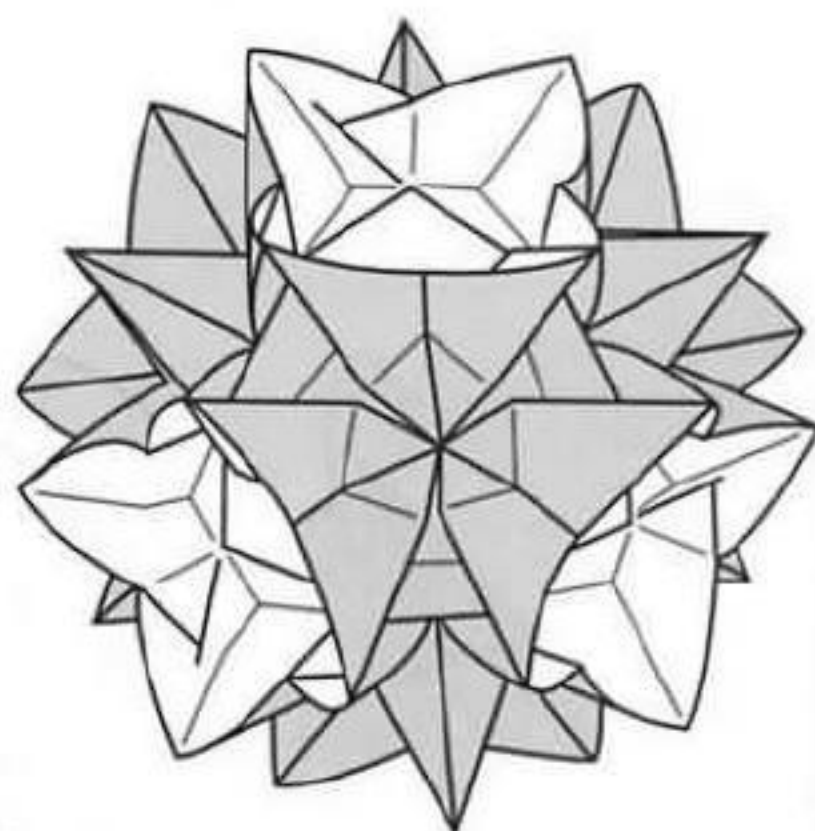
12 枚組み / 正 8 面体型
角は 4 ユニット、穴は 3 ユニット
12 units/Octahedral model
point: 4 units, hole: 3 units



30 枚組み / 正 12 面体型
角は 3 ユニット、穴は 5 ユニット
30 units/Dodecahedral model
point: 3 units, hole: 5 units



30 枚組み / 正 20 面体型
角は 5 ユニット、穴は 3 ユニット
30 units/Icosahedral model
point: 5 units, hole: 3 units

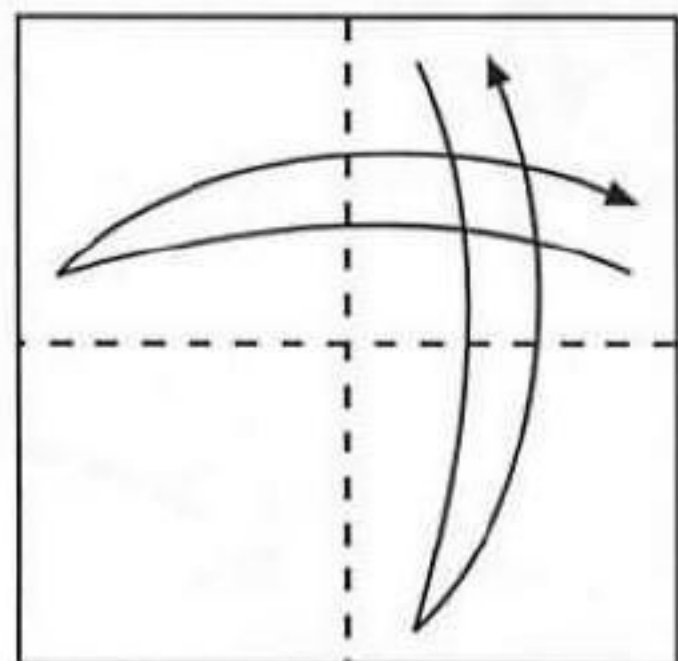


12 枚組み / 立方体型
角は 3 ユニット、穴は 4 ユニット
12 units/Cubic model
point: 3 units, hole: 4 units

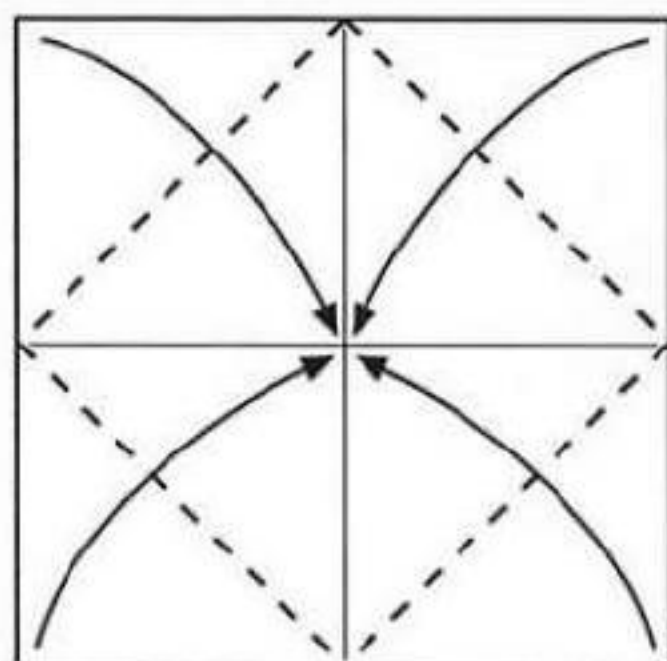
【アマリリス2】 ©2003 Miyuki Kawamura Created 20030402

AMARYLLIS 2

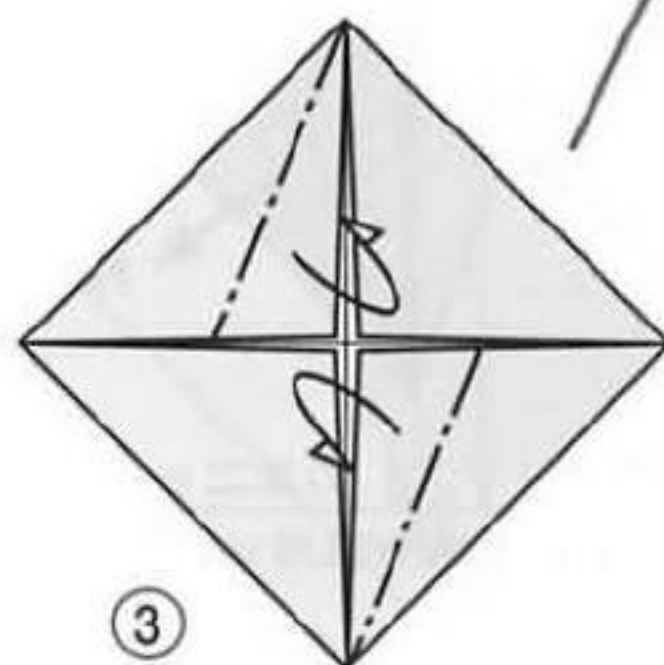
少しアレンジしてみました。An arrangement of AMARYLLIS.



①

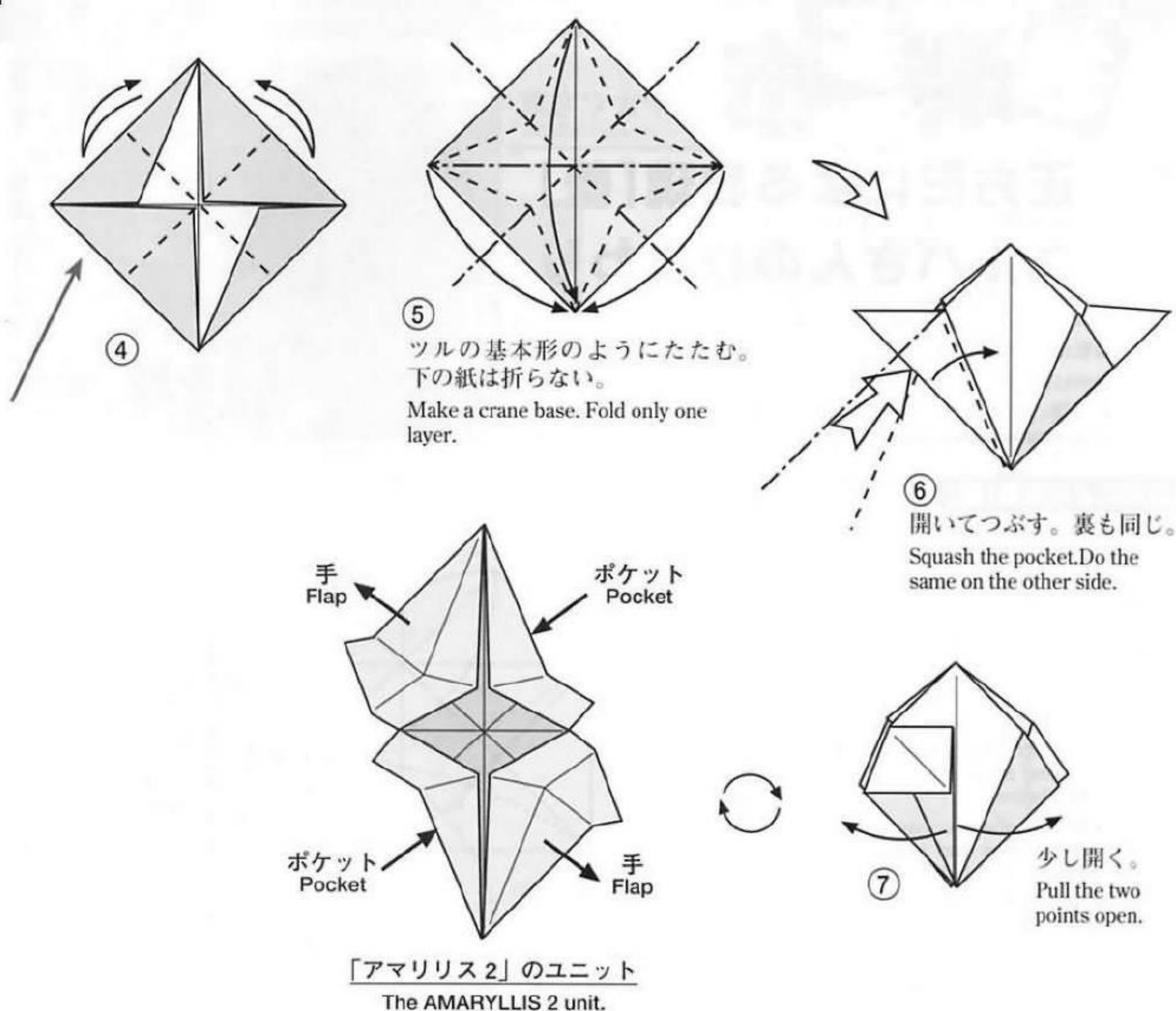


②



③

中へ折り込む。
Tuck the two flaps inside.



橘基の 折り紙ビギナー奮戦記2

Another Origami Beginner's
Struggles and Agonies

第1回 ジャバ ラ デビュー Java La Deview

先日初めて探偵団の例会に参加させていただいた。私は折り紙に関してはまったくの素人で、ツルすら折れるかどうか怪しいレベルである。色々あって参加することになったわけだが、いったいどんな人々がいて、講習のレベルがどれほどのものなのか見当もつかない。おそろおそろ会場に足を踏み入れた。

中はすでに大勢人が集まっていた。縦長の会場に大体年齢層の順に座っている。テレビでお見かけした方

もちろほら。皆なごやかな雰囲気談笑したり講習の準備をしたりしている。若い女性の数が圧倒的に少ないのが印象的だった。

講師は北條高史さん。とても難しい作品を折る人という印象があり、びくびくしていた。ところが出された完成品は何種類かの魚の、わりとシンプルな形をしたもの。「これならいけるかも」と少し安心。前方のスクリーンを見、説明を聞きながら早速開始。が、みんなの折るスピードについていけない。「蛇腹折り」、「中割り折り」とか言われても何それ?状態。そのたびに助けてもらいながらどうにかこうにか。何とか一つめの作品完成。初めて自分で(じゃないけど)蛇腹折りで作った折り紙。折り方が拙いせいで形は不格好だが、それでも魚に見えるゾ。なによりもこの

蛇腹というやつ、伸び縮みできてそれだけで楽しい。アコーディオンみたい。その後二つ程折り(三つめのは難しすぎてほとんど人まかせ)、最後のは無理そうなので不参加。その間、作った三つの作品をニヤニヤしながら伸ばしたり縮めたりして楽しんだ。これは捨てられないな、と実感。

講習の後は新作や情報の紹介。小中学生の作品のすごさにただただ驚く。若い世代の活躍はその分野のパロメーターとはよくいったものだ。

こうして折り紙デビューはおろか、蛇腹デビューまではたしてしまっただけ。癖になりそう。

たちばな・もとい=研究所職員。妻である川村みゆきに付き添って東京の例会に参加しはじめてばかり。

第2回

正方形による表現「蕾」

Square Based "Bud" : Jeannine Mosely

ニルバさんのひまわり

Nilva's Sunflower : Nilva Fina Pillan

ここでは私個人の作品に限らず、たのしい作品を沢山紹介します。今回は、先日のOrigamiUSAコンベンションで発表されたモズリーさんの新作と、川崎敏和さんにご紹介頂いた、昨年亡くなられたイタリアの作家ニルバさんの作品です。



正方形による表現「蕾」

創作・展開図：ジニー・モズリー
 Model and Diagrams : Jeannine Mosely

紙サイズ 19×19cm / 仕上がり高さ約9cm

モズリーさんの曲線を使った作品は作図が命。丁寧に折り筋をつければあとは簡単。是非一度挑戦してください。

The square is divided into nine smaller squares as shown. The intersection points of the diagonals provide landmarks for the centers and endpoints of the four (mountain folded) half circles.

Theoretically, the other four curves are not circles, but they are very close to circular. A good approximation can be made by constructing circular arcs between the center at a point off the paper as marked below.

Another way to draw these curves is to construct the five points marked by solid circles and sketch a smooth curve through them. The second and fourth points are constructed to be the midpoints of the indicated line segments.

◆図の正方形は9つの正方形に等分されています。小さな正方形の対角線の交点(中心)が山折りの4つの半円の中心と終端になります。

◆厳密には、谷折りの4つの曲線は円弧ではありませんが、極めて近似の曲線です。下にマークされた紙の外の印を中心として、終端同士を結ぶ円弧を描くことで近似の曲線が得られます。

◆もう1つの方法は、黒丸で記された5つの点に印をつけた後、これらを通る滑らかな曲線を描くことです。2番目と4番目の点は、先に描いた円弧と、対角線の交点の真ん中の対角線上の点になります。

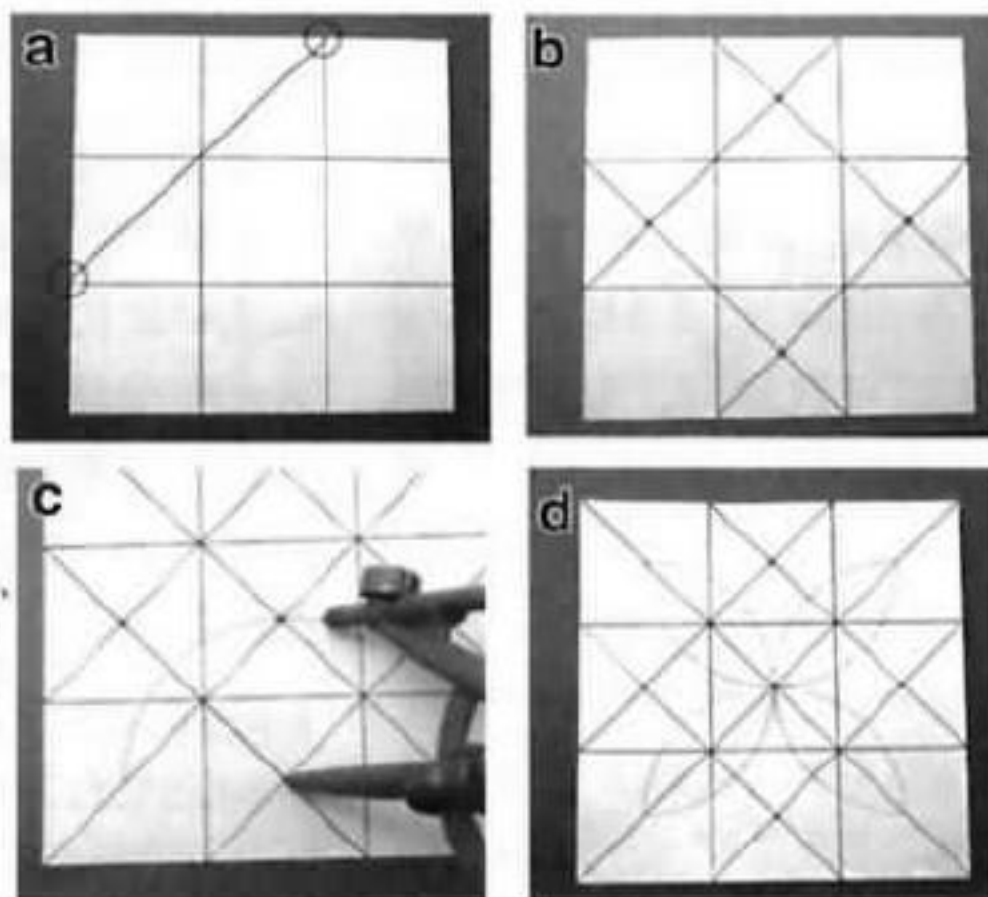
材料と道具 紙・定規・コンパス

説明では普通の15cmのおりがみ用紙を使いましたが、厚手の紙がお勧めです。

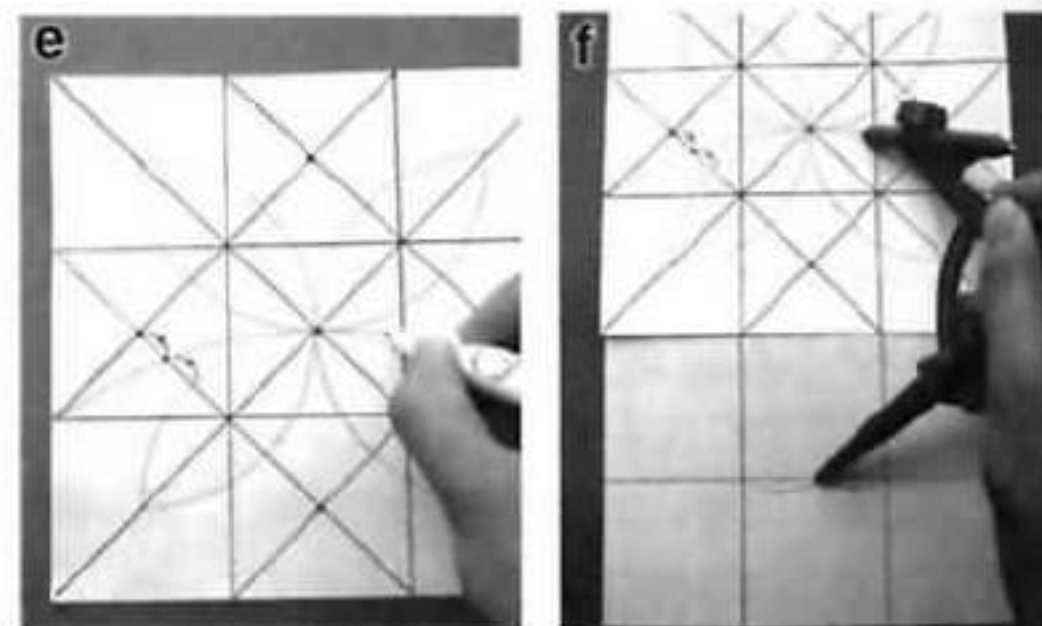
折り方

1 9等分の線をつけてから、○と○を結ぶ線をひく(写真a)。同じようにして4本の線を引き、線の交点に印をつける(写真b)。

2 さらに対角線を引き、コンパスでbの●と中心点を半径とする円を描く(写真c,d)。



3 一番大きな円弧は、写真eの方法でフリーハンドでひくか、又は写真fのように同じ9分の1の大きさのマスをつけたして、その底辺の midpoint と用紙の中心点を半径とする線を描く。

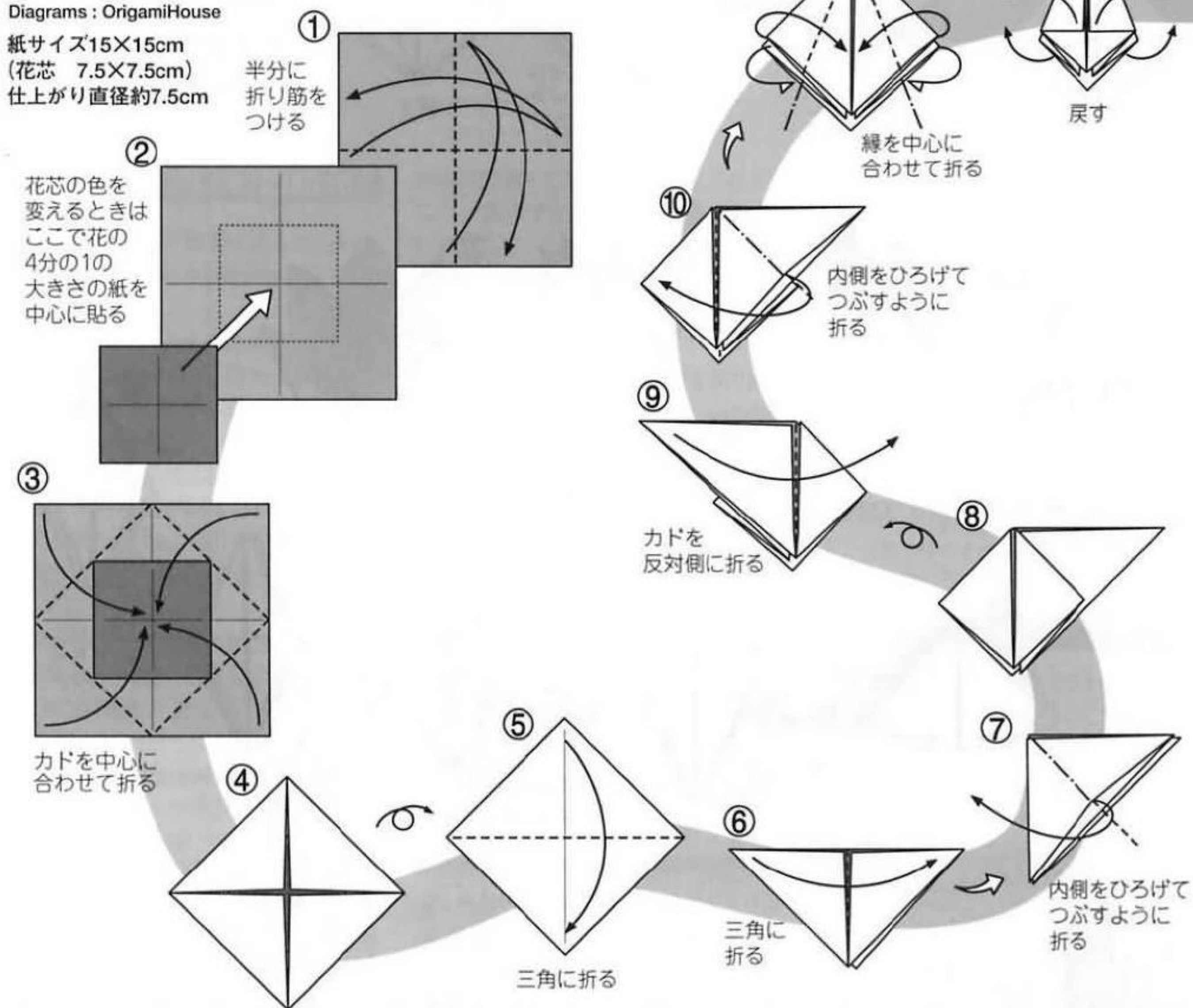


ニルバさんのひまわり

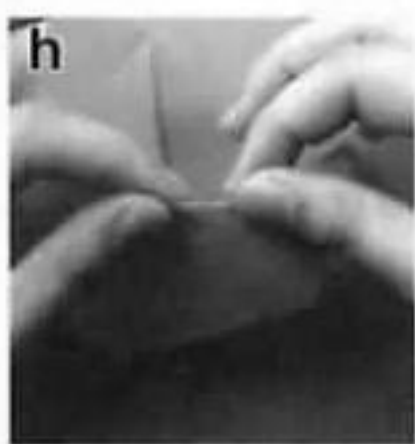
創作：ニルバ・フィーナ・ピラン
折り図：おりがみはうす
Model Design : Nilva Fina Pillan
Diagrams : OrigamiHouse

紙サイズ15×15cm
(花芯 7.5×7.5cm)
仕上がり直径約7.5cm

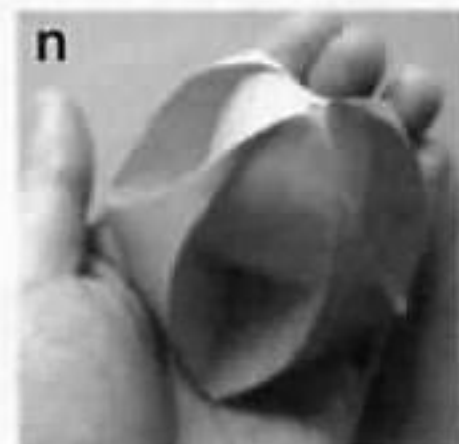
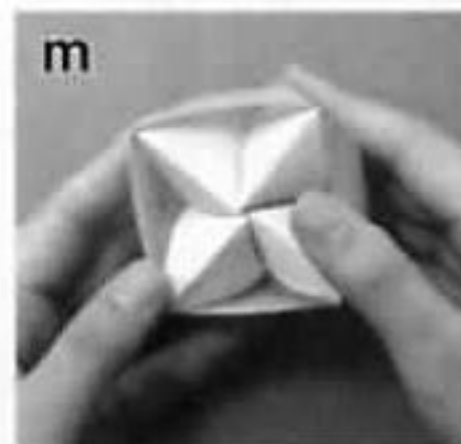
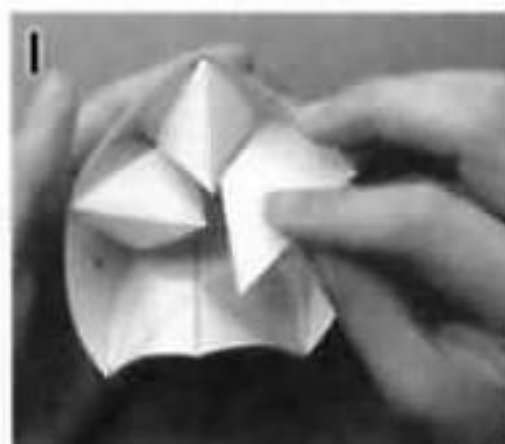
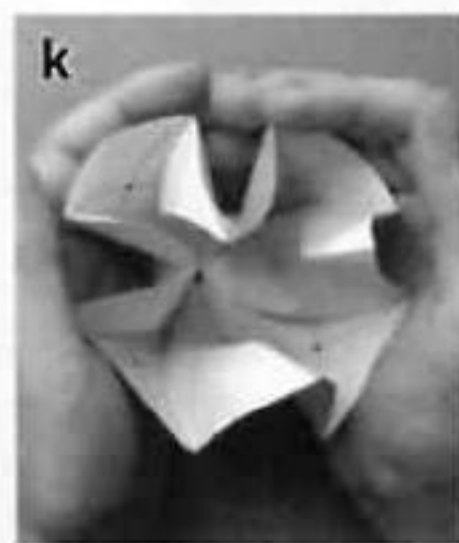
シンプルな折り方で、形がしっかり仕上がる
無駄のない構造。折って楽しい、できあがり
も素敵な、2度楽しめる作品です。

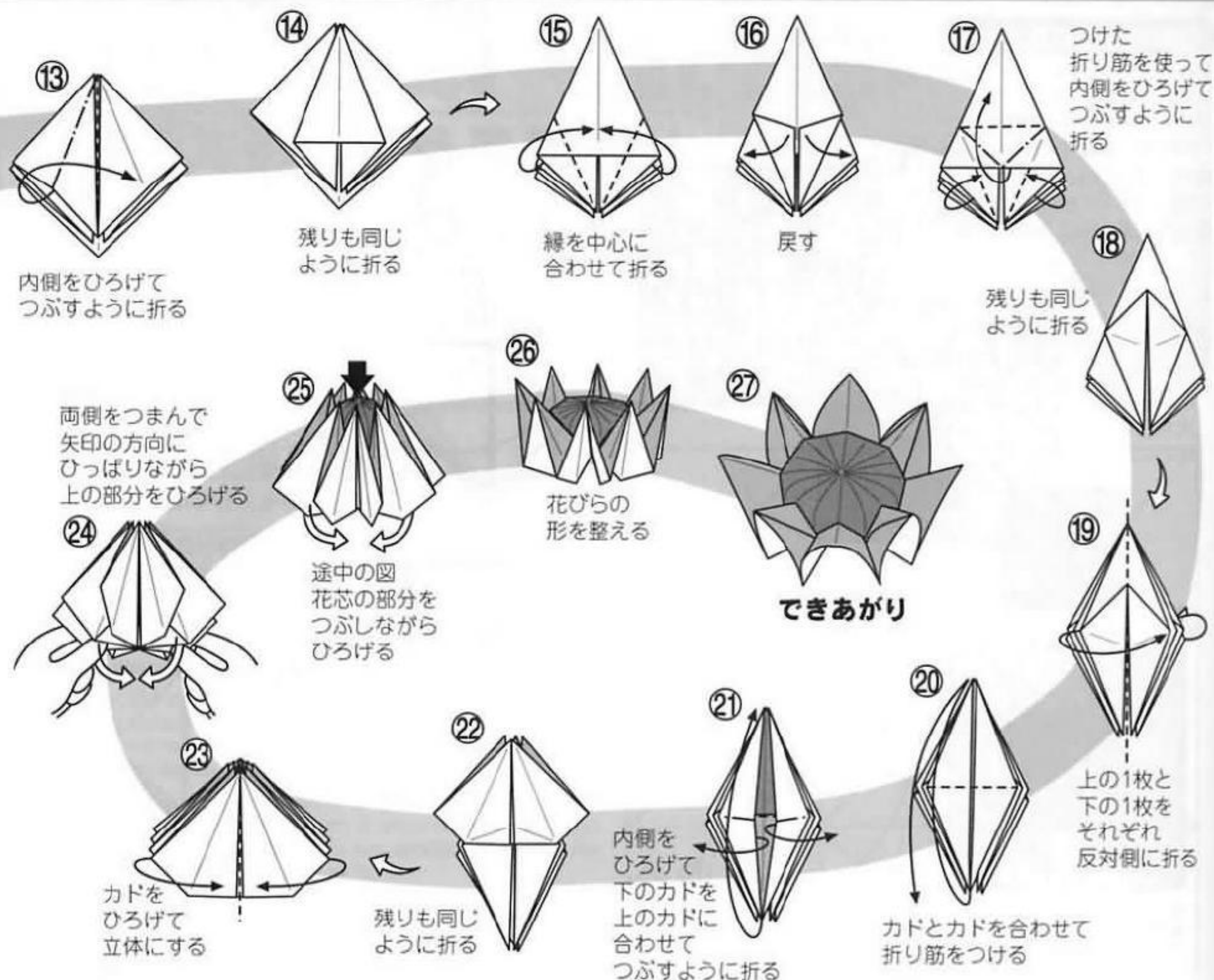


4 写真gの折り筋をつけてから左ページ展開図をよく見て曲線の折り筋をつける。曲線はつまむようにしながら折るとよい。また鉄筆が使えるコンパスで曲線の筋をつけるときれいに折ることができる。



5 折り筋を全てつけたら(写真j)、つけた折り筋とおりに折りまとめる(写真k)。4つのカドはつけた折り筋でカドをつまむようにしながらまとめる。カドをそれぞれすき間に差し込んで完成(写真l, m, n)。





折り紙の 周辺

第2回
花の折り人
Nilva Pillanさん
Nilva Pillan: A Flower
Specialist

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

表でタロ氏が呼ぶ。長靴をはいて来いという。鳥の巣かしらと行ってみると、やぶの中に、青白くユリが一輪咲いていた。何てことだ! どうして今まで気がつかなかったのだろう。20数年近く人知れず咲いていたのか?

図鑑で調べても名前はわからずじまい。これは去年の話。そして今年。

前のツツジやマツを大幅に刈り込み、やぶの風通しをよくしたところ、洗面所からよく見えるようになり、愛情深く見守った。虫にやられることもなくますます順調に成育し、つぼみを持った。とその色が少しずつ色づいてくるではないか、桃色に。ありゃー、やっぱりササユリだったんだ。梅雨入り宣言が出された今日、つぼみはうす桃色のミニバナナのように膨らんでゆらりと立ち、期待と喜びを与えてくれている。

Nilva Pillanさんが亡くなった。川崎敏和さんから教えられ、あわててCDO(イタリア折紙普及会)の雑誌69号を見ると追悼特集らしいものが載っていた。すぐ複数人に問い合わせたところ、昨年暮れに亡くなったとのこと。日本でニルバさんを知る人は少ないが、花を専門に折り、彼

女の作品を愛する人は多い。折り方もさる事ながら、全体をコーディネートする才能も発揮しておられた。きれいな小さな紙のお店を経営されていて、私は買い込んだ。イタリアに行けば必ず会える人だったのに。お宅に伺ったあと深い夜霧の中をあたたかい気持ちで帰ったことなど思い出がよぎる。チャオ、ニルバ。

日々膨らんでいくササユリのつぼみをみながら、ニルバさんの笑顔を思い出している。オペラ歌手のミレッラ・フレイニにちょっと似てチャーミング。その笑顔は「折り紙って楽しいよ」と言っている。

電話で川崎さんは言った。「僕、彼女のヒマワリ大好き。いつか紹介したいなあ」

「さかなのオブジェ」作品解説

—魚の形をした矢印—

Behind "The Fish Series": A Fish-Shaped Arrow

北條 高史

Hojyo Takashi

はじめに：「魚(うお)の時代」

2003年の4月中、筆者は或る理由から、1日1時間程度の折り作業を毎日自らに課す生活を続けた。

夜中にただひたすら蛇腹を折る。折る行為それ自体が目的。指先の皮膚が10個の脳となって思考中枢を乗っ取る。

指先だけを残して、体の他の部分が意識されなくなってくる。ふと気がつく、24センチの用紙が64等分蛇腹になっていたりする。"folding high"とも言える状態。

ほかの作品の部分構造を模索するか、手技を上達させるといった長期的な目的をもたず、ただこの瞬間の指先の感覚を味わう。一瞬一瞬に目の前の紙が変化してゆく過程を追う。

そうしているうちになぜか、特に意図しなくても自然に、魚のような形に見えてくる(*1)。こうなったところでやっと、思考中枢が指先から頭に返還される。よりそれらしく見える形状へと、加工し固定されてゆく。

「さかなのオブジェ」と題した一連の作品群は、そうした生活の中で増殖を続けた。新作ができるたびに、ほぼリアルタイムで拙作ホームページ(*2)に掲載していたので、ご覧になったかたもいらっしやると思う。

いま振り返ってみるとこの時期は、自分の奥深くに滞って血管を詰まらせていた固定観念的な形を流し出し、新しい形を循環できる体になる機会だったのかもしれない。

現時点で総勢18匹となる魚たちとその副産物について、この場を借りて紹介し、解説を試みることにする。

作品解説：No.1～4

No.3までの作品は、上記の時期よりも

以前に完成していた。いずれも、これまでにない視点で蛇腹構造を生かしたことに満足している。そもそも、蛇腹から生じる陰影や立体感そのものをデザインの主眼として位置づけた作品は、まだそれほど存在していない(*3)。

ボックスブリーツを基本的な折り線とし、工程の最後に最小限のぐらい折りを用いて完成する。立体的にひらいてまとめ直す工程は、あまり見慣れない用紙の動きかたをしていると思う(*4)。最終的にいくつかのポイントを接着、もしくはねじるなどして固定し、立体的に緊張した状態を維持する。実験的な形状のまま、これ以上の錬成や作り込みは敢えて目指さない。

これまでの自作品では、ぐらい折りによる仕上げの加工を満載するのが常であった。そのためこのシリーズは、筆者自身にも自分の作品と思えないことが時々ある。

これらの作品から考えるに、自分の意識の奥底にある「魚」の基本的イメージとはなにかというと、「進行方向を感じさせる物体」と言えるような気がする。「さかな

のオブジェ」制作当時の筆者にとって、「魚」は「矢印」と同義語であった。

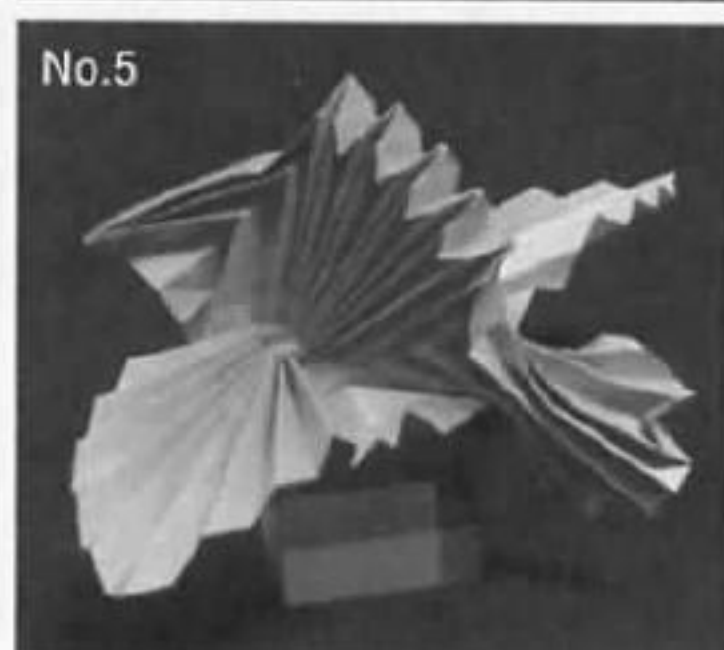
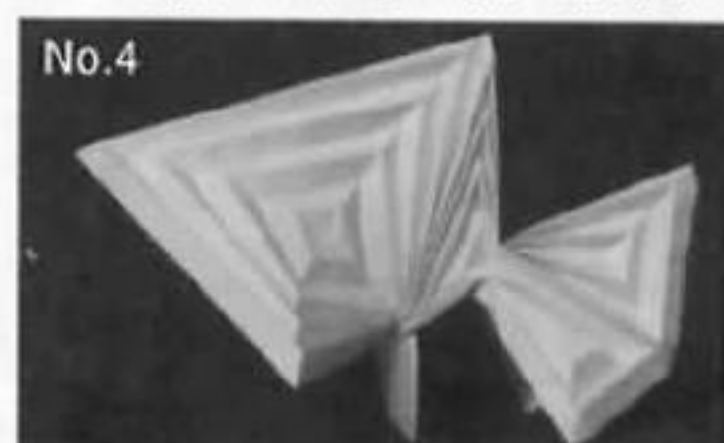
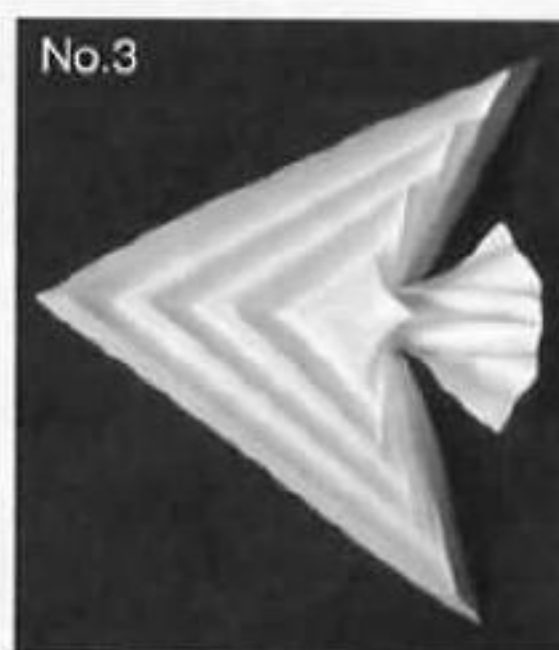
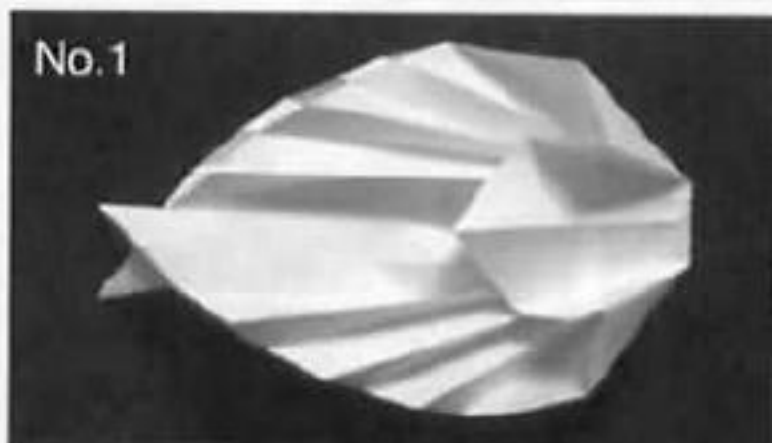
またNo.4では、No.3の構造(*5)を同時に4つ、一枚の用紙に埋め込むことを基本的な方針としている。これにより、独特の表情をもつ曲面が自然に発生し、作品に空間的な広がりを持たせることができた。

現在の筆者には、No.1がマツカサウオ、No.2と3がエンゼルフィッシュ、No.4が金魚として見えている。が、決して鑑賞者の自由な発想を妨げるつもりはなく、見えたとおりのイメージを最優先にしていたきたい。

No.5

筆者はこれまでもいくつか、ミノカサゴを題材とした作品を創作してきたが、このなかで最もミノカサゴらしい雰囲気をもたせた作品になったと思う。

背びれのトゲトゲを折り出すための構造が、そのまま胴体の縞模様を兼ね、胸びれの鬚の構造へ直接つながってゆく。用紙の隠れた部分が少なく、ほとんどの領域が表面に出ているため、折り紙をよく知らない鑑賞者でも「1枚の紙に切り込み



「さかなのオブジェ」作品解説

一魚の形をした矢印

Behind "The Fish Series": A Fish-Shaped Arrow

北條 高史 Hojyo Takashi

を入れずに、折るだけでつくられている」ことを容易に確認できるのではないだろうか。

No.6・7

「放物双曲面」の折り線を1枚の正方形に9個埋め込んだ形態を基本とし、立体的に変化させた。No.6と7の胴体は同一の折り線構造をもち、互いの形状へと変形させることも可能である。No.6はマグロやカツオ等から、重量感とスピード感を抽出した形状としてみた。

No.8

イトマキエイのそのままの形を折紙作品にしようとする、大きなひれが平坦な面となり、作品として魅力ある形状にするのが難しい(*6,*7)。本物の動物の表面は、単純に見えて実は莫大な情報量のかたまりである。筋肉が動けば凹凸や皺ができるし、色彩の自然なムラや模様、傷や汚れもある。興味深い表面となっているのは、これだけの情報量を宿しているからこそというわけだ。

これに匹敵するような印象を作品に内包すべく筆者が選んだ方法は、新たな表面

デザインを身にまとわせることであった。具体的には写真のように蛇腹を縦横に走らせ、縄文時代の火焰型土器のような模様として刻み込んでいる。

No.9・11

No.9の構造はまさに見た目通り、蛇腹を丸めて筒にしたものである。サンマのような尖った印象とスピード感が強調されていて、なかなか気に入っている。

そして同様の筒状構造に、No.2を応用した円形の傘とくびれを生じる加工を施し、クラゲのイメージとしたのがNo.11である。本作はできた時点ですでに、どことなく人物像のように見えていた。

No.10

カブトガニのイメージ。No.11も含め、脊椎動物でない題材が混じり始めたが、あまり気にしないで制作を続けた。独特の半球状のフォルムがポイントとなっている。

No.12~14

対角線方向に蛇腹折りしただけの構造。これは果たして魚なのか?と、誰もが

首を傾げるであろう作品。前衛なのか? 単なるいいかげんな折りゴミなのか? しかし作者はきわめて真面目。これだけでさまざまなイメージを喚起し、さらにNo.13や14のような応用も考えられる、大きな可能性を秘めた構造であると思う。

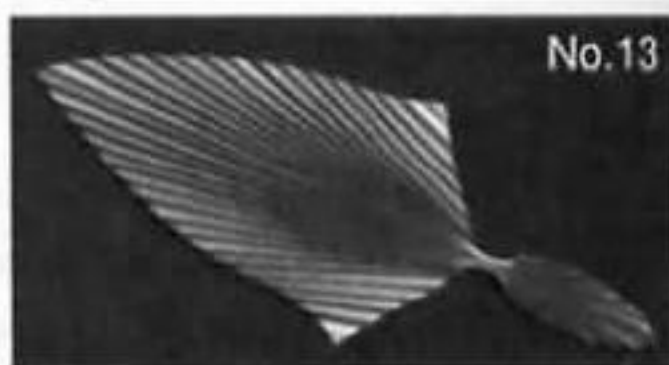
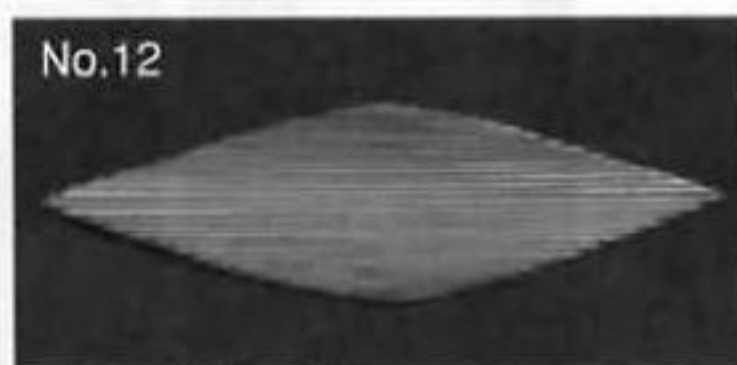
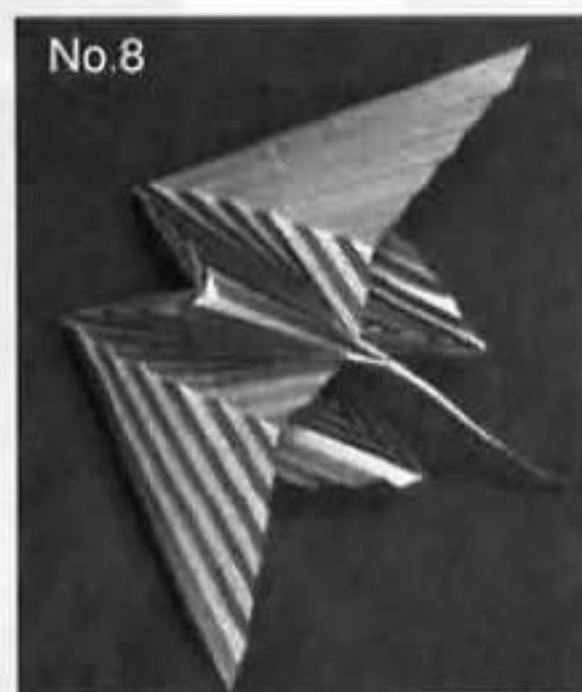
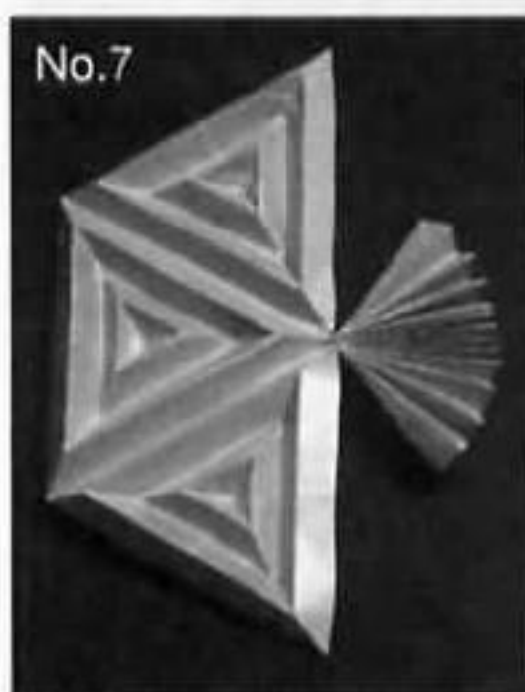
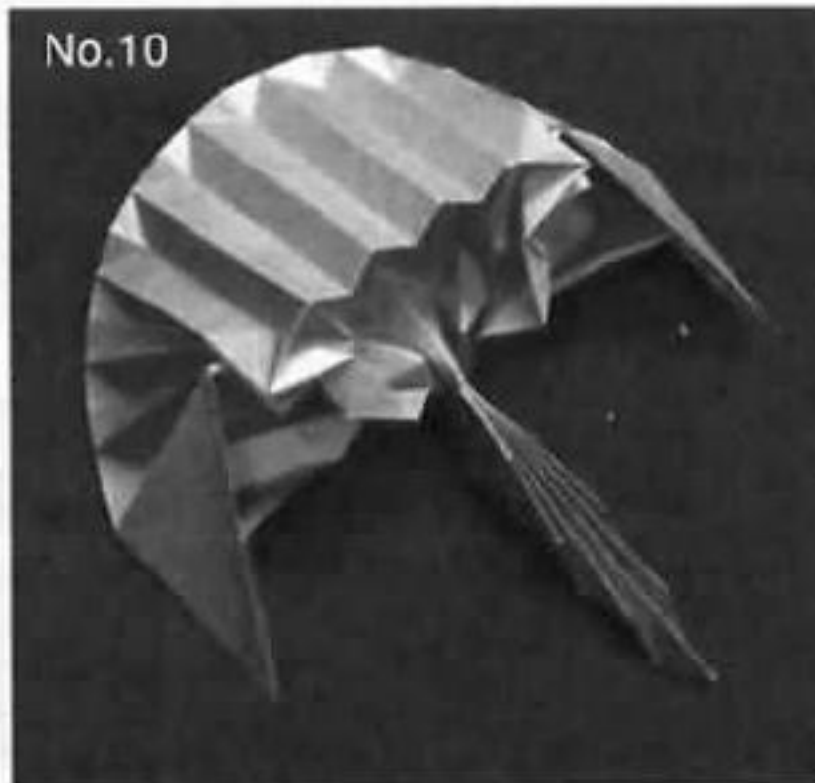
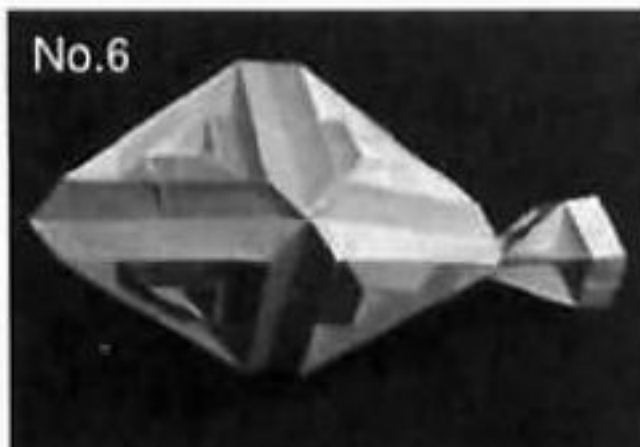
No.15

このシリーズで本作のみ、制作中に「頭の脳」が優位な状態にあり、無理をしても実際の魚の形状に近づけたい、という方向に進んでしまった。シーラカンスとしてデザインしたが、この頭部はほかの魚の部品としても応用がききそうだ。

No.16~18

現時点で最新作となるこれらは、筆者にとってかなり満足度の高いデザインとなっている。

No.16は舌平目のイメージ。おもな折り線は対角線方向の蛇腹のみ。最後に全体を半分折りにして、ヒダの重なりを楕円形に広げる。完成直前までの状態からは予想できなかった形が生じるという意味では、本シリーズ中でも随一であろう。そして、これがひらきかけになった半月形



○北條高史(ほうじょう・たかし)=1973年栃木県生まれ。会社員。1年半前に筑波の製薬研究所から東京へ転勤、現在に至る。背広通勤となったことに伴い、ワイシャツのアイロンがけが趣味となった。



の状態が偶然マンボウに見えたところから、No.17の制作が始まっている。

No.18はウリクラゲのイメージ。花の基本形の上下高を沈め折りで圧縮したところから、蛇腹の重なりを引き出すように展開してみた。有機的なランプシェードといった雰囲気でもとまっている。

副産物:人物造形群

No.11がロングスカートのように見えたところから発展した「バイオリン奏者」は、本誌前号に写真と展開図が掲載されている。ボックスプリーツを基調とした自作人物像で、頭部を用紙内部から引き出したものはこれが初めてかもしれない。

さらにバイオリン奏者の胴体に、蛇腹折りから自然に導き出される「翼」を融合したらどうなるか、という実験が「ニケ」である。翼と胴体の連結部分に生じる襷も、デザインの一部として活用している。

そして、No.18が筋肉のように見えたところから「トルソ」に発展した。トルソ(胴部像)と呼ぶには腕が長すぎるが、これはこれで作品としてまとまったのではなかろうか。筆者には非常に日本的な筋肉に見えるが、このような胴体をもつ金剛力士像

や風神・雷神ができたらしおもしろいのではないか。

まとめ

特に目的も持たず、指先のおもむくままに吐き出し続けた「さかなのオブジェ」シリーズ。この制作を通じて、以下のようなことが漠然と感じられるようになった。

・制作を重ねるなかで、ぐらい折りの割合が減少し、より自然な技法を多用するようになったにもかかわらず、完成形がより有機的なデザインへと変化している(特にNo.16や18)のは予想外のことだった。これまでの創作では安易にぐらい折りを使い、目的とする形態を直接目指すことが多かったが、時間をかけて偶然の形と出会うのを待つことにも興味がわいてきた。

・蛇腹に関しては以前から、曲面や立体感などを表現するのに適していることを認識していた。が、蛇腹特有の用紙の重なり・厚みが生じやすく、これをうまく使いこなすことに苦勞し、苦手意識を抱いていたのである。しかし今回、「バイオリン奏者」頭部や「トルソ」のような造形ができたことから、厚みを処理する方法のヒントをつかめそうな気がしてきた。さらに、多数のカド

を折り出す構造と、優雅な陰影をもつ部品を自然な形で融合させることも、今後可能になってゆくのではなかろうか。

*1 自分の奥底に、魚をつくりたいという欲求が潜んでいたのか? それとも、どんなものでも無理矢理魚に見立てることが可能なのだろうか? いまだによくわからないが、必ず最終形は魚だった。

*2 「北條高史創作折紙作品集 現代折紙」アドレスはwww11.ocn.ne.jp/origami/マイペースで更新中。

*3 筆者の知る限りでは、Eric Joisel氏の「ハリネズミ」や「カタツムリ」、布施知子氏の「HANA」などがこの分類に入ると思われる。

*4 No.1と2の折り図は『折紙探偵団コンベンション折り図集vol.7』に掲載。

*5 風船の基本形の上下高を、複数回の沈め折りで圧縮したもの。これを半開きにした状態は「放物双曲面」と呼ばれることもある。

*6 川畑文昭氏と吉野一生氏が以前、それぞれに魅力的なイトマキエイを創作されたのを見たことがある。作品の設計的な構造だけでなく、両氏の卓越した手技をもってはじめて実現し得たものであろう。

*7 このような状況に際して、西川誠司氏は『をる』第4号で、「無防備な平面を避け」るために「恣意的な折り」を加える、という表現をされている。

No.14



No.15



No.16



No.17



No.18



ニケ

トルソ



数理を 楽しむ

オリガミクス

芳賀和夫

Let's Enjoy Math through Origamics
Haga Kazuo

○芳賀和夫(はが・かずお)♂=1934—
風邪気味でかすれ声だったにもかかわらず
野外で、大勢の子ども相手に大声を
張り上げていたら、突如、声が出なくな
りました。耳鼻咽喉科で治療を受けまし
たが、まる1週間、電話が掛けられず、面
談は筆談でした。声帯が腫れると鼻唄も歌
えないことを発見しました。

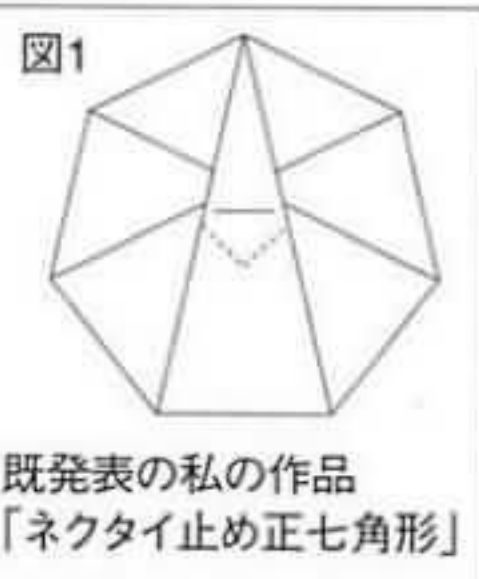


第14回 コピー用紙で正七角形

Regular heptagon from a single sheet of standard sized rectangle paper.

この連載では、素材としての正方形の紙をひらがなで「おりがみ」、それ以外の意味合いでは「折り紙」と書くことにします。

正七角形としては、正方形おりがみを使って、上辺中点を頂点とする正七角形と正方形に内接する最大の正七角形のそれぞれを折り線作図する方法に加えて、中にメッセージを書いたりメモをいれたりできる「手紙折り」の「ネクタイ綴じ正七角形」作品をすでに発表しました(芳賀1999、「オリガミクス①」日本評論社:90-98)。この作品(図1)は誰も注目してくれないので(?)、今回は、A4などの規格長方形用紙での正七角形作りを披露して批判を仰ぎたいと思います。



格長方形用紙を横置きにします。a:左右の短い辺の中点に小さい印を付けます。辺の端と端を合わせて中央をごく短く爪で押すようにします。b:その中点に対辺の上の頂点を重ね、上下の紙の合わせ目(辺の交点、矢印)を下の紙に印します。このとき、中点と合わせ目の間にたるみがないようにぴったり押さえれば、紙を折らずに印をつけることができます。c:もう一方のサイドでも同様に印を付けます。d:上辺の中点に印を付けます。e:上辺中点を支点にして紙の右側をやや斜めに左方に移動させ、移動した右辺が上記の印を通る位置で紙を折ります。上辺中点を外していないことを確かめてからしっかり折り線が付くようにつめを使って折ります(太線)。f:もう一方のサイドでも同様に折り、折り線がついたら開けます。g:上辺の右半分を、左側の斜線に重ねて紙を折り、h:さらに折り線に合わせて折り戻します。i:もう一方のサイドでも同様に折り、折り線がついたら開けます。これで紙を開けば、上辺中点で平角が7等分されていることが分かります。

正七角形にするのは簡単!

こうしてできた平角の7等分線を使って正七角形を折り線作図するのは簡単です(図4)。a:線を間違わないように図には線の番号を付けておきます。b:③線に下辺右の部分を重ねて折ります。c:その折り返しに②線の一部が現れているので、紙の右部分をそれに重ねて折ります。d:①線で上部を折ります。e:左側も同様に④線に下辺左部分を重ね、折り返し部分の⑤線の部分に合わせて紙の左部を折り、最後に⑥線を折れば正

180°を7等分するには?

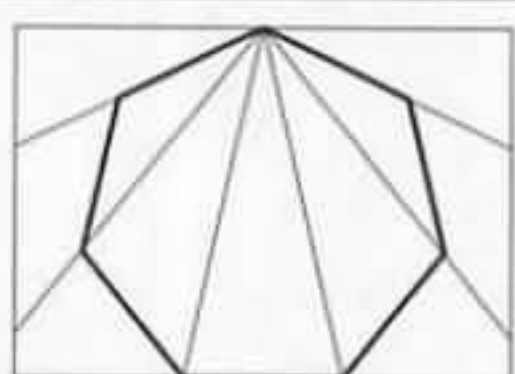
今回の正七角形づくりのポイントは平角(180°)を7等分するところにあります。もちろん素手でやるというのが基本です。まず電卓で割り算をしてみます。

$$180^\circ \div 7 = 25.71428\ldots$$

液晶窓には数字が並びます。小数5位を丸めて4位まで書くと25.7143°です。この角度を比較的簡単な手順で、できるだけ正確に作ることを最初の目的にしました。

私のやり方は試行錯誤です。素手でとれるいろいろな長さをもとに、紙を折り、7等分の分角線を扇のように畳んで重ねたときにずれが生じない折り方を探しました。また、標準サンプルとして、図形ソフトで正確な正七角形と対角線で平角の7等分線になるものを作図しておき(図2)。これに、素手で作る線を重ねて精度

図2
平角7等分と
正七角形標
準図形



を調べました。

耳鼻咽喉科の待合室で

手順が複雑だったり、精度が思わしくなかったり、コピー用紙を折っては丸め、また試しては引き裂き、屑籠をいっぱいにしなから電卓片手に試行錯誤しました。

以前の号で、新幹線など乗り物の座席は知的生産の格好の場であると書きましたが、もう一つ、病院、医院の待合室も仕事場になります。6月中旬、今まで、定期的に通っている内科、眼科、歯科に加えて耳鼻咽喉科にも通うことになりました。時間予約制ですが、2~30分待たされるので、A5の紙数枚と鉛筆と関数電卓を持って行きました。その時、待合室でひらめいた方法は手順といい、精度といい申し分のないものでした。ぐずる幼児の泣き声も順番を告げるナースの声も聞き逃すほどに、検算に集中していました。

では、その発見を紹介しましょう。

平角を7等分する

図3がその手順です。A4でもB5でも規

図3 平角7等分線(太線)の折り手順(a~i)

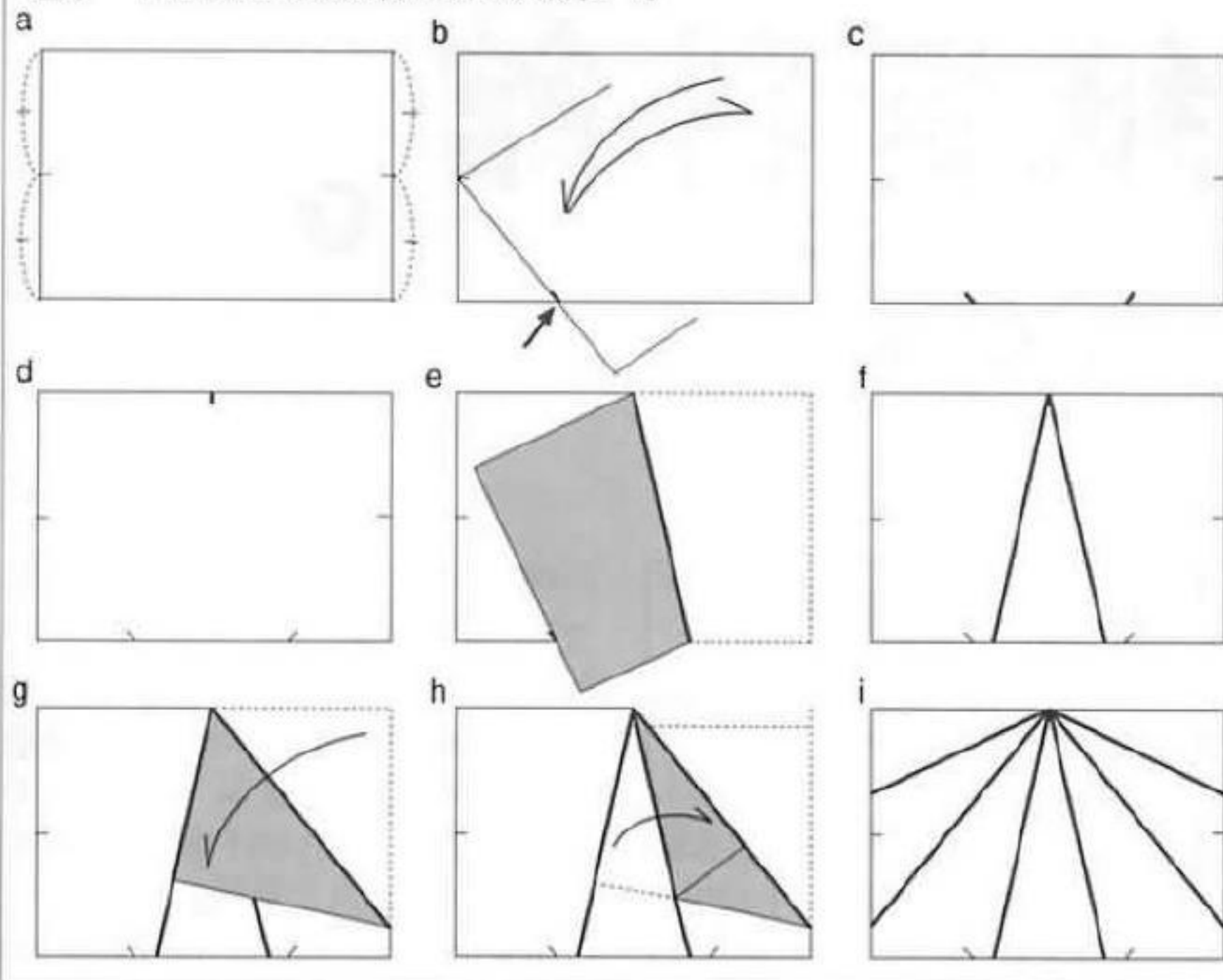
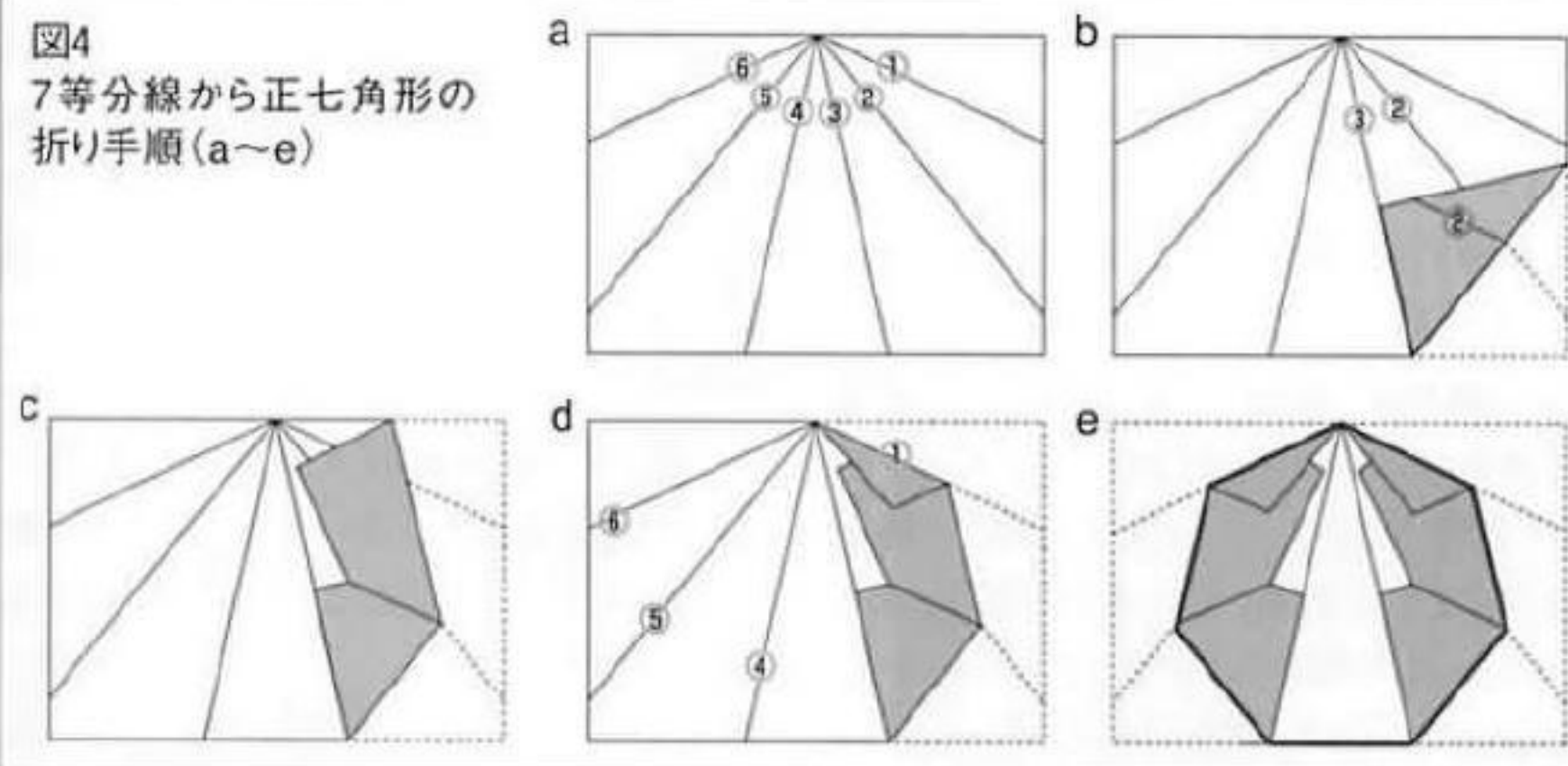


図4 7等分線から正七角形の折り手順(a~e)



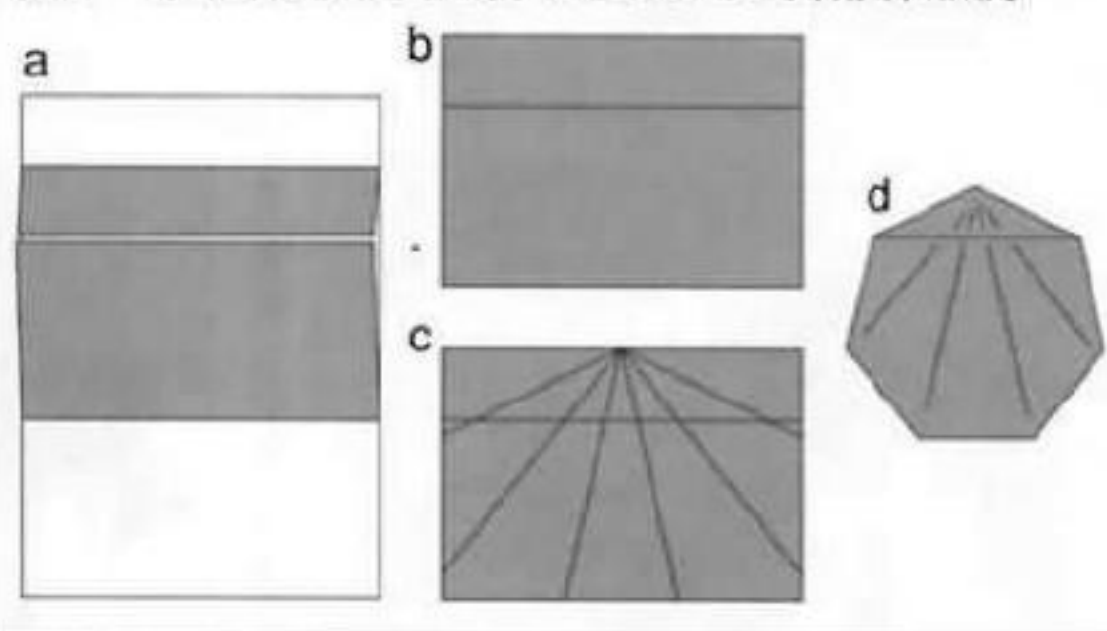
七角形ができます。

前回、正五角形でやったのと同じように、別の紙にできあがった七角形の輪郭を描いて、角を1つずつずらしながら正確度を調べます。かなりの正確さに嬉しくなるでしょう。なお、これは用紙内で最大の正七角形です。

「作品」にする場合には

図5のように用紙を縦置きにして、ちょうど二重になるように折ります(a)。合わせ目の位置は適当なところとしておきましょう(b)。規格長方形は半分に折っても縦横の比1:√2は変わらないので、図3と同様の手順でこの2枚重ねのまま平角を7等分でき(c)、正七角形を作ることができます。それを「実」と「ふた」にしてう

図5 規格長方形二重折りによる正七角形作品例



まく綴じるとできあがりです。平面図形ながら途中に開く口があるため、状差しや造花の一輪挿しに応用できます。図5dのように、ちょうど上部の対角線の位置にこの口がくるようにするには、最初の合わせ目を用紙の上部7分の1くらいにします。この折り方の解説には何枚もの折り図が必要で、ページには収まりません。

興味のある方はメールください。

7等分角の数理

平角7等分折りの計算をします。今回の折り方のポイントは図3eにあります。このとき、折り返した左辺が下辺と交差する交点の位置をFとして紙を広げた状態が図6です。CEが7等分線の1つになるので、角 $[\beta + \gamma]$ を計算します。なお、小数5位を丸めて4位まで書きます。D点から上辺に降ろした垂線の足をGとし、長方形用紙の短辺を1、長辺を√2とすると、

$$AG = \frac{2\sqrt{2}}{7}$$

(縦置き規格長方形の第1定理折り)

$$\text{したがって、} CG = \frac{3\sqrt{2}}{14}$$

この長さからアークタンジェントで角 α が求められます。

$$\alpha = 73.1408^\circ$$

△CGDにおいて、斜辺CDは三平方の定理により

$$CD = \frac{\sqrt{214}}{14} = CF$$

この長さからアークコサインで角 β が求まります。

$$\beta = 47.4125^\circ$$

ところで、CEは角DCFの二等分線なので、

$$\begin{aligned} 2\gamma &= 180^\circ - (\alpha + \beta) \\ \gamma &= \frac{180^\circ - (\alpha + \beta)}{2} \\ &= 29.7234^\circ \end{aligned}$$

$$\therefore \gamma + \beta = 77.1358^\circ$$

折り方の手順ではこの角度を3等分しているので、3で割ると、

$$\frac{77.1358^\circ}{3} = 25.7119^\circ$$

これは平角を7で割った角

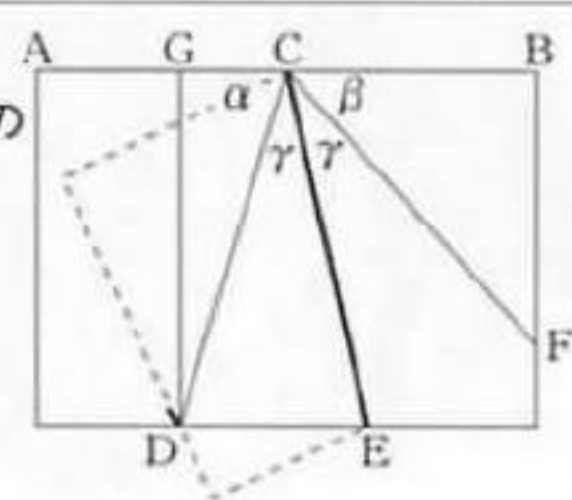
$$\frac{180^\circ}{7} = 25.7143^\circ$$

の99.9909%に当たり、ほとんど誤差を感じさせません。

ん?これも手品になるかな?

(問い合わせ先: hagak@hi-ho.ne.jp)

図6 平角7等分の数理



折り紙資料館

7

Takagi Satoshi's the Origami Reference Room

高木 智

Takagi Satoshi

歌麿画「浮世忠信蔵 十一段目」と芳虎画の
大判浮世絵2枚続き"Ukiyo-ChushinGura Act. 11" by Utamaro and A Series of Two Large
Ukiyo-E's by Yoshitora

松本市の「日本浮世絵博物館」で「虫籠と男女」を扱ったポスターを発見して以来、喜多川歌麿の「折り鶴」を扱った錦絵は30点を確認しており、その意味では今更の感がなくもないが、実はその圧倒的な数とはうらはらに、その実物を見ることは意外に少ない。殊に、これまで手元に史料の収集を続けてきた者としては、浮世絵に歌麿の作品が皆無ということは、気になるころではあった。

たまたま、今般、新発見の歌麿作品を入手することになった。これを機会に、これまで確認してきた歌麿の作品群を整理しておきたい。特に注記なきものは、大判錦絵である。

まず、圧倒的に数の多いのは、言うまでもなく、着物の柄に描かれたものである。なかでも、今回入手した「浮世忠信

蔵(ママ) 十一段目」にもあるとおり、振袖の袖や着物の下半身に、十羽程度が散らされているものである。この部類に属する作品としては、「高名美人見たて忠臣蔵 十段目 糸ひすや」「實競色乃美名家見(じつくらべいろのみなみ) 鬼蔦屋 薊野(おにつたや あざみの)」「合せ鏡(仮)」「松東庵(しょうとうあん)」「中田屋」(この2点はまったく同じ図柄)「見立て源氏物語 夕顔」(『古典にみる折り紙』26ページ参照、以下『古典』と略す)「遊君七小町 鶴屋篠原」などがある。また、松や梅花、あるいは正月の縁起物などとともに描かれたものに、「春興見たて狐けん・狐」「浅草寺巖の市雷門風景」「風流子寶船」「琴瑟書画(きんごしょが)」「浄瑠璃本時鳥(ほととぎす)夢路の恋 お七 吉

三郎」「七五三子寶合・髪置之図」(見立)初夢」などがある。

次に、図柄がやや大きく、折り鶴が数少なく描かれているものとして、「青楼絵本 年中行事」(半紙本 上下2巻)の子供(3箇所)にありや、「相合傘」妹背山」などがある。

歌麿の一つの特徴は、「折り鶴紋」が多いことである。「新製五色墨 娘形」「二葉草七小町 清水小町」「虫籠男女」(『古典』27ページ参照、「虫売り」と男女)「虫売り」と娘)とも、「風流四季の遊 玄英の雑司ヶ谷詣」「若衆の舞」春興七福遊 福びき(『折るころ』37ページ)など、若い女性の着物に描いている。特に「子ども遊び大名行列(初夢)」「美人五十三次・三島」など、書き初めや初夢にちなんだ絵には、若衆と思われる美男の着物にも描いている。ただ、「江戸名物錦画耕作 礬水(どうさ)引き」など、女性が仕事をする場面に二人まで紋付の着物を着せているのは不思議である。



◀「浮世忠信蔵 十一段目」部分図(全体写真21ページに掲載)



◀「遊君七小町 鶴屋篠原」



◀「春興見たて狐けん・狐」

○高木 智(たかぎ・さとし)＝昭和10年6月10日
京都市生まれ。京都大学教育学部卒。昭和42年頃
荒木京子に師事、折り紙を始める。現在日本折紙協
会理事。著書に『古典にみる折り紙』他実用書多数。



では、肝心の「折り鶴」そのものの図で
あるが、一つは「書初」(『古典』26ペー
ジ)のように、禿が海へ流そうとしている
もの、もう一つは、艶画の中で、処女であ
ることを示そうとしているもの、たとえば
肉筆の「名品つぼみ図」(『古典』28ペー
ジ)、『艶本多歌羅久良(えほんたからく
ら)』(半紙本3冊)などに描かれている
ほかは、実際に折っている図は未見で
ある。

ところで、歌麿の「折り鶴」の図柄は単
一化されているものが多い。下腹の横
一線部分から縦に6本の直線が描かれ
て、それが、向こう側の羽、首、手前の羽
の裏側(したがって、真ん中に1本筋が

ある)、そして尾へと枝分かれしてい
くので、首や尾は羽とは独立したものとし
て描かれる。羽は背の高さで折れ、以
後表を見せて左右へ伸びる。しかし、
それらが不思議に違和感を伴わず安
定しているのはさすがである。



今回、もう一点紹介しておきたいの
は、歌川芳虎の作品である。彼は、国芳
の門人で、作画期は天保から明治とい
われている。この図は、「芳虎画」とある
のみで、題名もなく、2枚続きなのか、あ
るいはもう一枚あって、そこに外題が記
されているのかも不明で、いささか心も

とないが、図柄は源氏絵で、国貞の『修
紫田舎源氏』の爆発的人気によって描
かれたもので、製作は幕末と思われる。
ただ、「折り鶴」をはじめ「奴(薦僧)」「宝
船」「荷舟」など定番の作品の他、「蛙」
「三方」「折据え」さらには「兎」などと、か
なりの作品が記されていることに注目し
たい。しかし、明治になって入ってきた、
フレーベルの作品らしきものはまだ含ま
れていない。

芳虎には別に「蘆雁」という作品があ
り、家蔵しているが、これには着物と羽
織の両方に「折り鶴」の五つ紋が描かれ
ている。



▲「二葉草七小町 清水小町」



▲部分図

▶「芳虎画大判浮世絵」左図



◀「艶本多歌羅久良」より
部分図



◀「芳虎画大判浮世絵」右図
部分図

やっぱり 折紙散歩

Origami Sampo Indeed

I attended the Origami Tanteidan Kansai Convention in Kyoto. Between classes and the party, I digressed from the convention and strolled through the town to research materials of this page. And then, I found an iris named Orizuru (paper crane), paper cranes dedicated to a statue of Kaguyahime (a beauty in old Japanese fairy tale) in a strange bamboo architecture.

1994年、平安神宮神苑・臥龍橋にて。
(Photo by P. Engel)

会期大作戦

Mission Inappreciable

会抜け男

本誌前号にもレポートがあったように、5月に京都で折紙探偵団関西コンベンションが開催された。わたしも参加したのだが、両日とも数時間会を抜け出して、折紙散歩物件を調査しに行くというハードスケジュールをこなした。散歩なのでハードもへったくれもないと言われれば返す言葉がないが、会場が京都駅の目の前というロケーションであつたらばこそ、講師をこなし懇親会に参加しながらも取材にでかけられた、ということである。

まずは、この季節でないと見ることができないもの、前々から見たいと思っていたものを見た。平安神宮神苑の、その名も「折鶴」というカキツバタである。光格天皇遺愛ということだが、「折鶴」という名を誰がいつ付けたのか、後世のものなのか、天皇自らによるのかは不明である。ただ、光格天皇の在位期間は1779~1817年なので、折鶴が普及した時期(『秘傳千羽鶴折形』が1797年)にぴったりと重なっているのは興味深い。誰が名付けたにせよ、たしかに折鶴に似ている花である。なにより、花卉(注)のかたちが折鶴の羽の比率にきわめて近い。どれだけ近いのか、思わず図にして確認してしまったほどである。問題は「羽」が3枚あることだが、そんなことを気にしてはいけな

白い顔

京都には他にも折鶴がたくさんある。中でも異色なのが、洛西・松尾の「かぐやひめ御殿」である。塙奈都子さんが情報誌で発見したもので、「折鶴祈願」を呼び物のひとつにしている。御殿? そう、御殿である。神社でも寺でもないのである。なんだかわからないところだったが、行ってみた。…御殿だった。

タイル状に小さく切った竹を埋め込んだモザイクの壁。節が亀の甲羅を思わせる亀甲竹を使った手すり。骨組みが放射状になったいわゆる傘天井。金閣寺を模したその全容。すべてが竹である。かぐや姫御殿。それは、竹細工と金閣寺に魅入られた職人・故長野清助氏が四半世紀の歳月をかけて作りあげた作品だったのである。

フランス東南部の街オートリーブに「シュヴァルの理想宮」と呼ばれる建物がある。また、かつて東京深川に「二笑亭」という建物があった。前者は、今から100年前、建築を専門に学んだわけではないフランス人、フェルナン・シュヴァル氏が、30年の歳月をかけ、たったひとりで作った、異形の石の宮殿である。後者は、二笑亭主人こと渡辺金蔵氏の、どこにも通じない階段や開かない扉などに満ちた、昭和のはじめ頃の奇っ怪な建物で



筆者紹介=東京生まれ。折り紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。



平安神宮神苑のカキツバタ「折鶴」
Iris named Orizuru (paper crane)
at Heian Jingu Shrine

「折鶴」の花弁と折鶴の羽の比較
A Comparison of the Petal of "Orizuru" with the Wing of a Paper Crane



ある。両者に共通するのは、建築者が自分の頭の内部を表現しているかのような小世界、夢の中を思わせる濃密な空間であるということだ。かぐや姫御殿は、そうした系譜に属する、すばらしく奇妙な建物だったのである。

その建物の中に、白い顔をした彩色のかぐや姫像が鎮座していて、そこが折鶴奉納場所になっているわけである。独特な建物の中に、これまたなんとも言い難い雰囲気のかぐや姫の像。折鶴奉納のいわれなんかどうでもよいという感じになる。で、見ると、いわれなんかどうでもよいという思いを見透かしたのかのように、「折鶴祈願は、かぐや姫御殿におまいりの方々により自然発生的に生まれたものです」と書いてあった。なんじゃそりゃ。無理矢理の伝説をつくっていないのは誠実とも言えるけれど…。若干の脱力を覚えながら、奉納料100円で折鶴を奉納してきたわたしである。紙に願いを書いて折鶴を折るというかたちだ。願いは「折紙界の発展」としたが、かぐや姫が聞いてくれる願いなのかはわからない。



「かぐや姫御殿」 折鶴祈願がある。
"Kaguyahime Palace"
There is invocation custom using paper cranes.

京都で買います

その日は、珍なるものを見た感謝を神に伝えるべく、かぐや姫御殿の近くの松尾大社にも寄ってみた。松尾大社は酒の神様なので、神前に多数の酒樽が捧げている。神の導きか、かぐや姫の御利益か、ここで折鶴マークの酒樽を発見した。神戸酒心館(旧・福寿酒造)の福寿という銘柄である。謹製という文字と組み合わせられた印鑑のような図案で、折鶴デザインとしてあまり見かけないものだ。それだけではない。神社には酒の資料館も併設されているのだが、ここには「折鶴」という酒のラベルがあった。同名の銘柄を造っている服部本家酒造(注)のものと思われるが、現在流通しているラベルとは異なっている。普通のひとにはどうでもよいが、わたしには大きな収穫であった。

というわけで、平安神宮神苑、かぐや姫御殿に松尾大社、その他に、山科の喫茶店「おりづる」にも寄って、駆け足ながらも充実した京都散歩だったわけだが(かぐや姫御殿の隣には世界文化遺産の苔寺や風雅な鈴虫寺もあるが、こちらは通り過ぎた)、京都は折紙散歩的にまだまだ実力を隠した街である。そんな京都の実力の一端を垣間見せるもののひとつ、これもまた塙奈都子さんが見つけたものだが、折紙者向けの京都土産を最後に紹介して、しめくくることにしよう。

それは、昆布である。いわゆる「おやつ昆布」というものだが、引き出物用だろうか、折



清酒「福寿」の酒樽
A wood of Sake "Fukuju"

折紙辞典

花卉

花びら。折鶴の基本形を折るさいの、羽にあたる部分を開いてつぶす折りかたを「花卉折り」という。これは、英語起源(Petal Foldの日本語訳?)の用語と考えられるが、鳥をつくる過程で花びらをつくっていることになり、生物学的(?)に見て面白い。折鶴の基本形から花の作例は少ないが、そのような作品と折鶴を並べた場合、鳥の羽と植物の花葉が、クジラの前ビレとヒトの手のような相同器官(形態や機能は異なるが、発生の起源が同じ器官)になっていると言える。

服部本家酒造

岡山県牛窓にある酒造会社。「折鶴」という吟醸酒を造っている。名前に鶴を含む日本酒の銘柄は多い。そのことと、折鶴の縁起のよさから、沢の鶴、大正の鶴、千代鶴、高砂、新婚など、ラベルに折鶴を使った銘柄も多い。なお、「折鶴」は、キャップに折鶴がデザインされているが、ラベルに折鶴は描かれていない。

鶴のかたちをしているものがあるのだ。五辻通りと千本通りの角にある「五辻の昆布」という店の品である。創業明治35年というから、京都にしてみればそんなに古くはない店、そして品なのだろうが、ありそうでなかったモノである。



「五辻の昆布」の昆布
Kombu (tangle) of
"Gotsuji-no-Konbu"

コンベンション直前、夏真っ盛り。掲載作品も夏ならではのパワフルなものが集まりました。



「犬」作：小松英夫 (P.22)

Dog : Komatsu Hideo (P.22)

■小松氏による、ほのぼのしたデザインの「犬」が折り図ページに登場。一昔前によく見かけた生粋の日本犬のイメージに、心奪われる人も多いはず。夏の庭先、妻わら帽子にランニングシャツの少年、縁側、朝顔、蝉の声…周囲の風景まで鮮やかに蘇ってきます。



「浮世忠信蔵 十一段目」(大判錦絵) 喜多川歌麿 画
高木 智 蔵 (P.16)

"Ukiyo-Chushin Gura Act 11" by Kitagawa Utamaro,
a Collection of Takagi Satoshi (P.16)

■以下、高木氏による解説です。

歌麿が描いた「折り鶴」は30点あまりを確認したが、大首絵は未見である。本図は「仮名手本忠臣蔵」の「討入り」に見立てて、深夜、お高祖頭巾に振袖の娘が、恋人の家へ駆け込んでいるところ。袖の「折り鶴」柄は、歌麿定番の図である。「忠信蔵」という銘題は、洒落か。

「ニルバさんのひまわり」作：ニルバ・フィーナ・ピラン／
「正方形による表現『蕾』」作：ジニー・モズリー (P.8)

Nilva's Sunflower : Nilva Fina Pillan,
Square Based "Bud" : Jeannine Mosely (P.8)

■今回の我楽多市は植物を題材にした2作品。同じく立体的な表現を目指しながら、それぞれに特徴的な完成形となっています。





「アマリリス」

6枚組み・正4面体型(赤)
12枚組み・正8面体型(紺)
12枚組み・立方体型(緑)
30枚組み・正12面体型(青)
30枚組み・正20面体型(黄)
作：川村みゆき(P.4)

Amaryllis

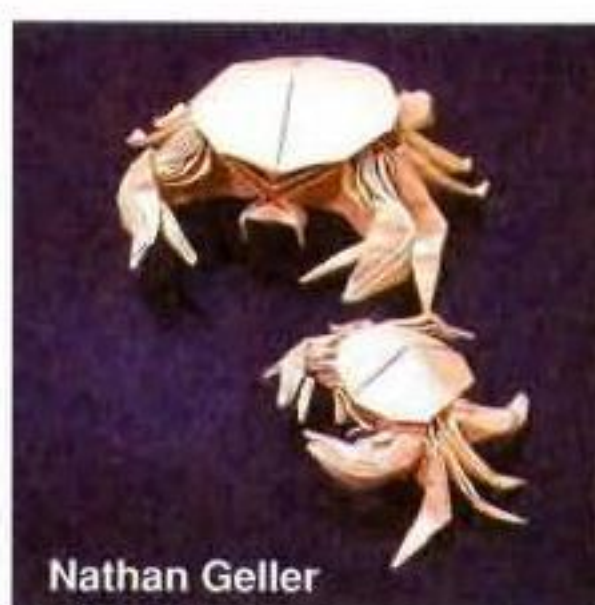
6 Units Tetrahedral Model (Red)
12 Units Octahedral Model (Dark blue)
12 Units Cubic Model (Green)
30 Units Dodecahedral Model (Blue)
30 Units Icosahedral (Yellow)
: Kawamura Miyuki (P.4)

■使用するパーツの数と組み方によって、さまざまに表情を変えるユニット。作品にあいた穴までもが重要な構成要素となり、風通しの良いイメージに仕上がっています。作例のように表裏の色の異なる用紙を用いると、さらに魅力がアップ。



Robert J. Lang

▲思わず追い払いたくなるほどの生命感



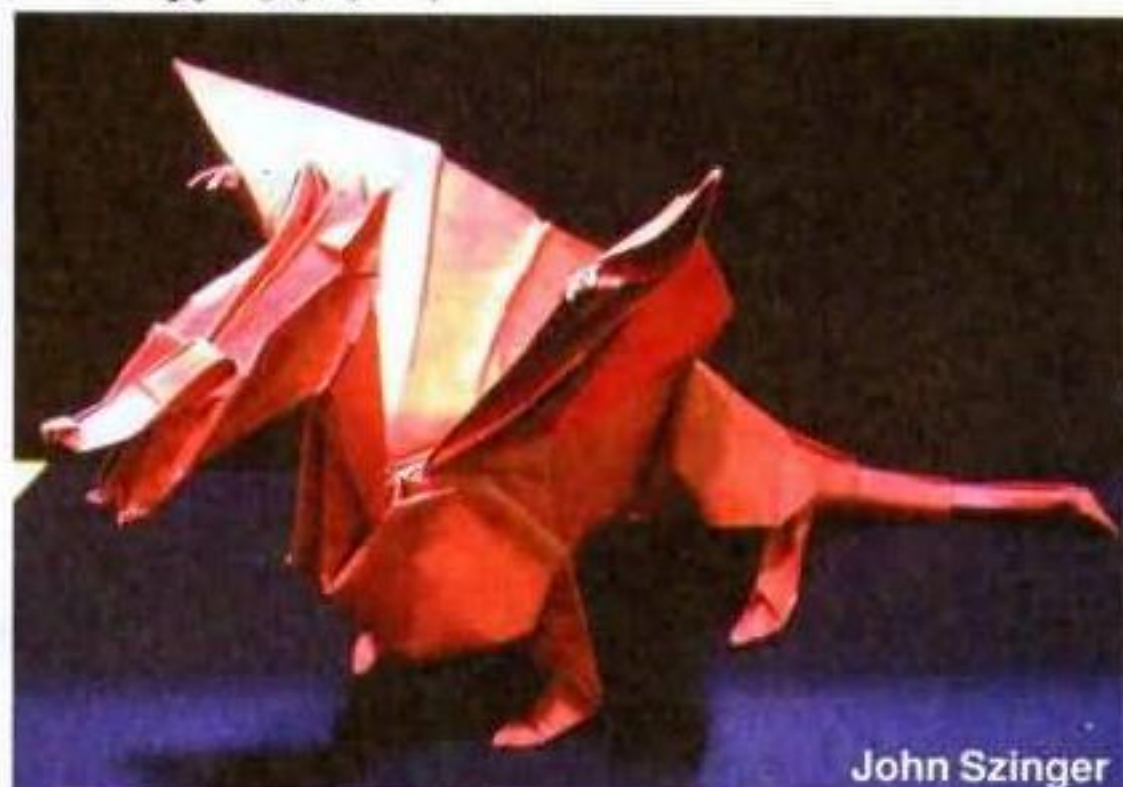
Nathan Geller

▲食べられる…?



Jeannine Mosely

▲昨年の吉野一生基金招待者の新作



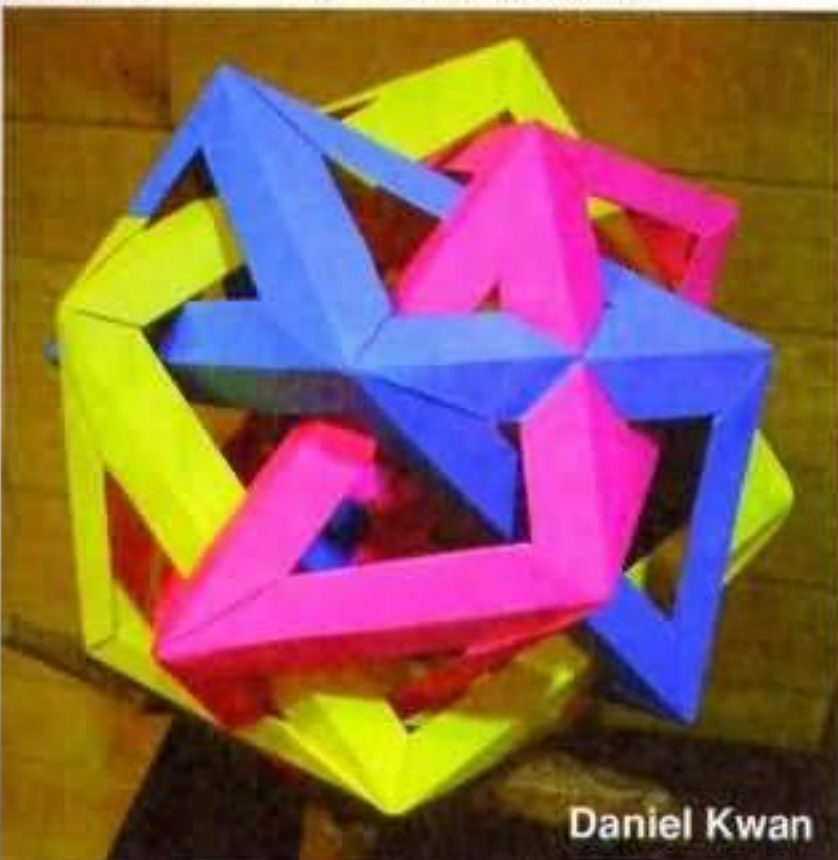
John Szinger

▲国内外を問わず、人気の高いモチーフ



John Blackman

▲植木鉢まで折り紙



Daniel Kwan

▲どこがどうつながっているのやら…



Giang Dinh

▲魅力的な曲面の人物造形



Jason Ku

▲期待の若手、急成長中

OrigamiUSAコンベンション 展示作品より(P.37)

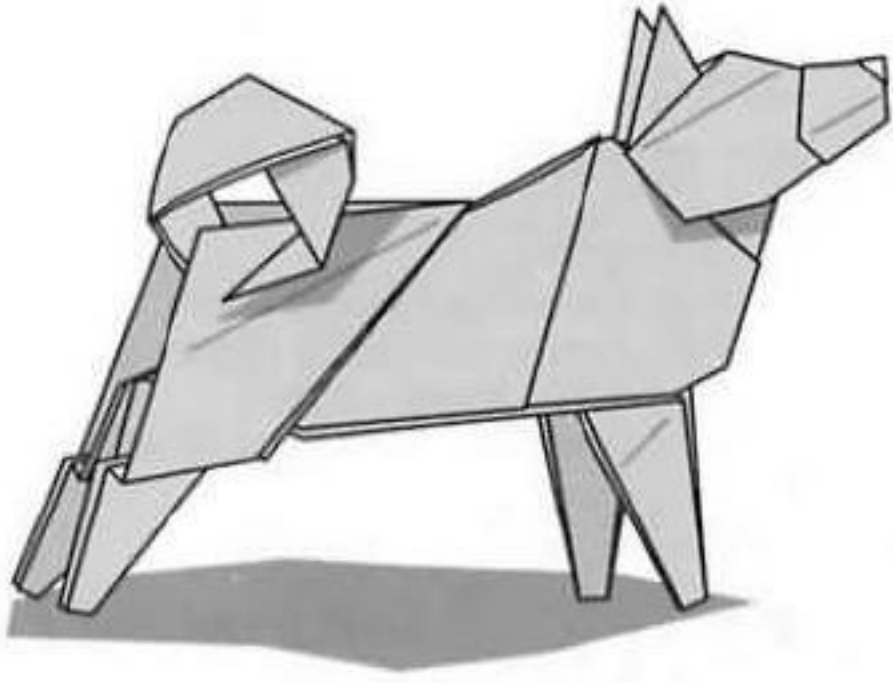
Exhibited Models at the OrigamiUSA
Convention (P.37)

■6月27日～30日まで開催されたOrigami
USAコンベンションから、目玉作品の一部を紹介
します。

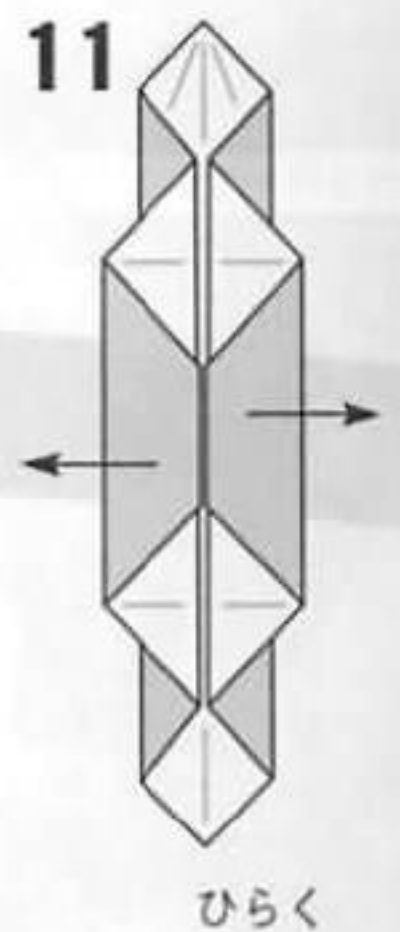
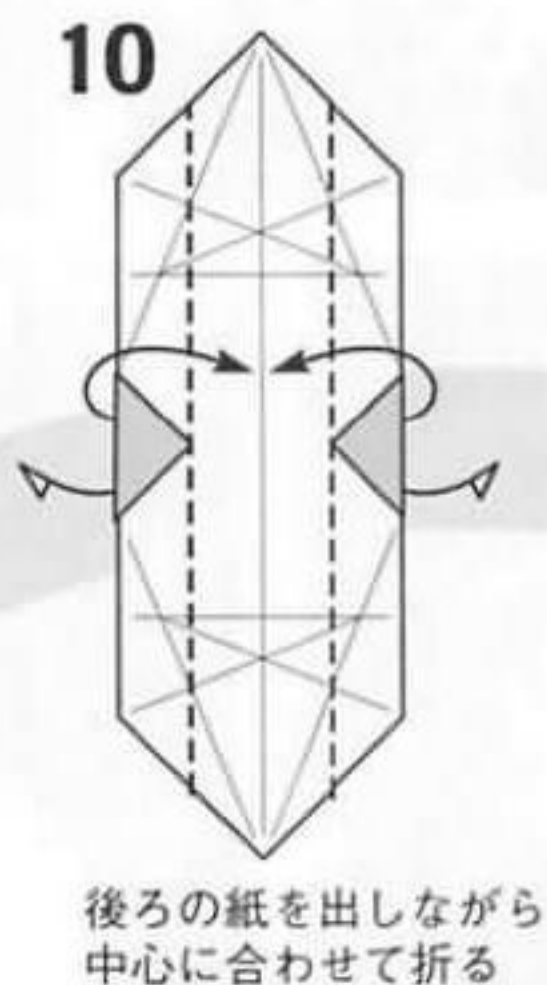
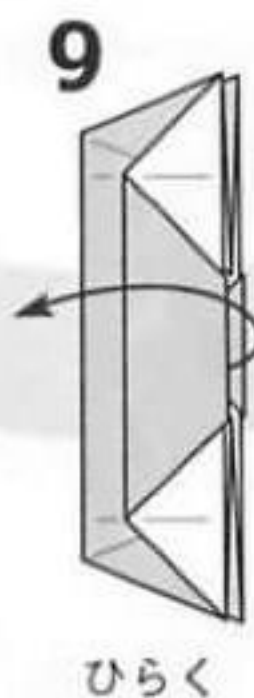
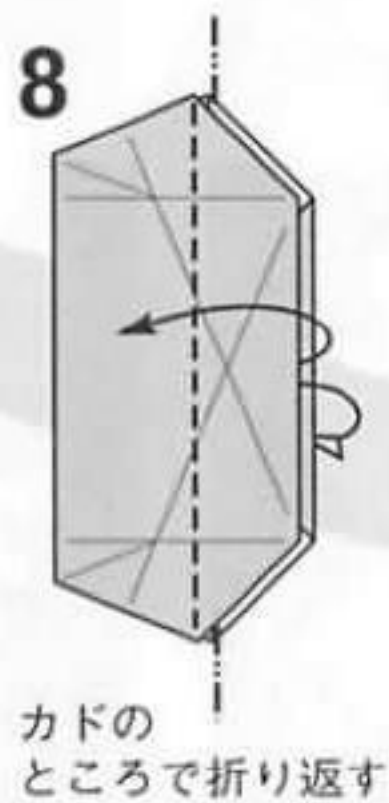
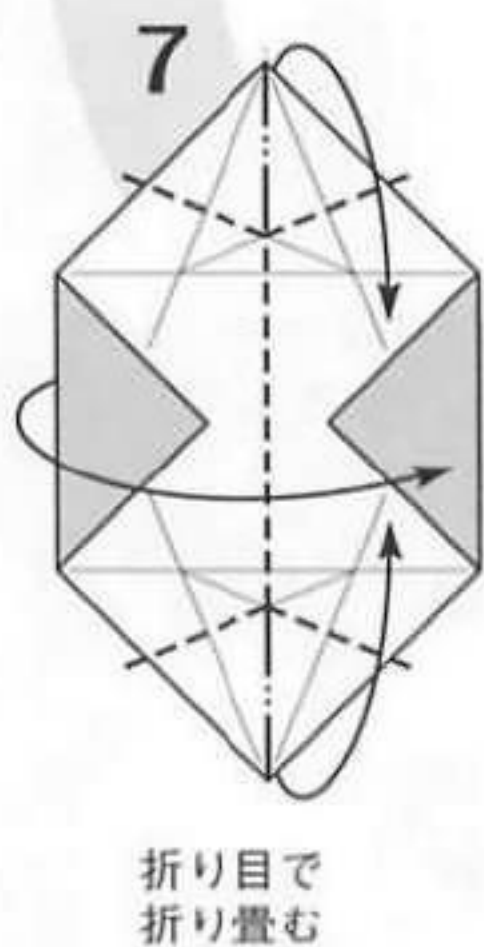
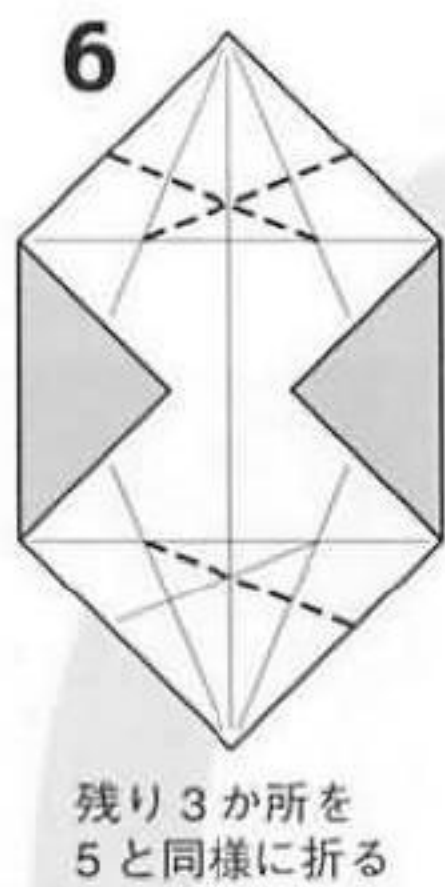
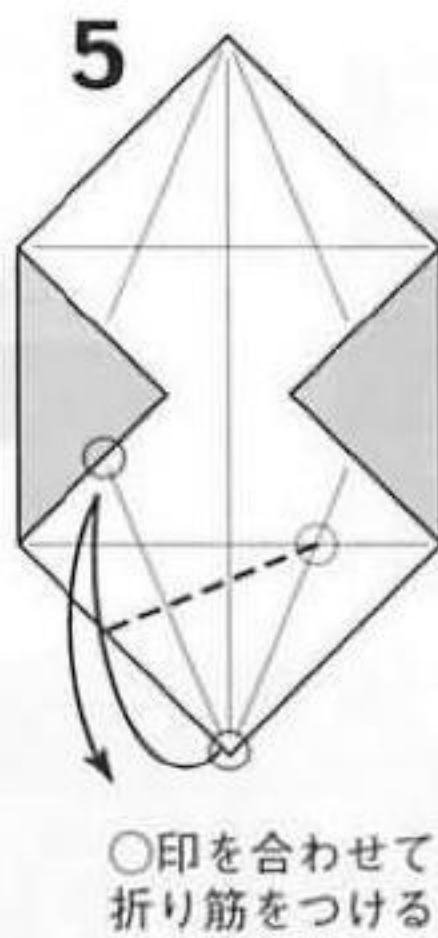
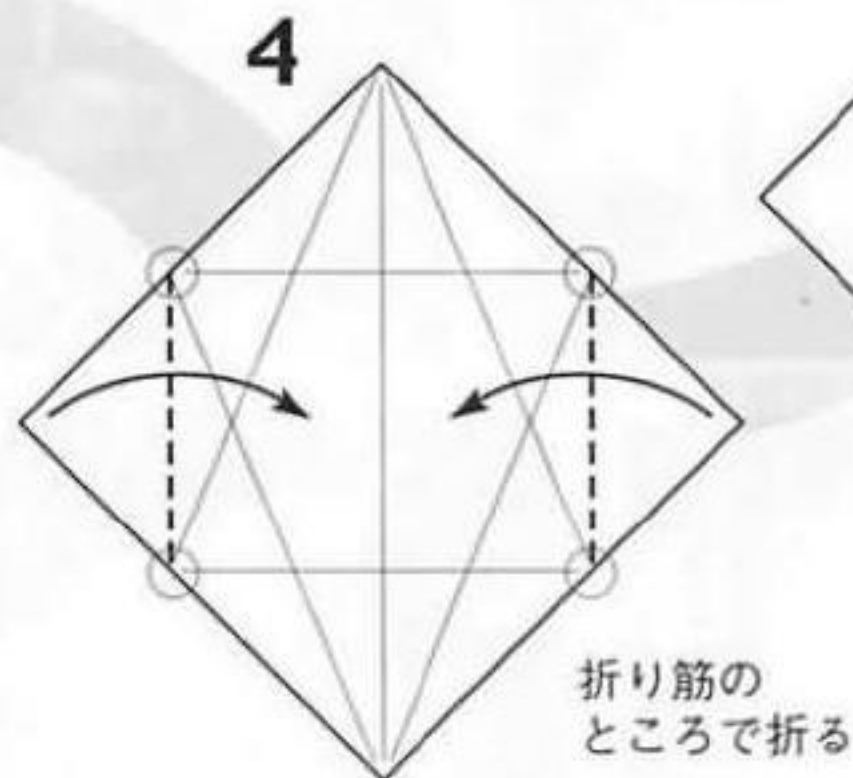
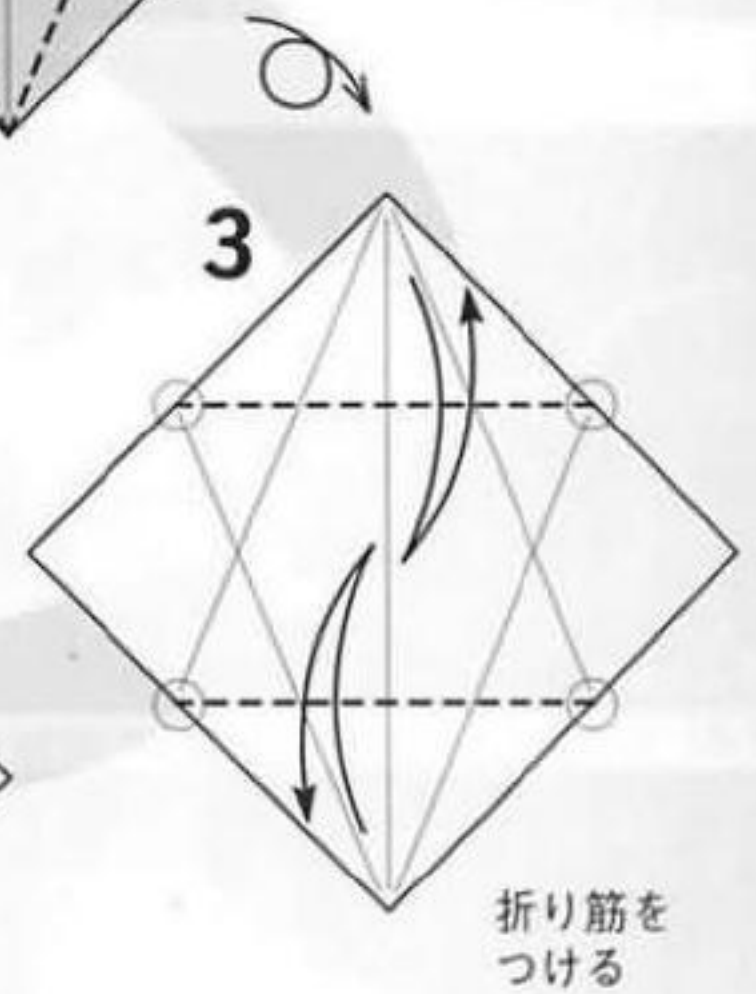
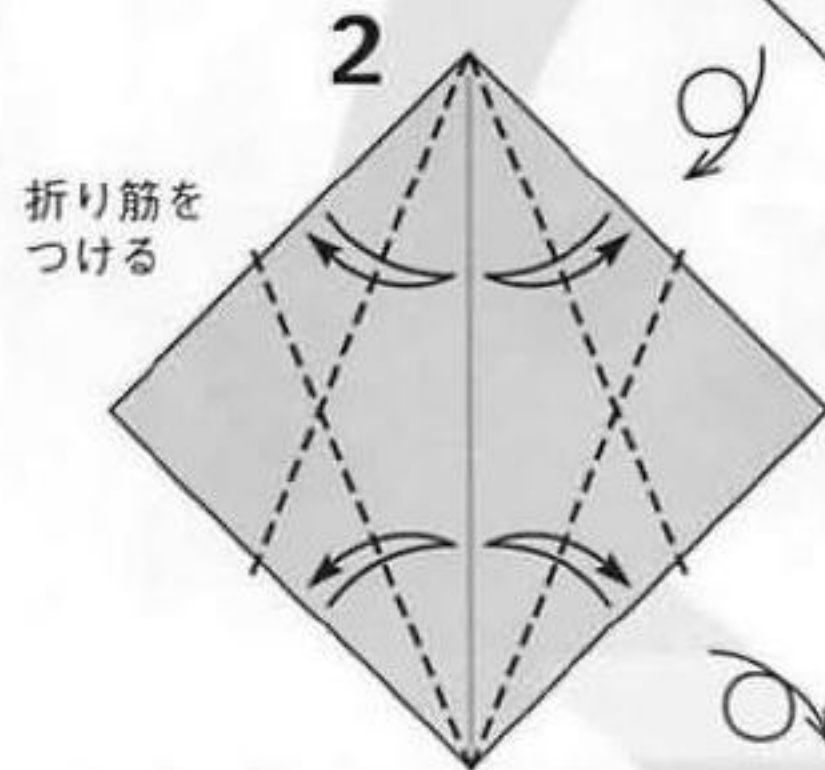
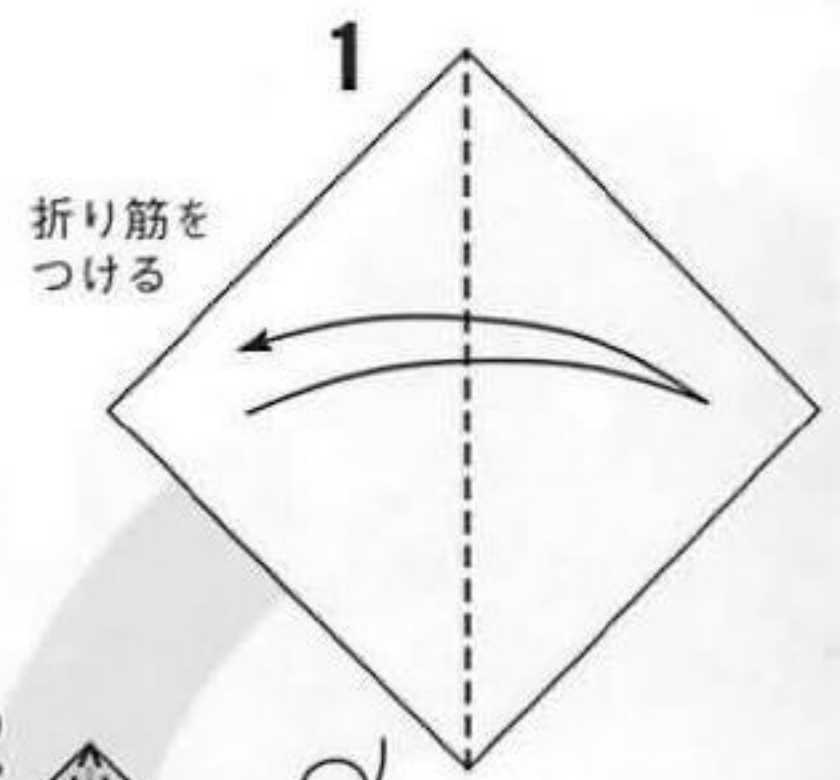
Photo by Kamiya Satoshi

犬

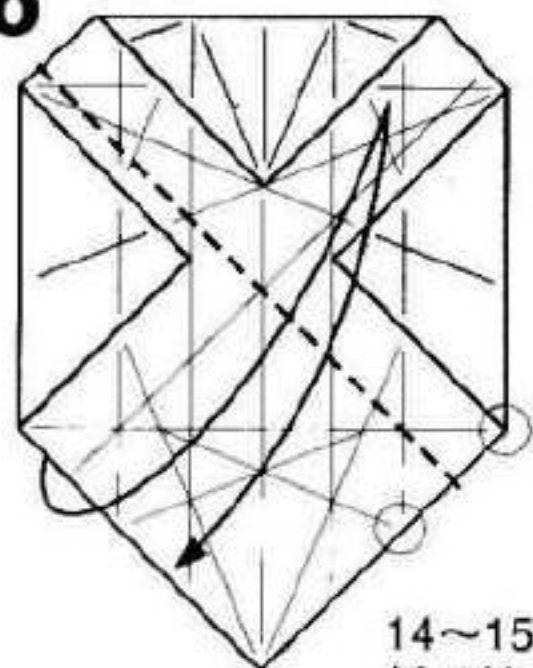
小松英夫



DOG by Komatsu Hideo
model : Feb. 2003 / diagrams : Jun. 2003

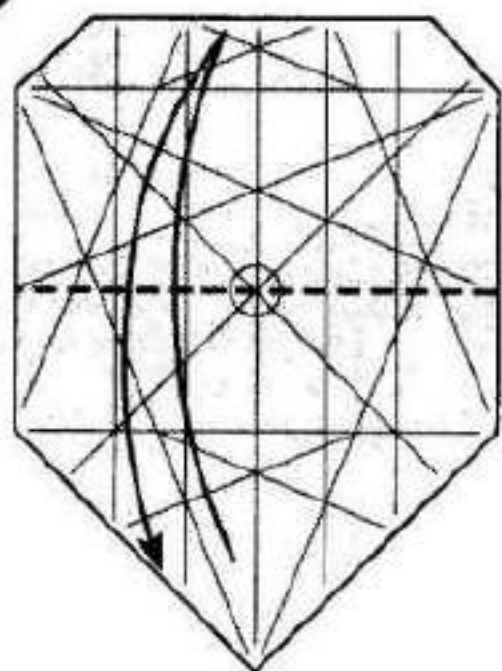


16



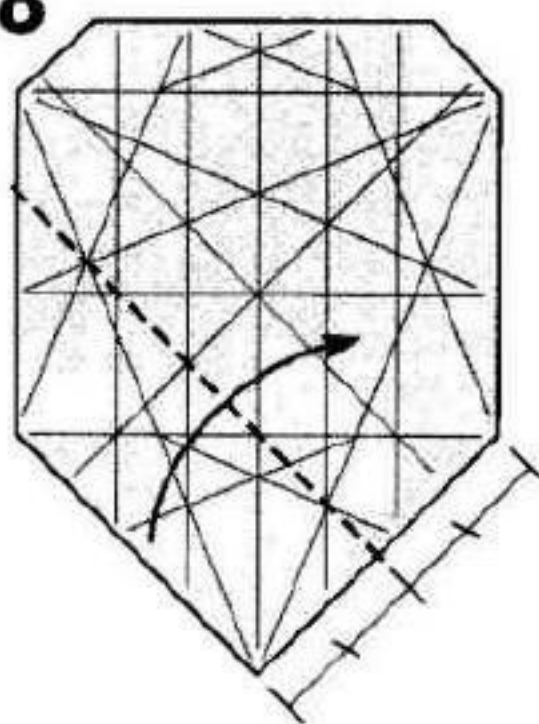
14~15と同様に
折り筋をつける

17

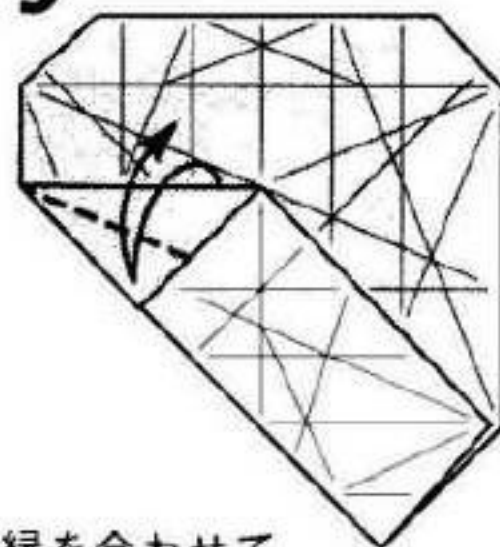


交点のところで
折り筋をつける

18

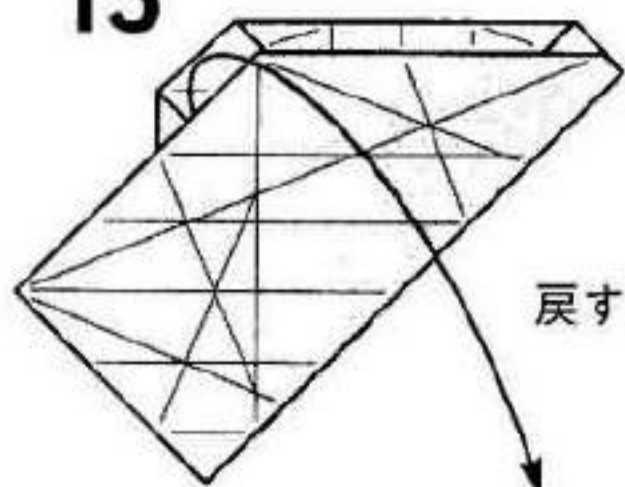


19



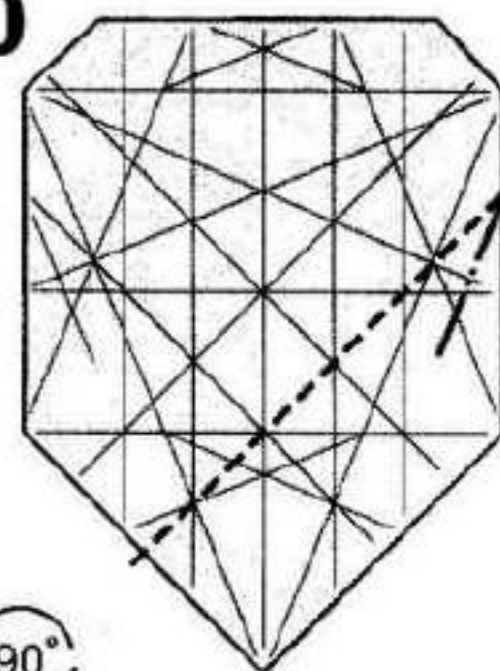
縁と縁を合わせて
途中まで折り筋をつける
(紙がずれやすいので注意)

15



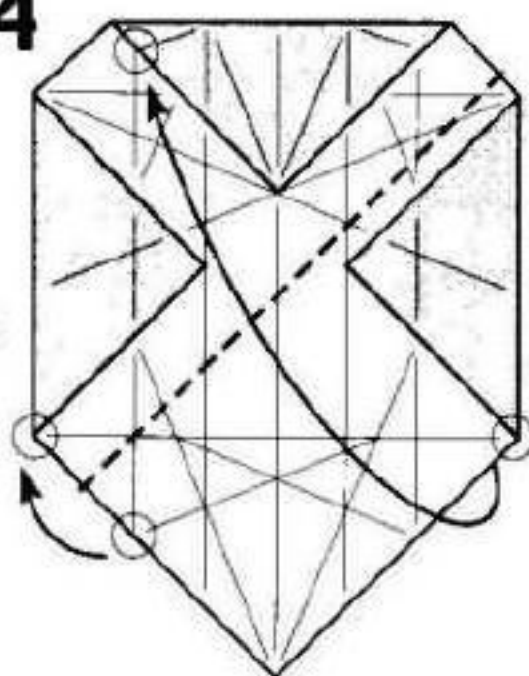
戻す

20



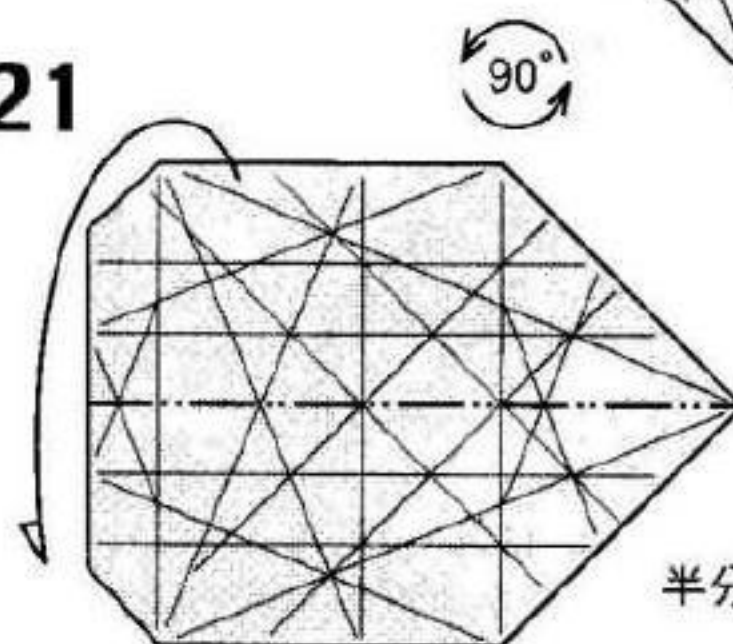
反対側も
18~19と同様に
折り筋をつける

14



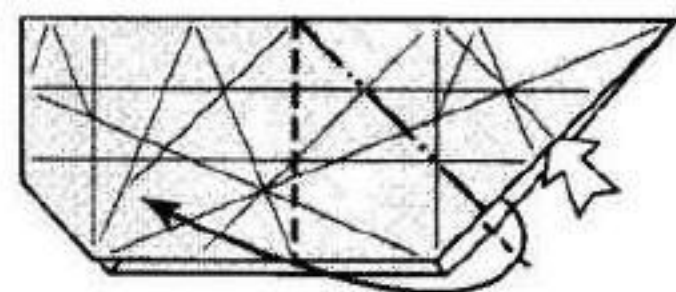
○印を
合わせて折る

21



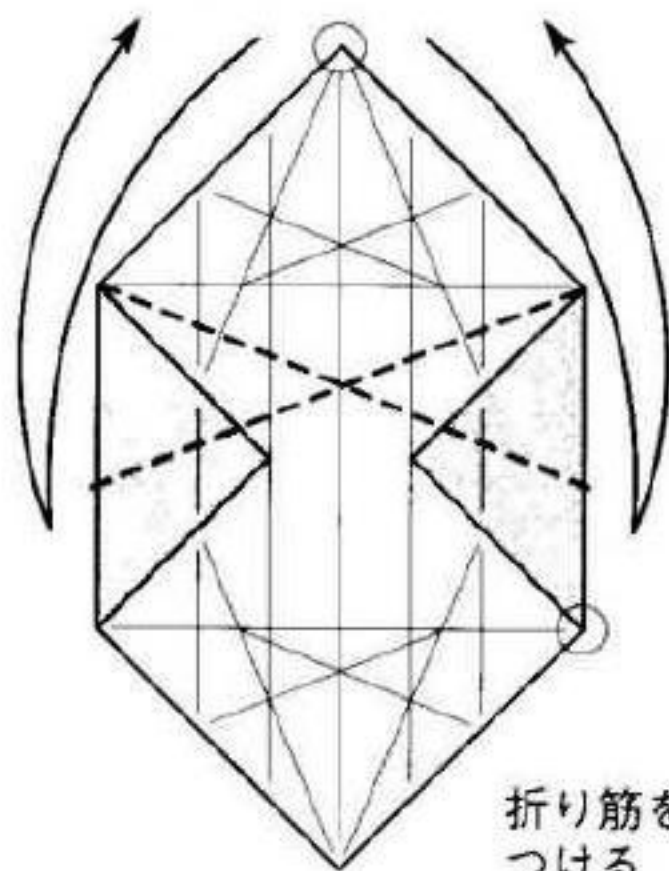
半分に山折り

22



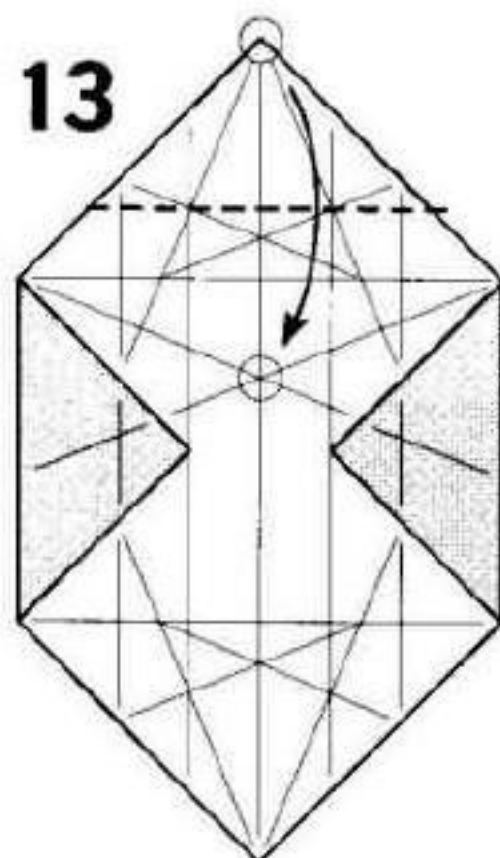
内側をひろげて
たたむ

12



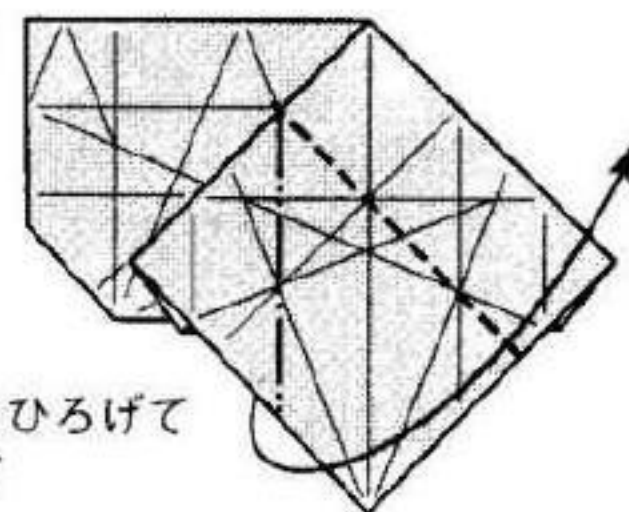
折り筋を
つける

13



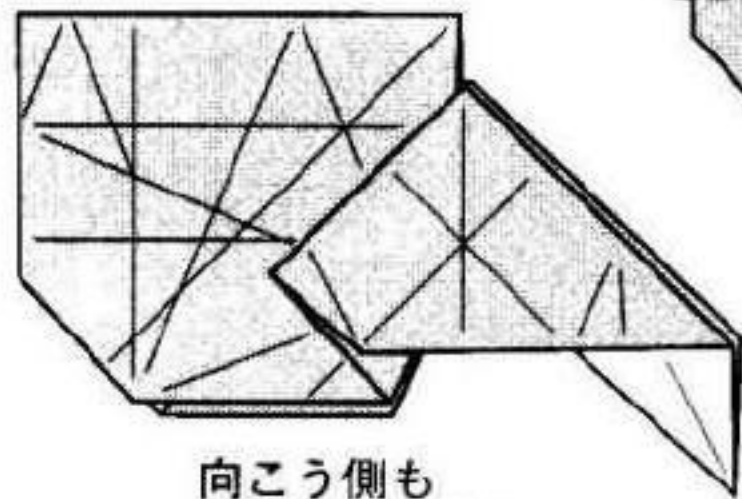
カドを交点に
合わせて折る

23



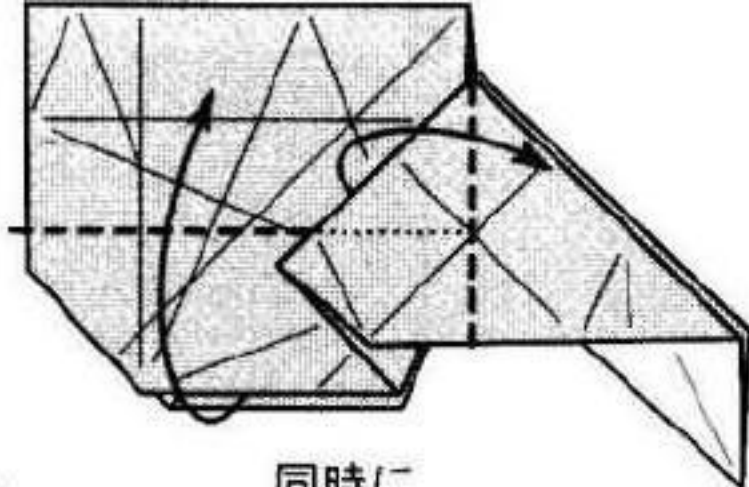
内側をひろげて
つぶす

32



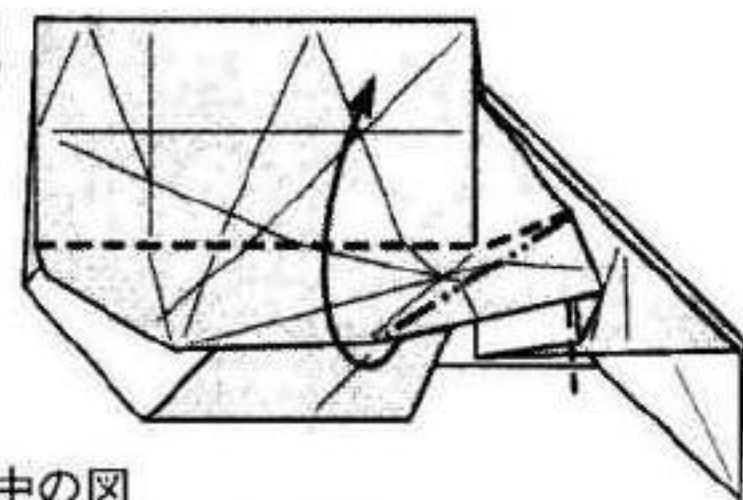
向こう側も
29~31 と同じ

33



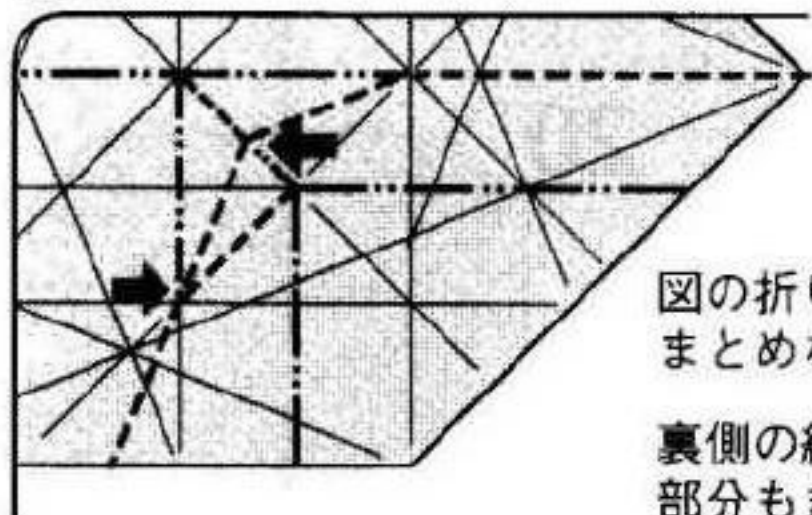
同時に
めくるように折る
(35 まで連続した手順)

34



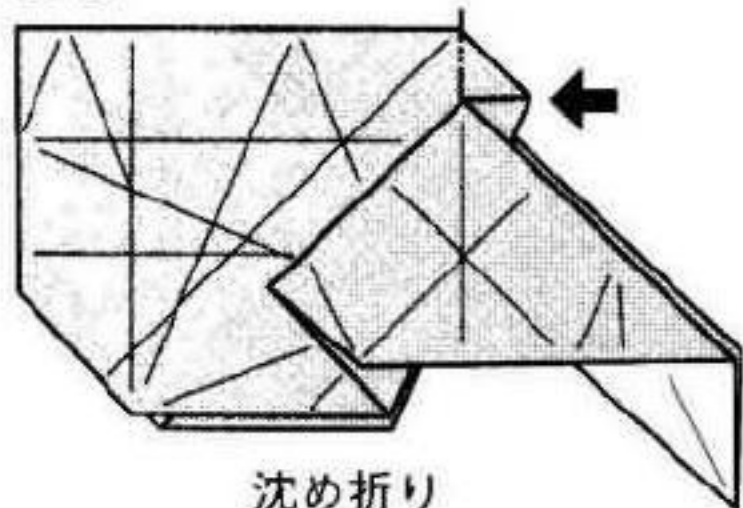
途中の図
ついている折り目で
次の図のように折り畳む

31



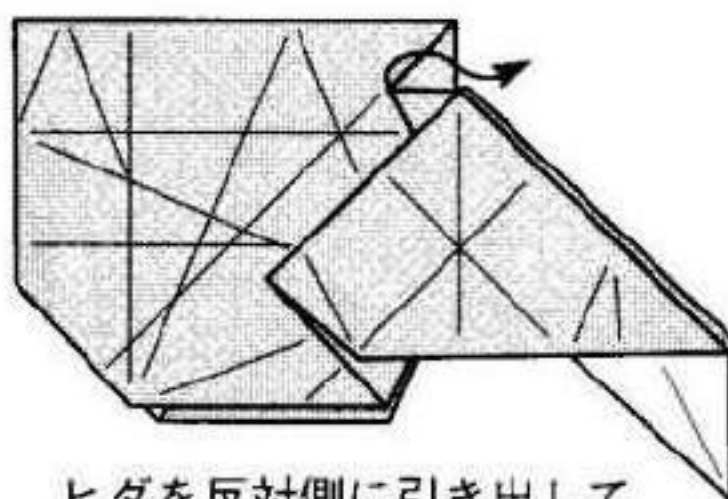
図の折り線で
まとめなおす
裏側の紙が重なっている
部分もきちんと折る

30



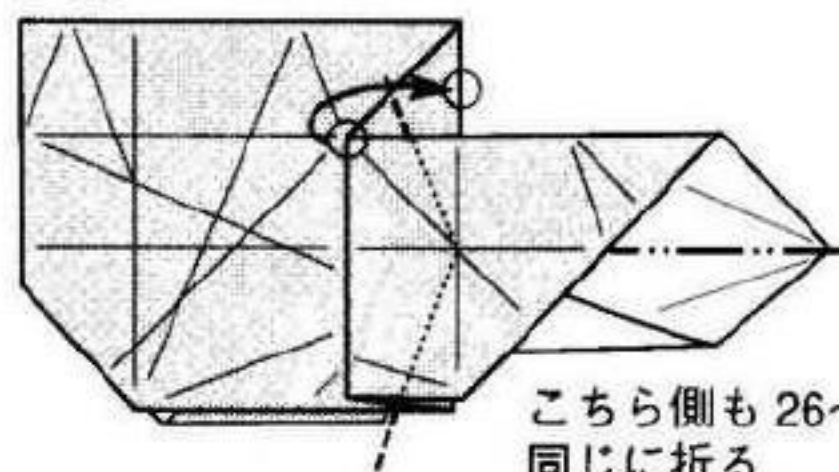
沈め折り
次の図のようにいったん
軽くひらいてから折る

29



ヒダを反対側に引き出して
よく折り目をつけておく

28

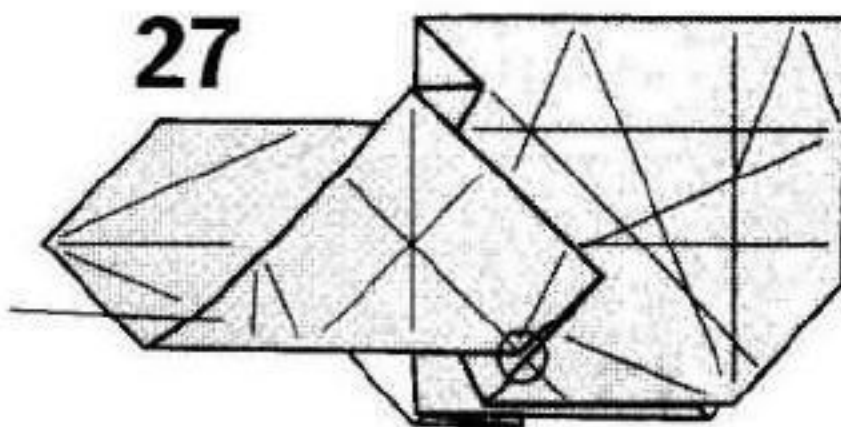


こちら側も 26~27 と
同じに折る

この工程で
全体が表裏で対称になる



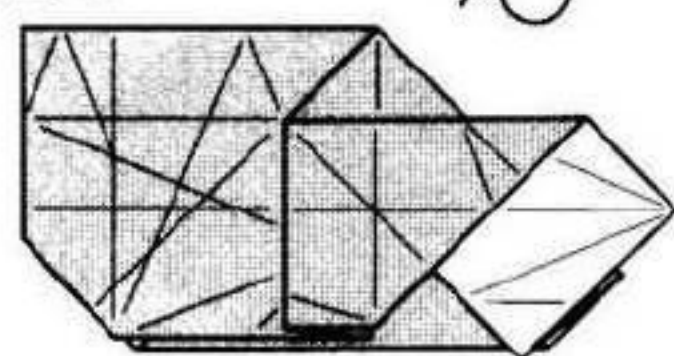
27



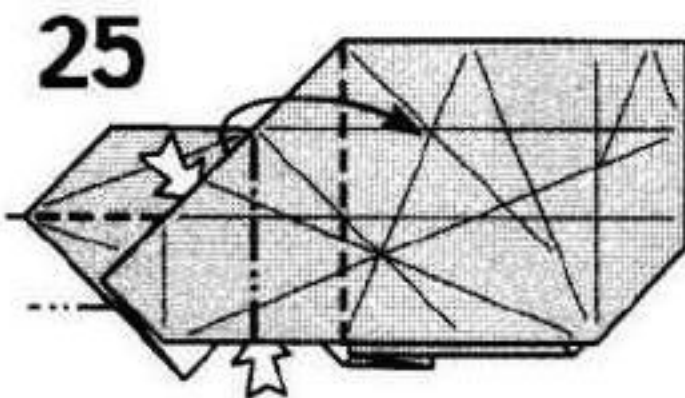
この部分は
立体的に
なっている

○のところで
折り筋があっている
ことを確認してつぶす

24

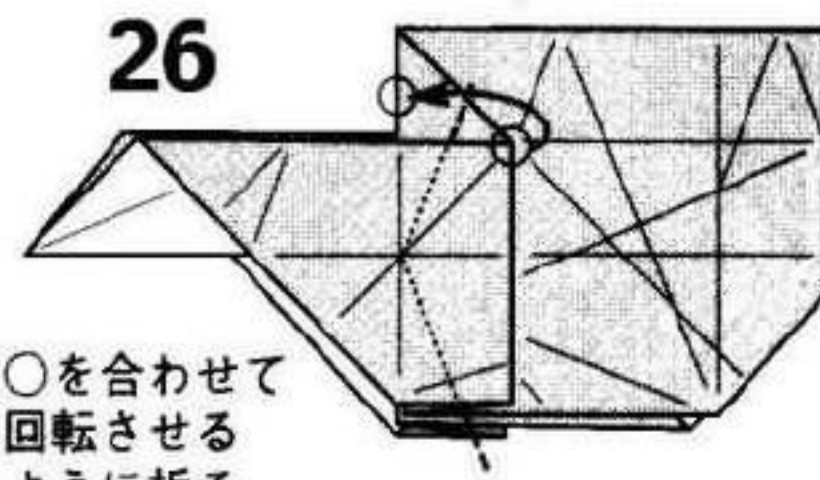


25



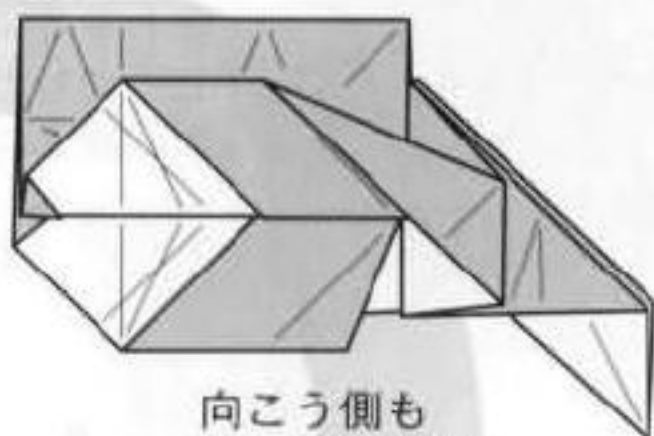
引き押せるように
内側をひろげてつぶす
この工程で全体が
表裏で対称になる

26



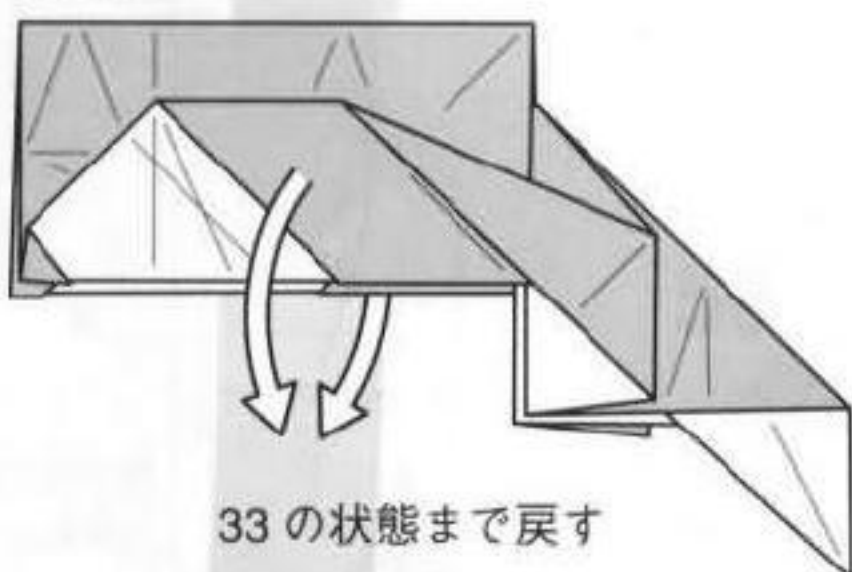
○を合わせて
回転させる
ように折る

35



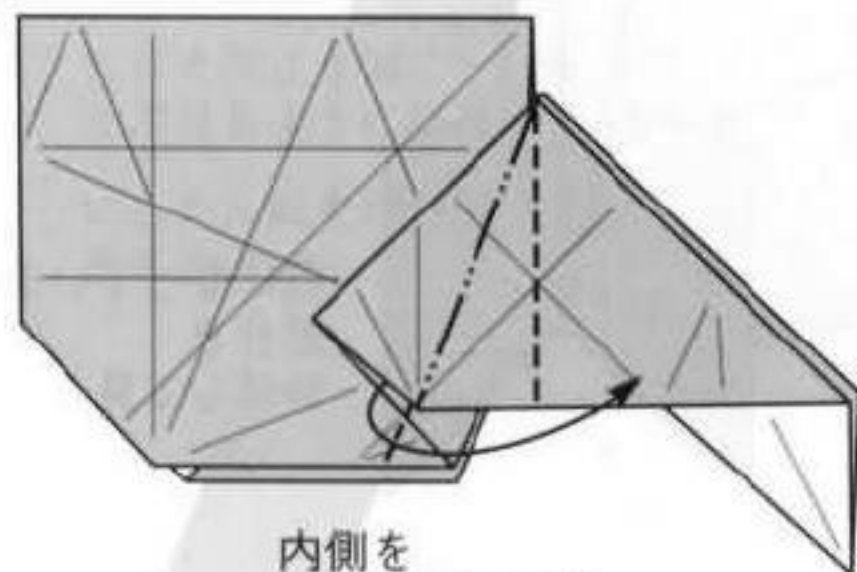
向こう側も
33~34 と同じ

36



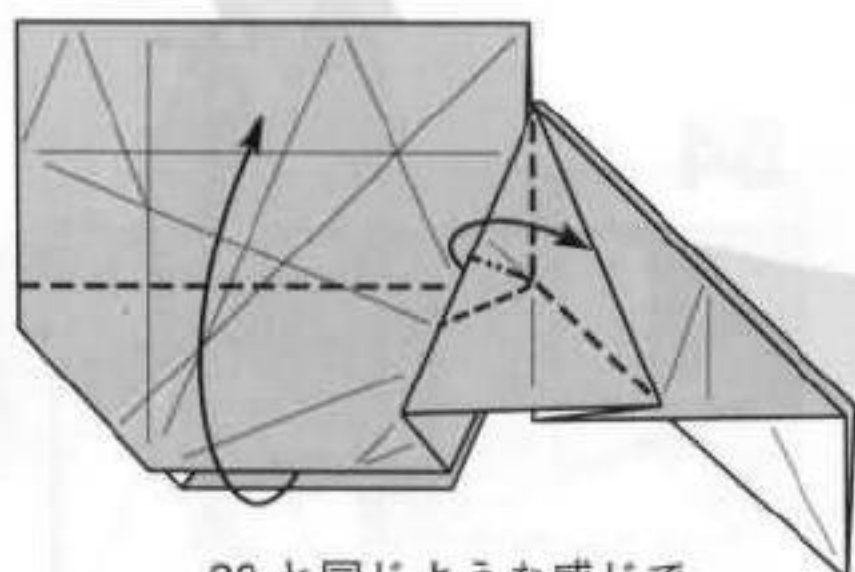
33 の状態まで戻す

37



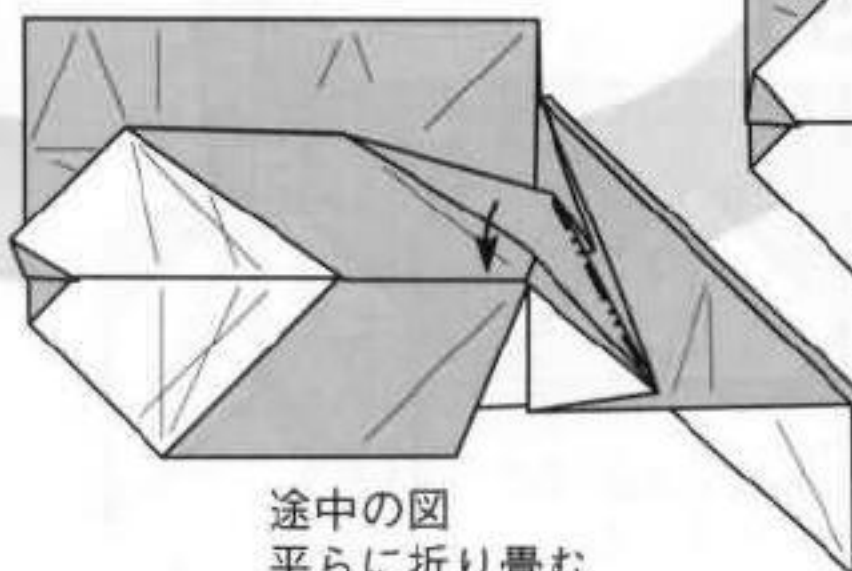
内側を
ひろげてつぶす

38



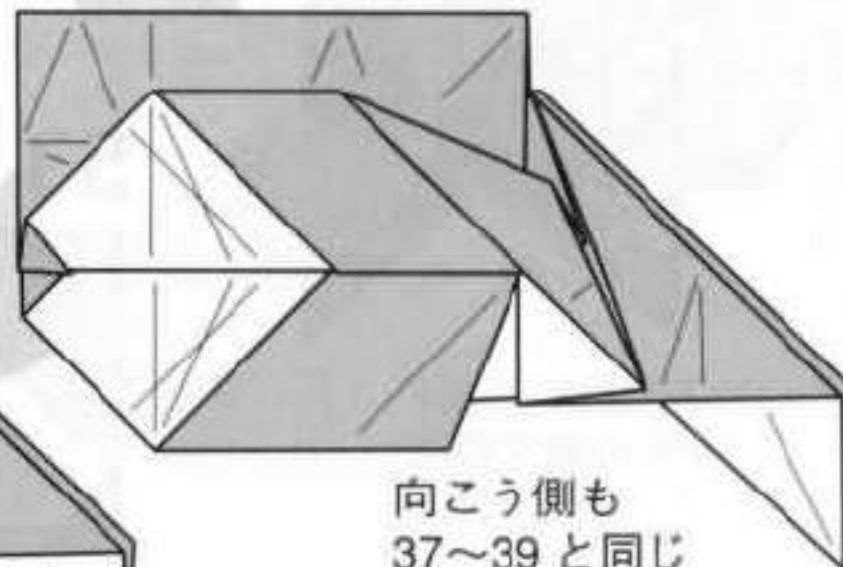
33 と同じような感じで
引き寄せするように折る
(40 まで連続した手順)

39



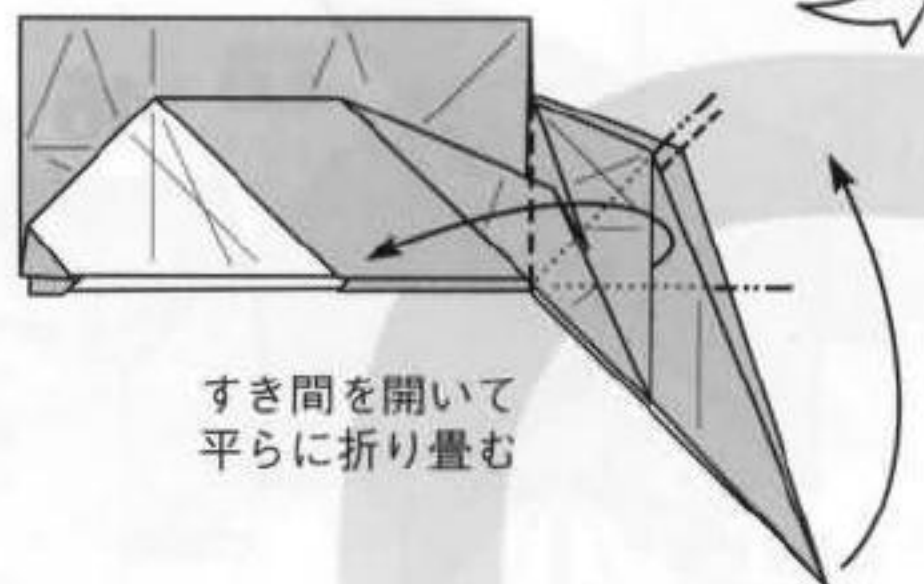
途中の図
平らに折り畳む

40



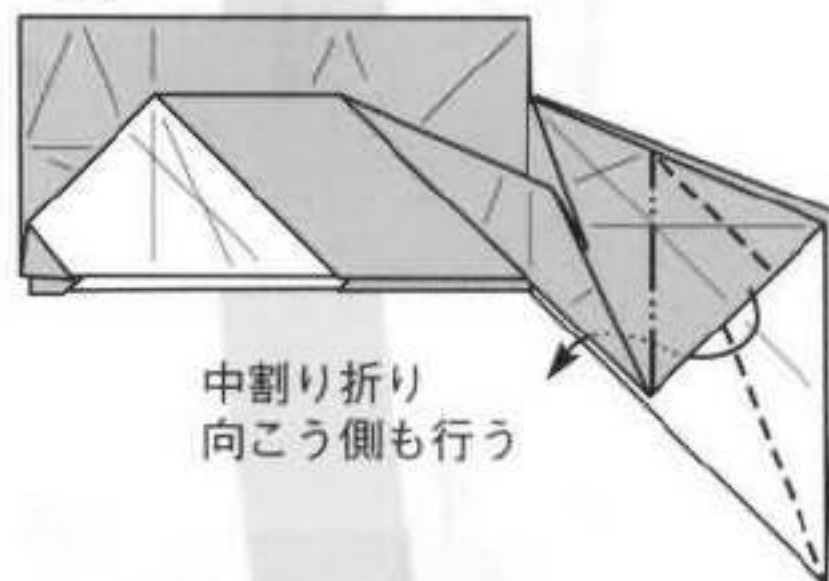
向こう側も
37~39 と同じ

44



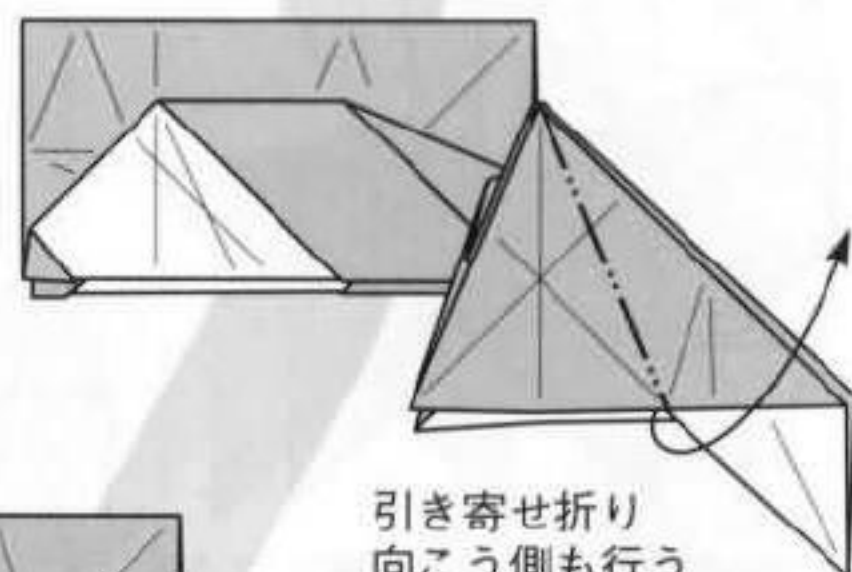
すき間を開いて
平らに折り畳む

43



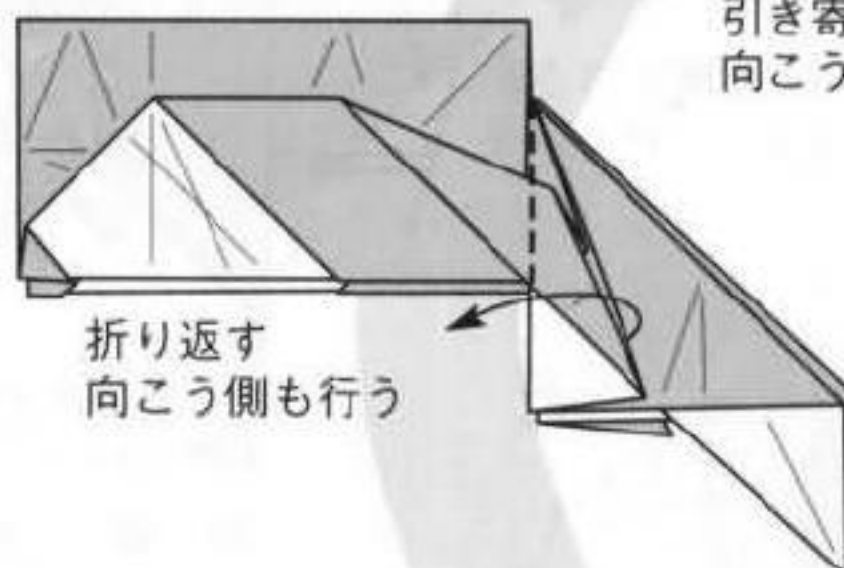
中割り折り
向こう側も行う

42

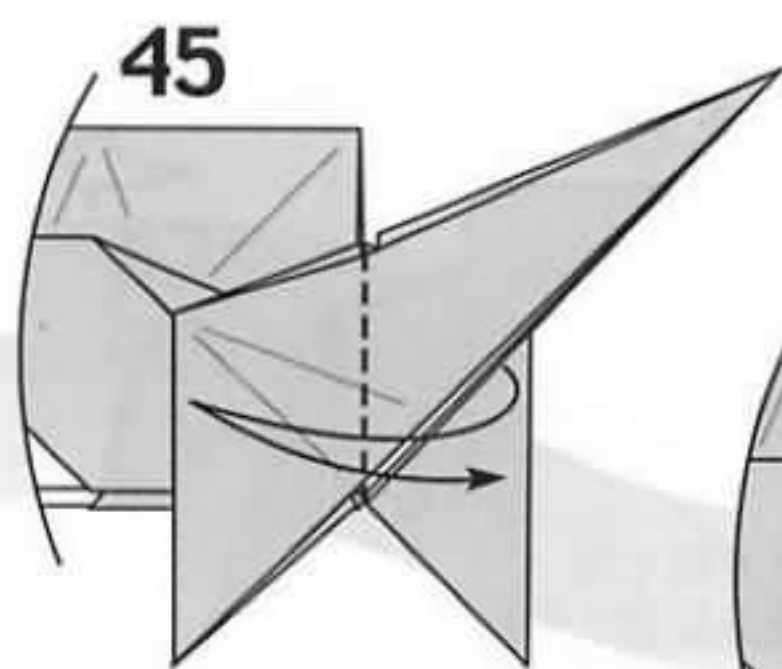


引き寄せ折り
向こう側も行う

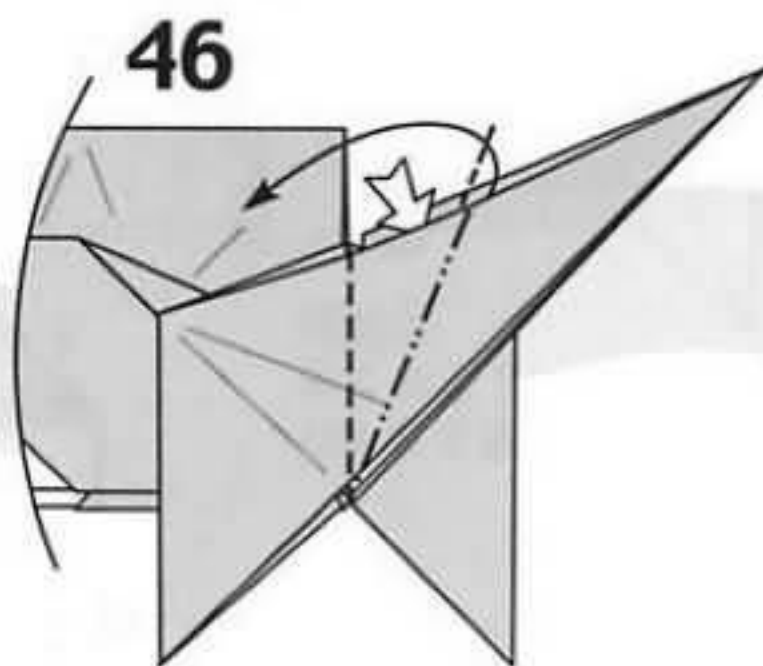
41



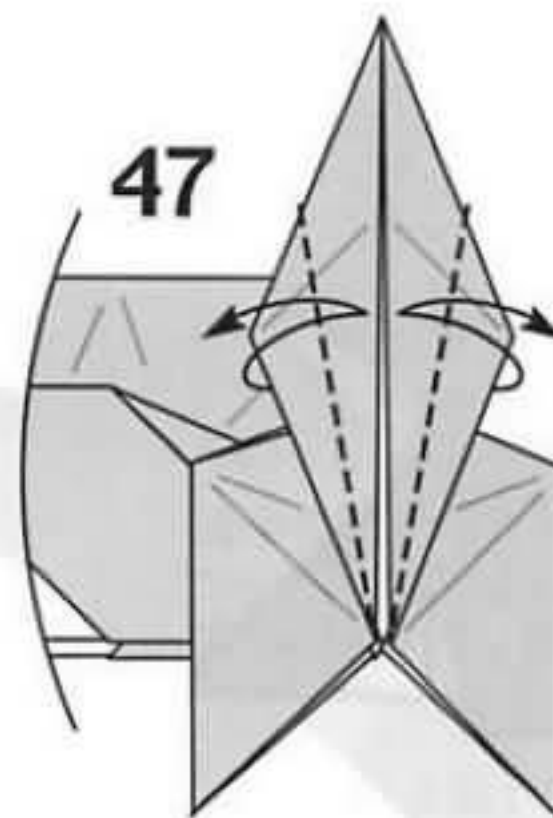
折り返す
向こう側も行う



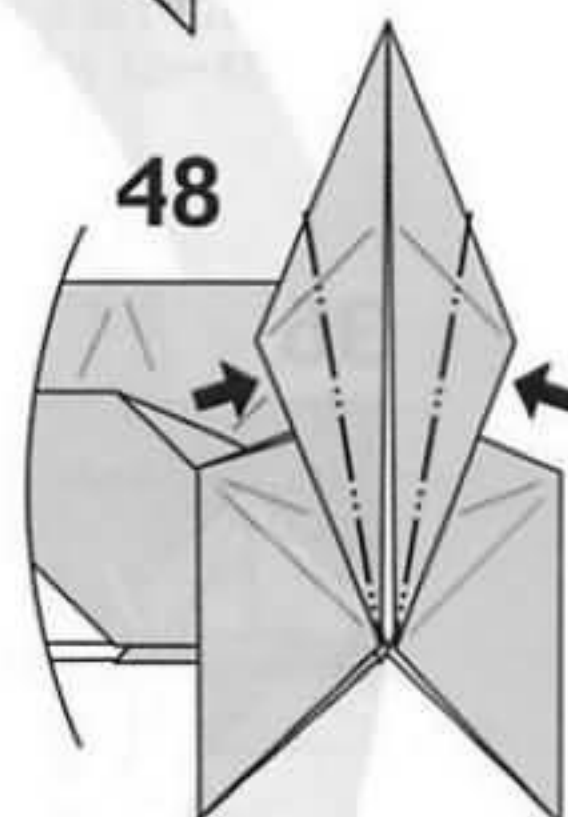
カドを折って
折り目をつける



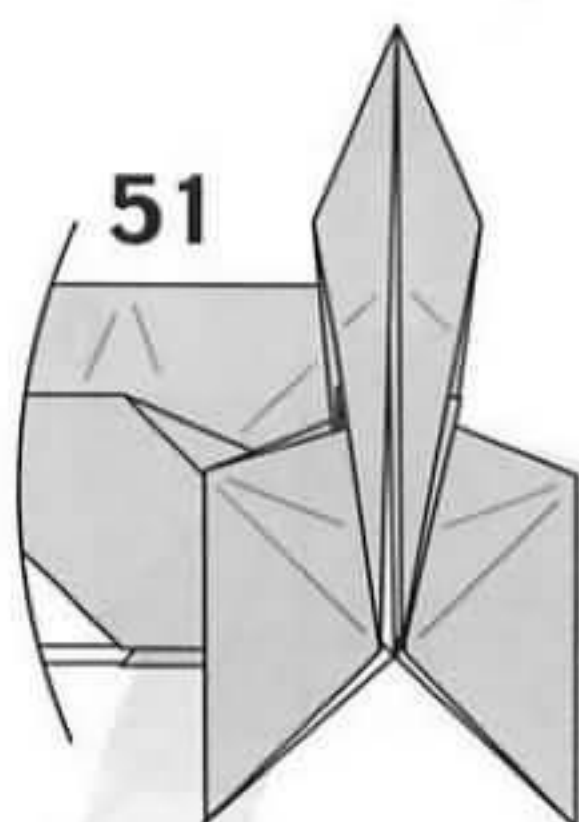
内側をひろげてつぶす
(カドが垂直になるように)



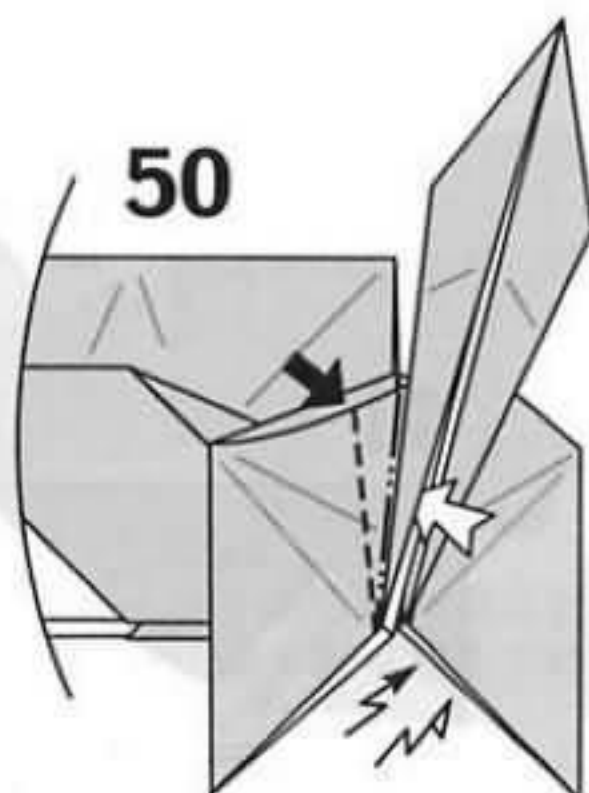
フチを中央の線に
合わせて
しっかりと
折り筋をつける



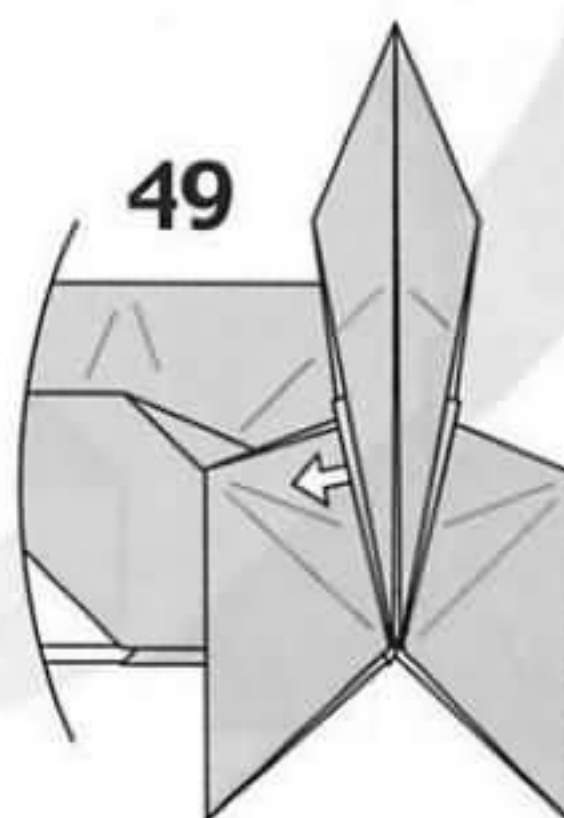
沈め折り
(closed sink)



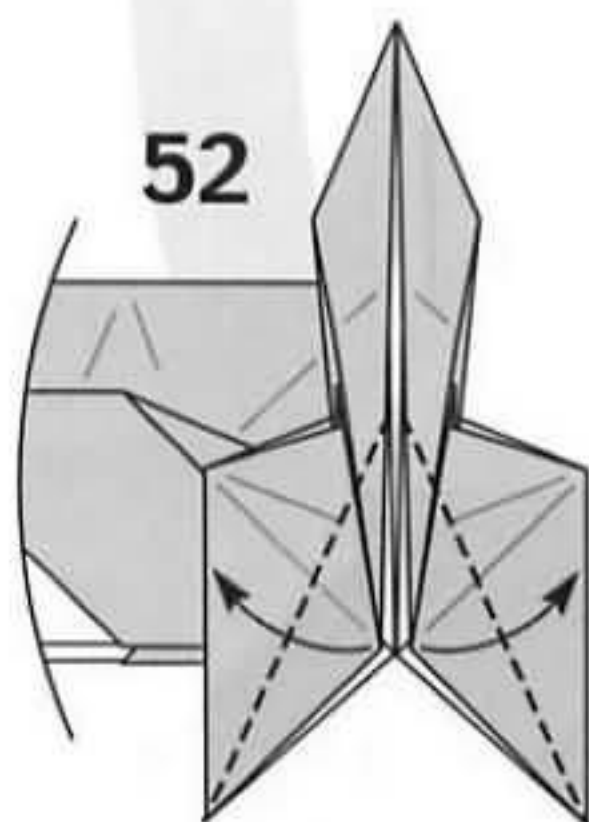
右側も 49~50 と同じ



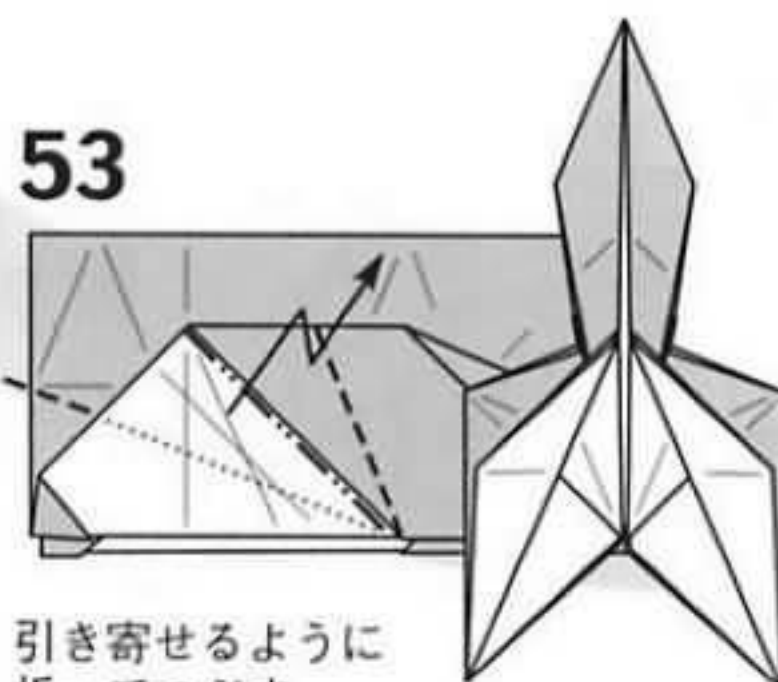
折り目で押し込むように
両側で段折り
(軽く開いて折るとよい)



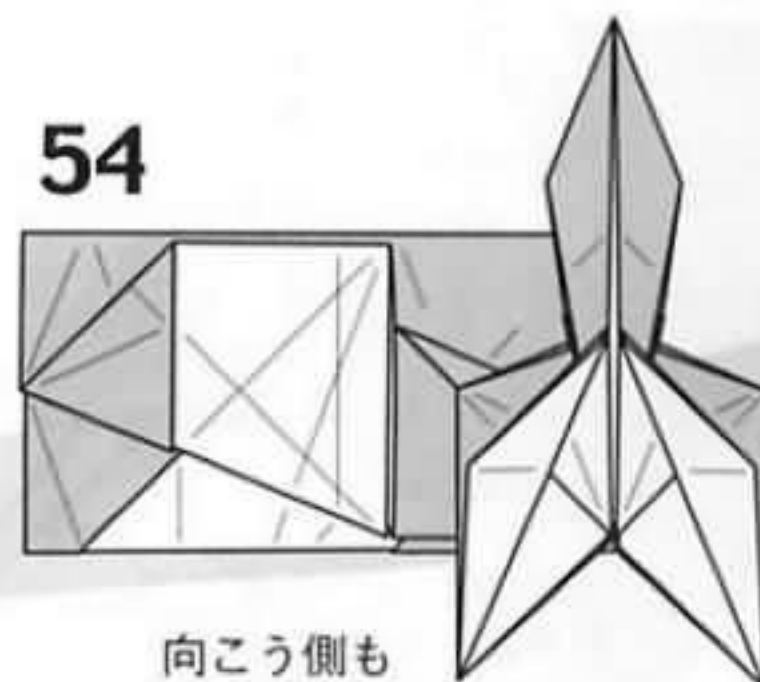
段になっている
部分を
伸ばして見る



フチを
合わせて折る

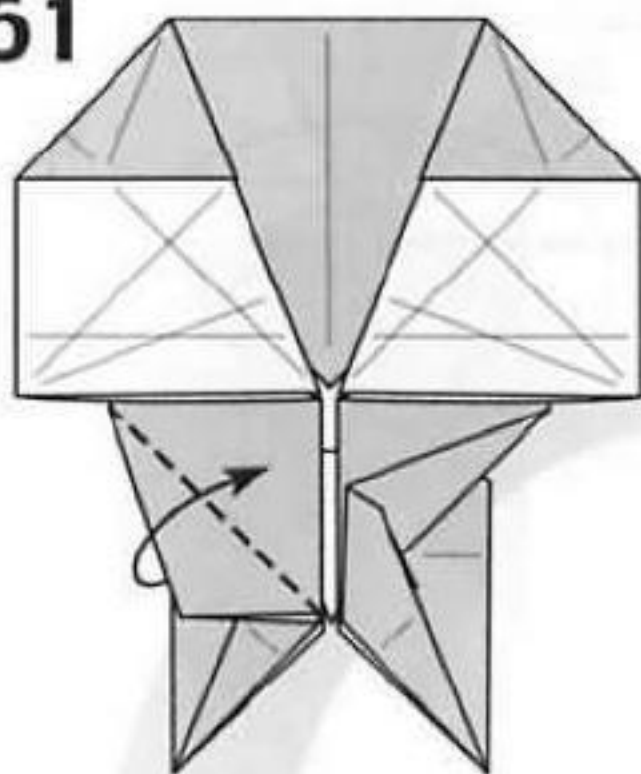


引き寄せるように
折ってつぶす

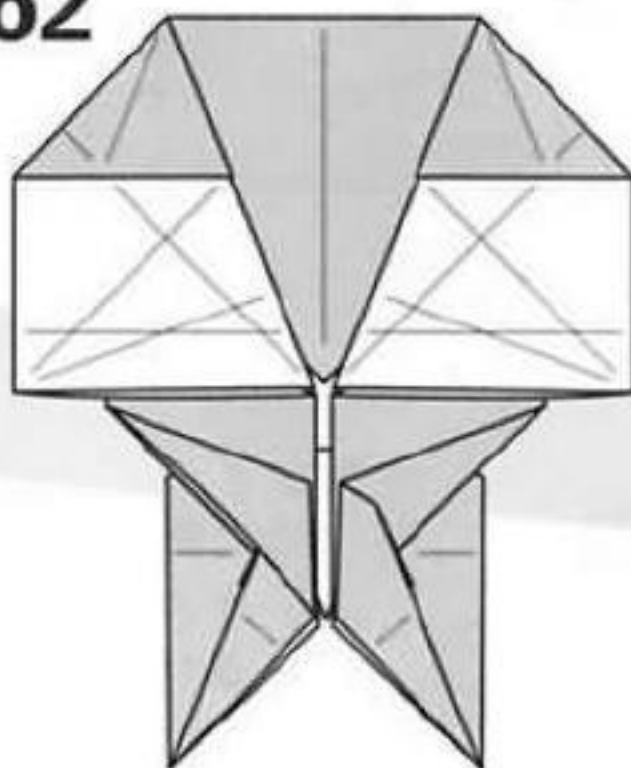


向こう側も
53 と同じ

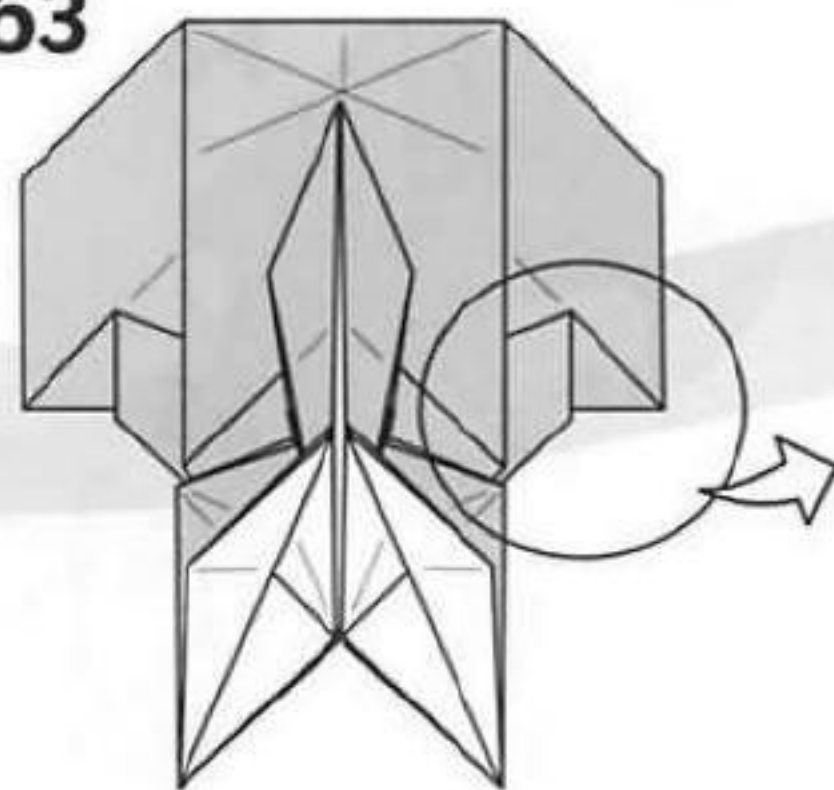
61



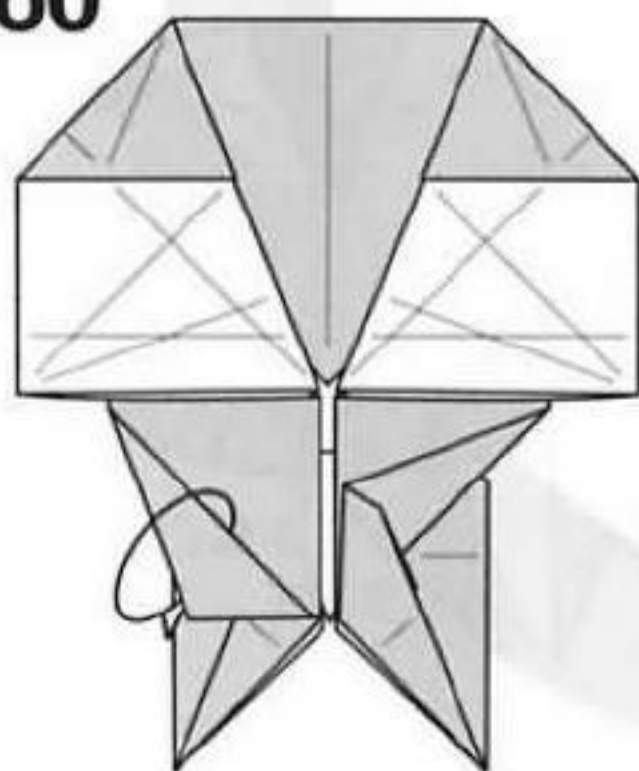
62



63

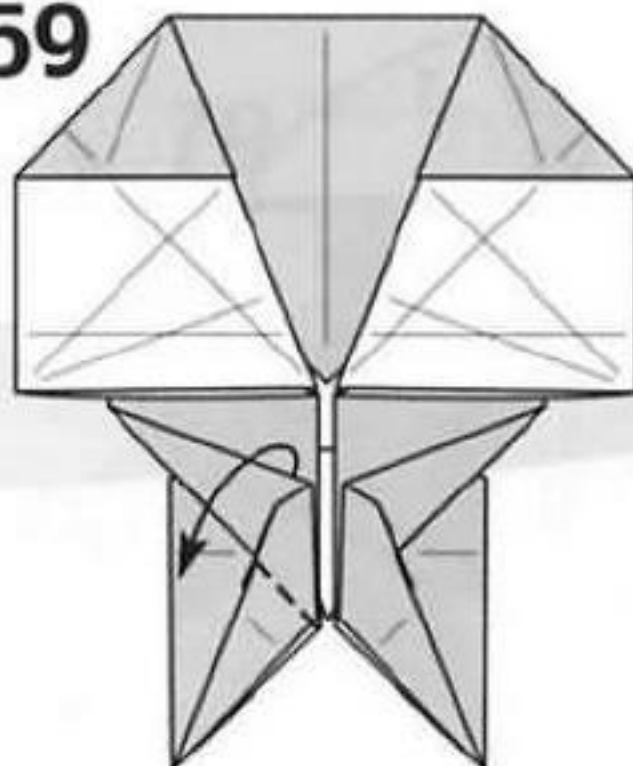


60



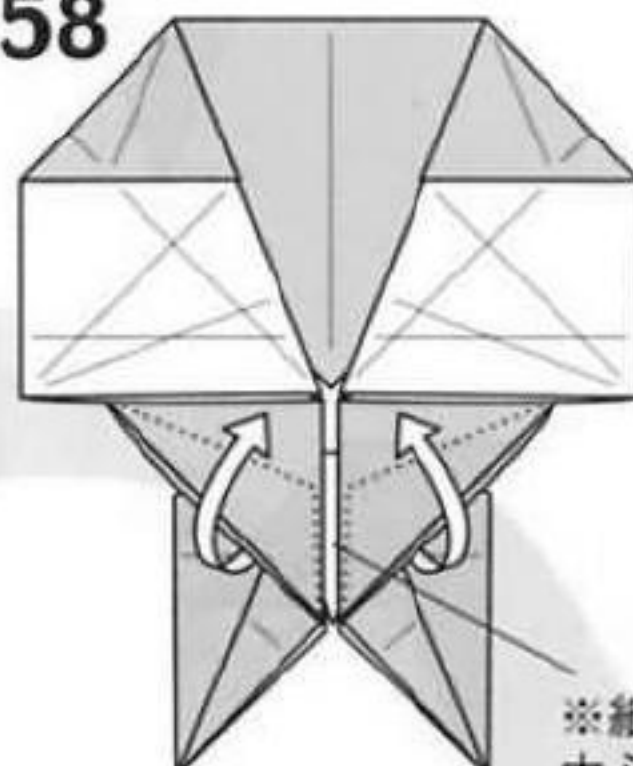
ヒダを向こう側にかぶせるように裏返す
いったん紙をひらいて折るとよい

59



左側だけ折る

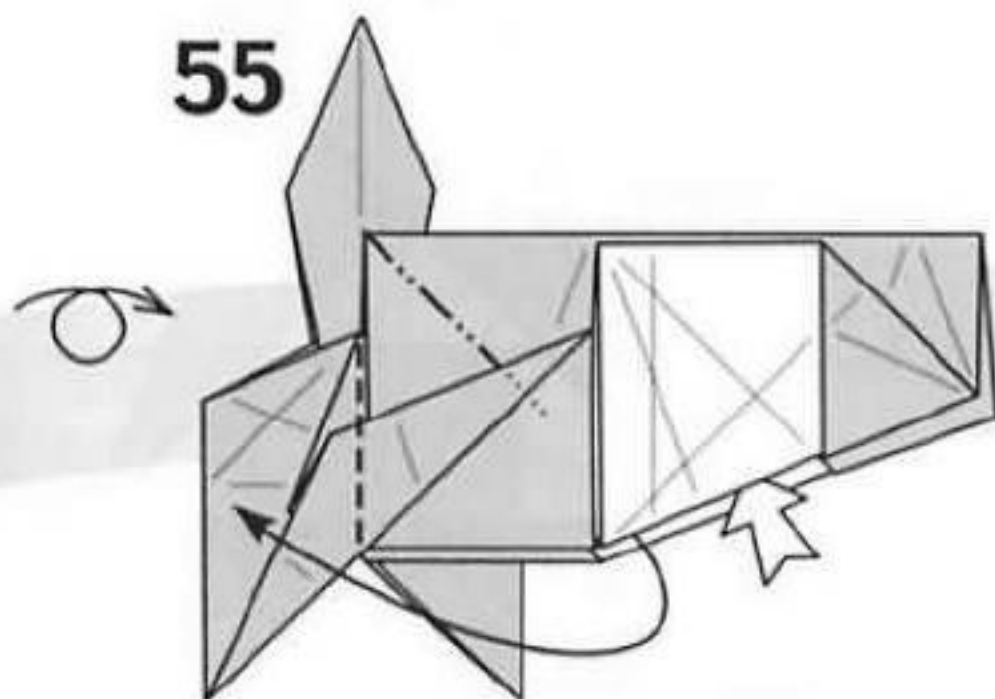
58



後ろの三角を手前に持ってくる

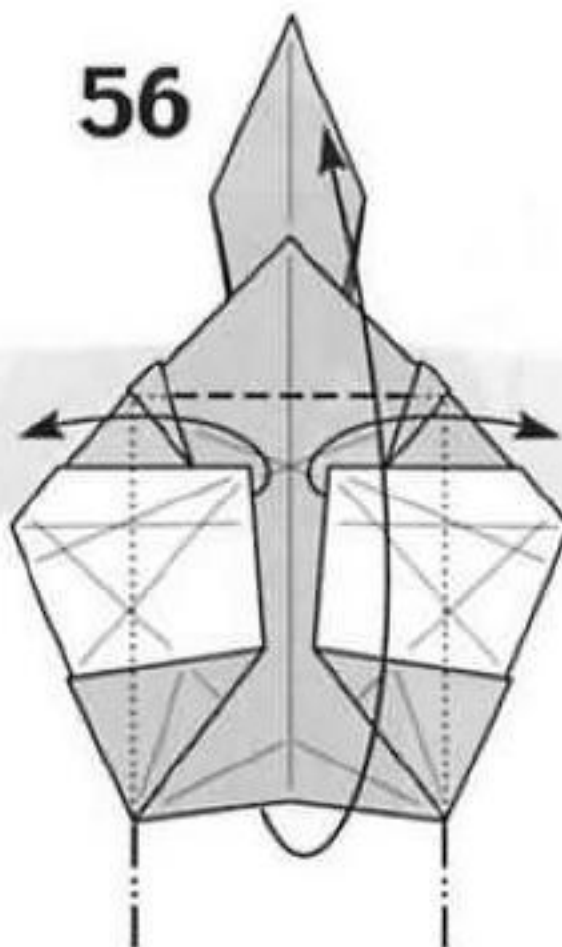
※紙の厚みで中心に少しすき間が空くと思いますがそれでいいです。

55



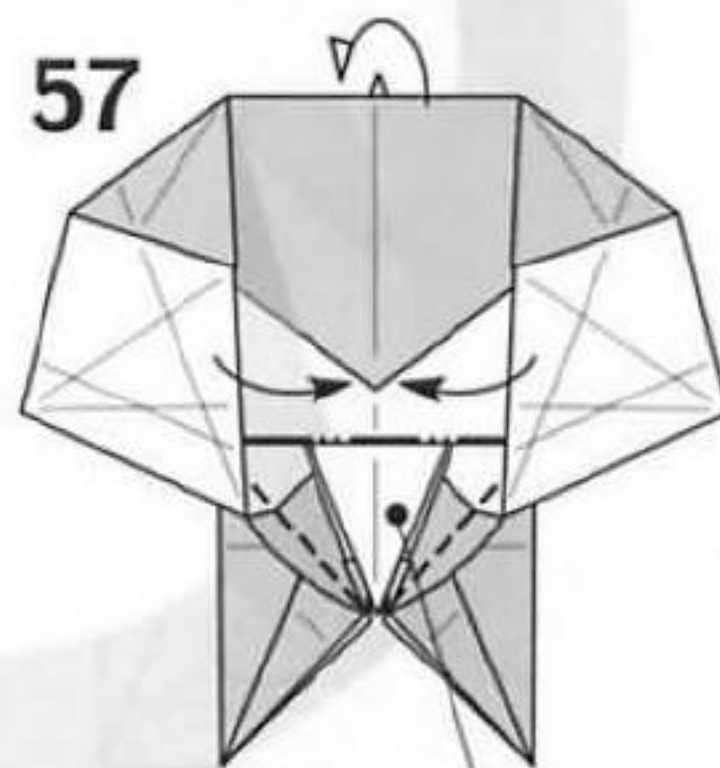
内側を真ん中でひらく
(58 まで連続した手順)

56

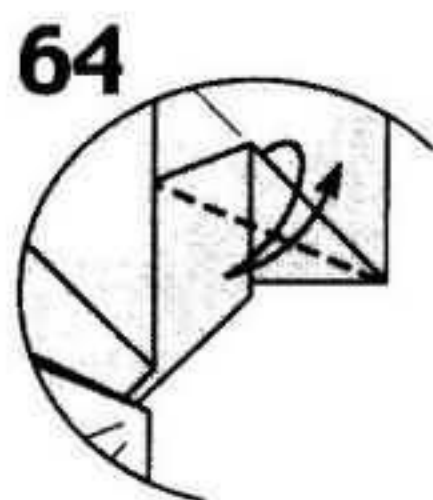


花弁折りのようにして折り畳む

57



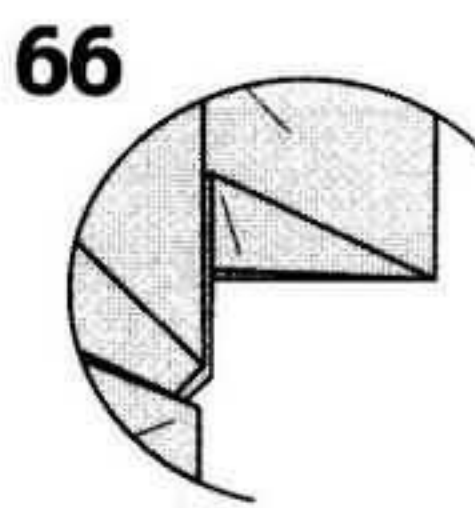
途中の図 内側のこのヒダが左右対称になっていること



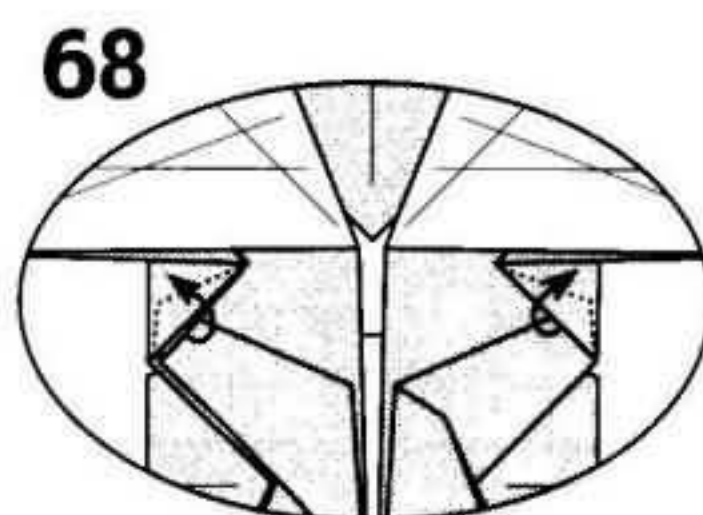
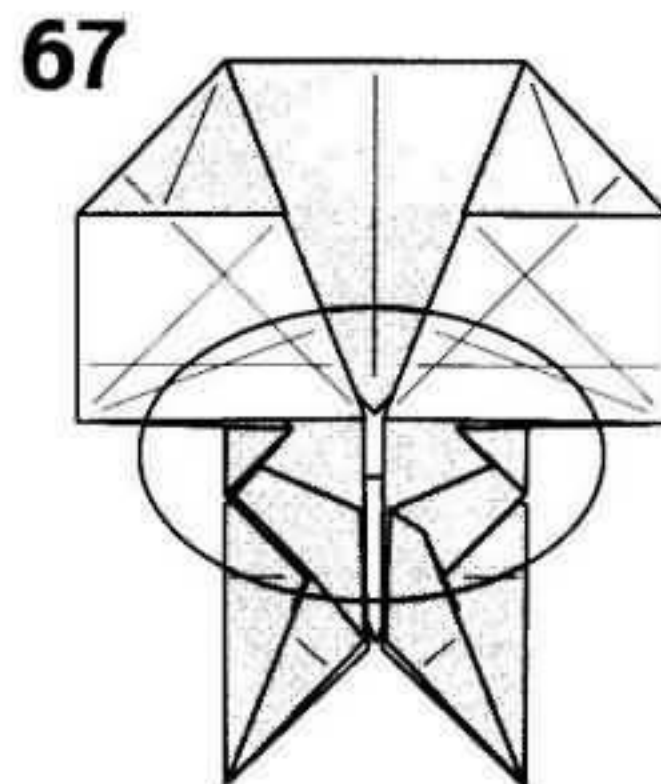
折り目をつける



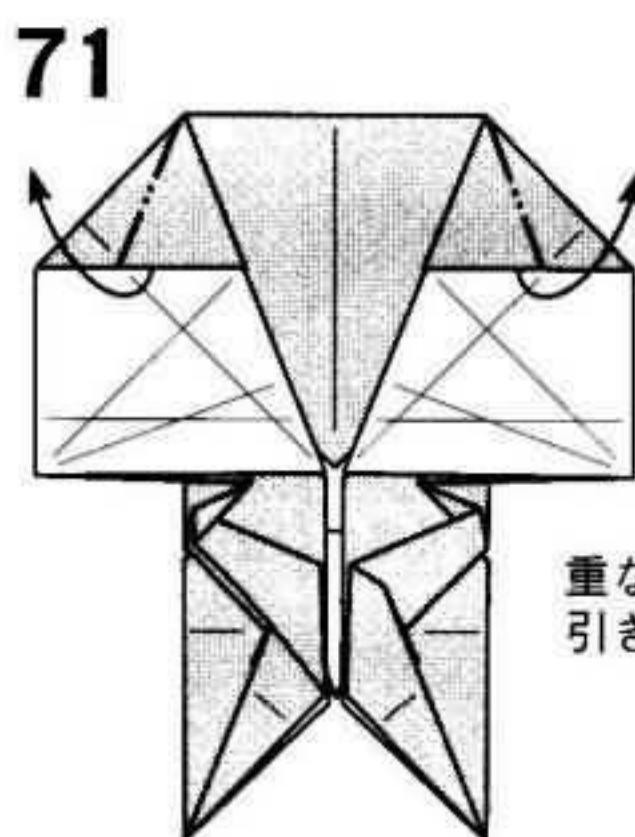
裏側に
引き寄せて折る



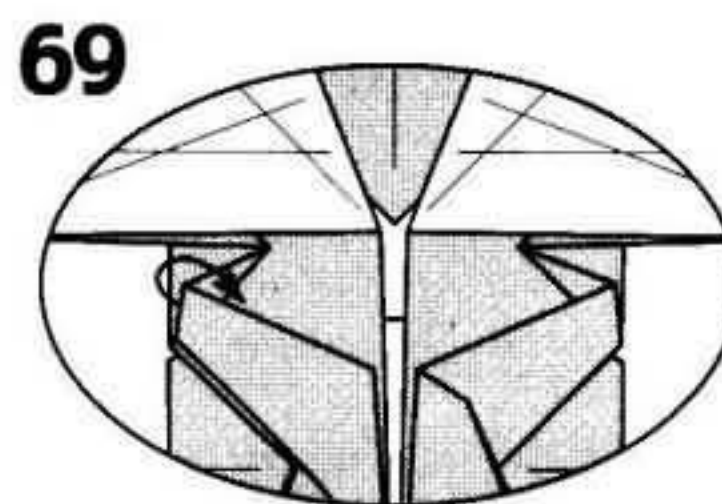
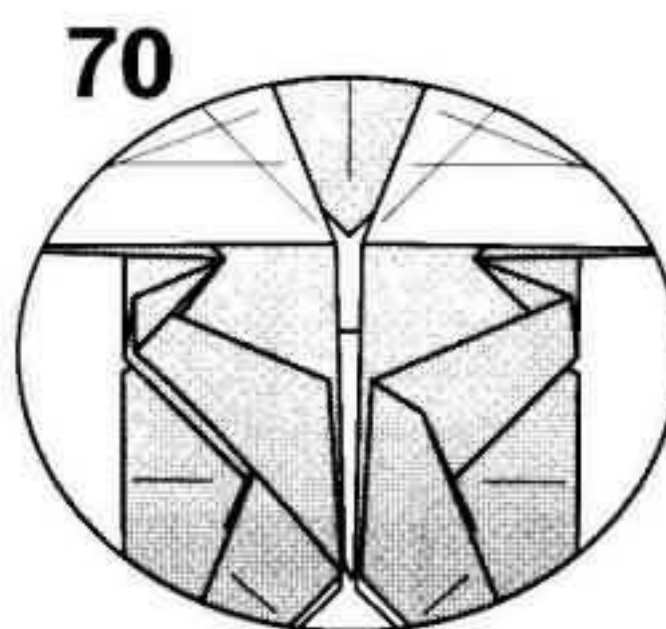
左側も
64~65 と同じ



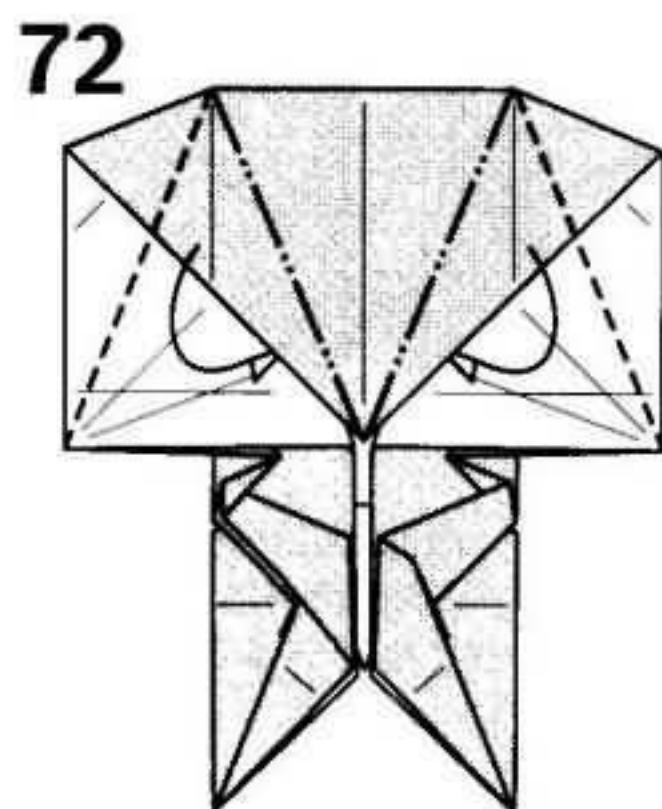
ヒダを手前に
引き出す



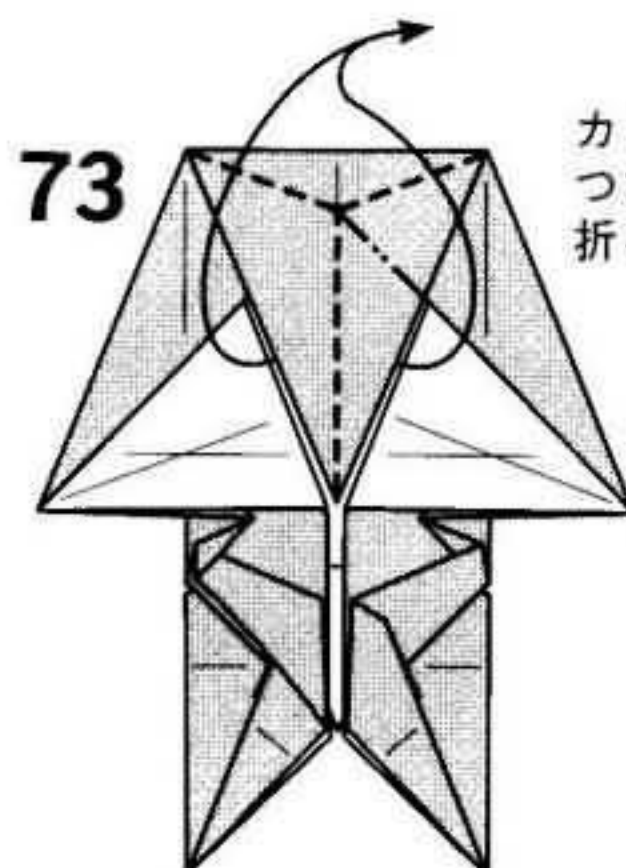
重なっている紙を
引き出して折り畳む



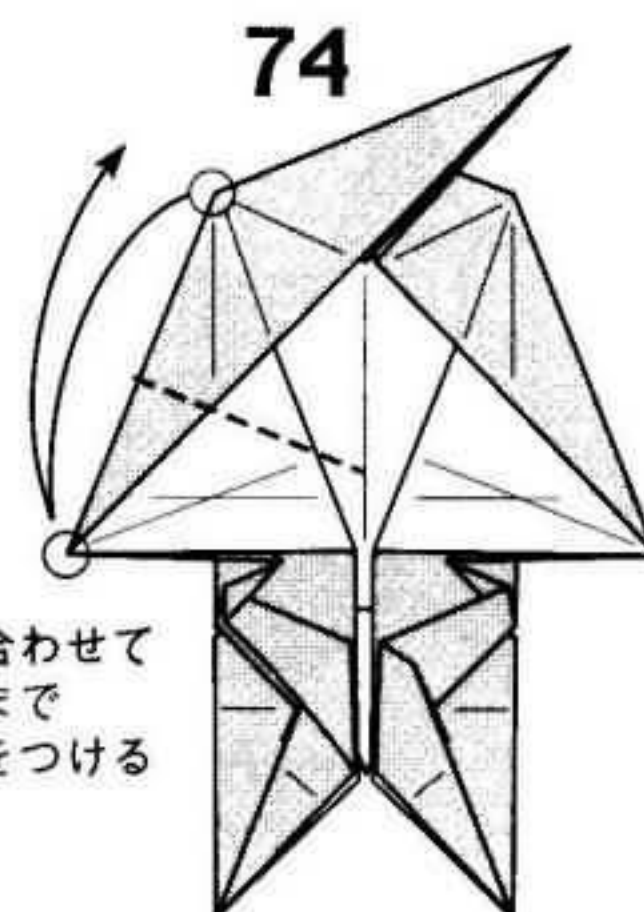
左側のみ
かぶせるように折る



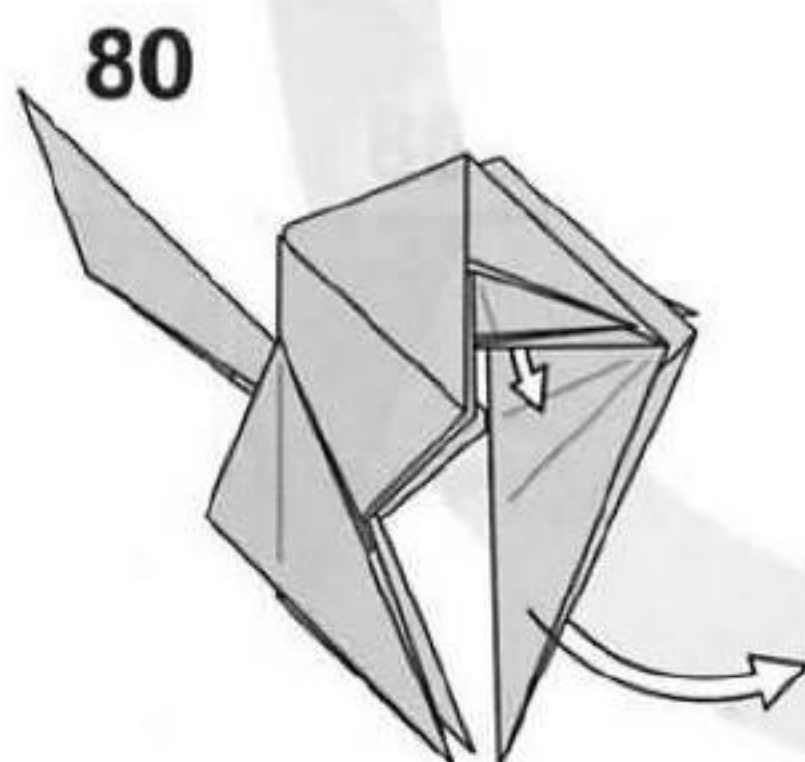
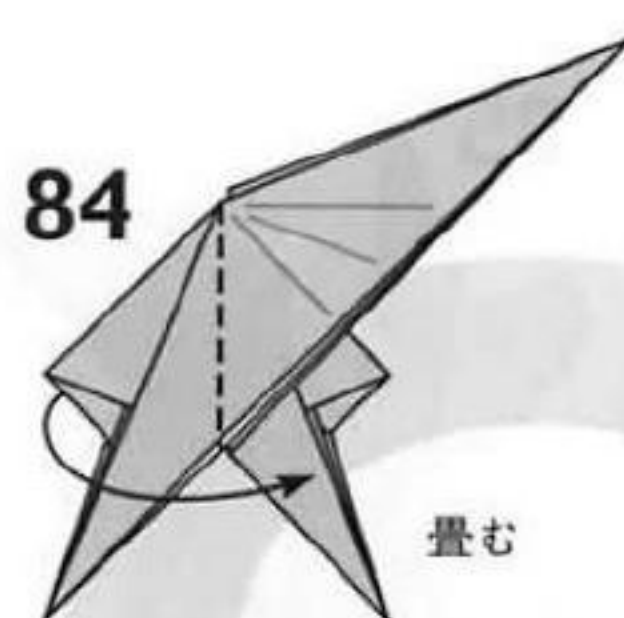
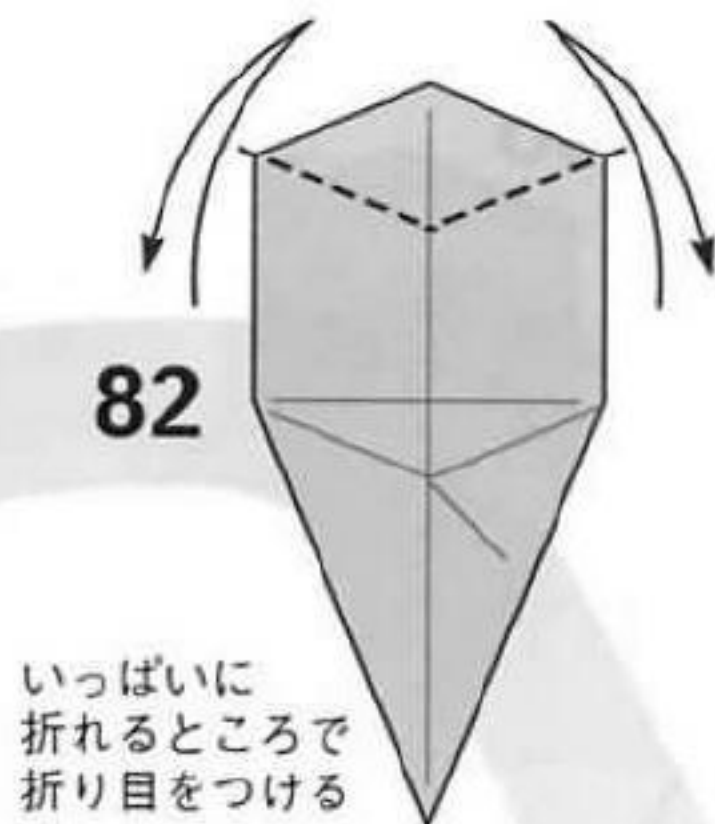
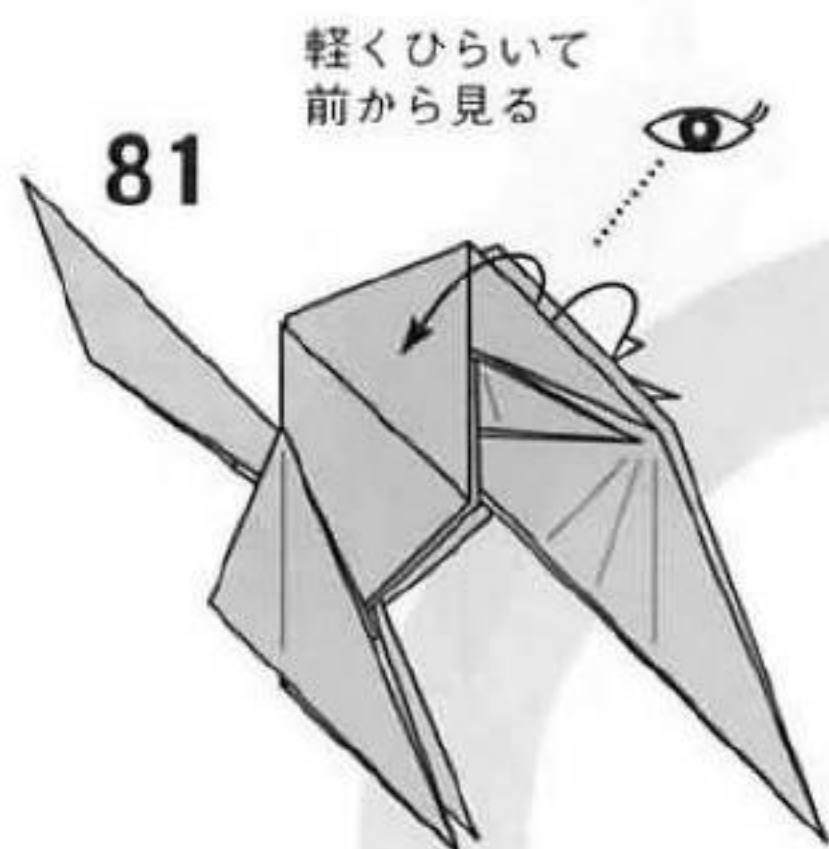
内側に折り込む



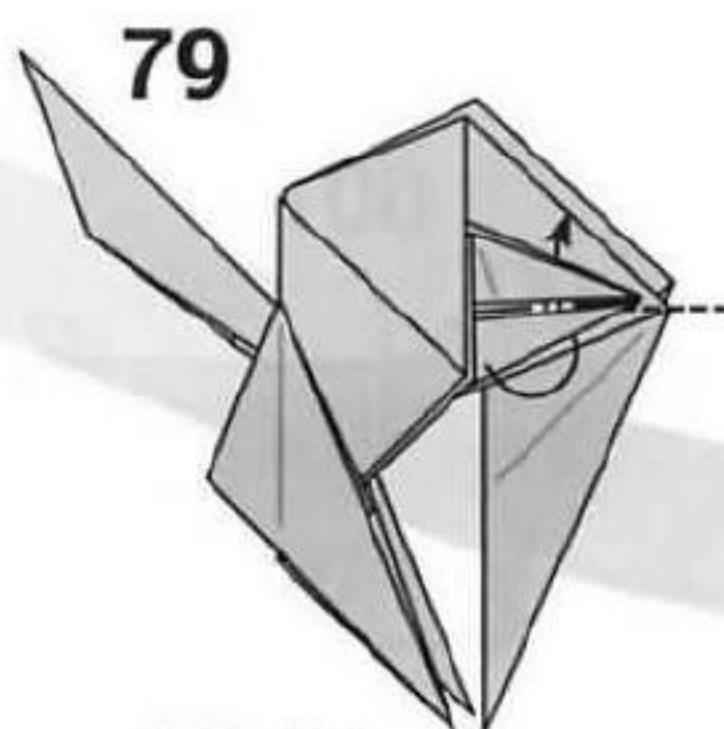
カドを
つまむように
折る



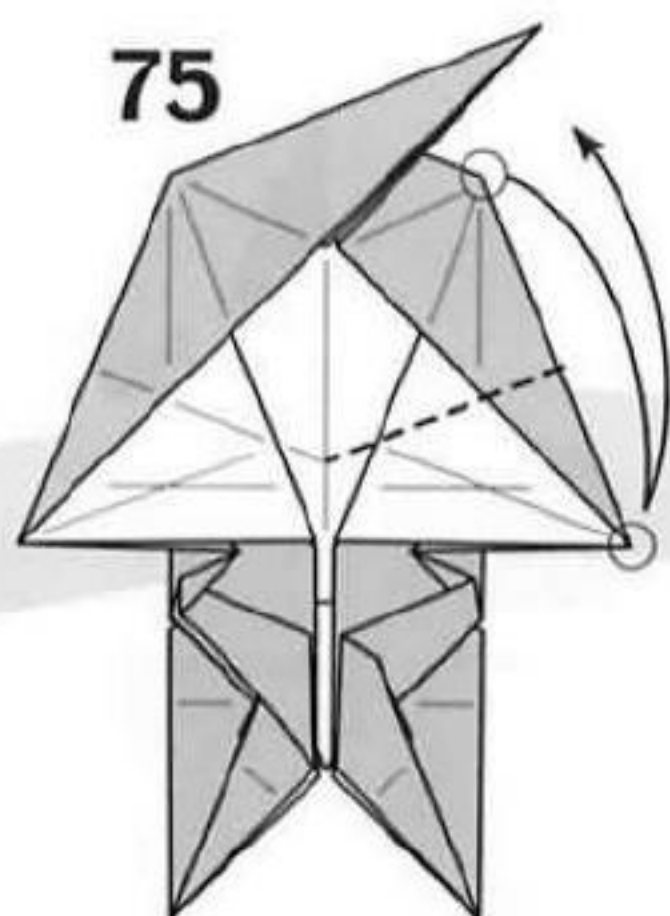
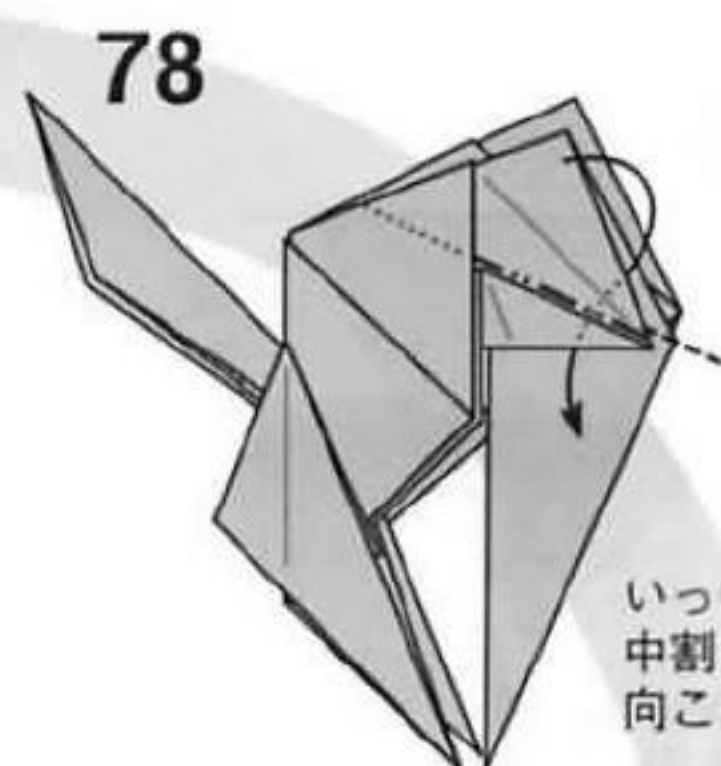
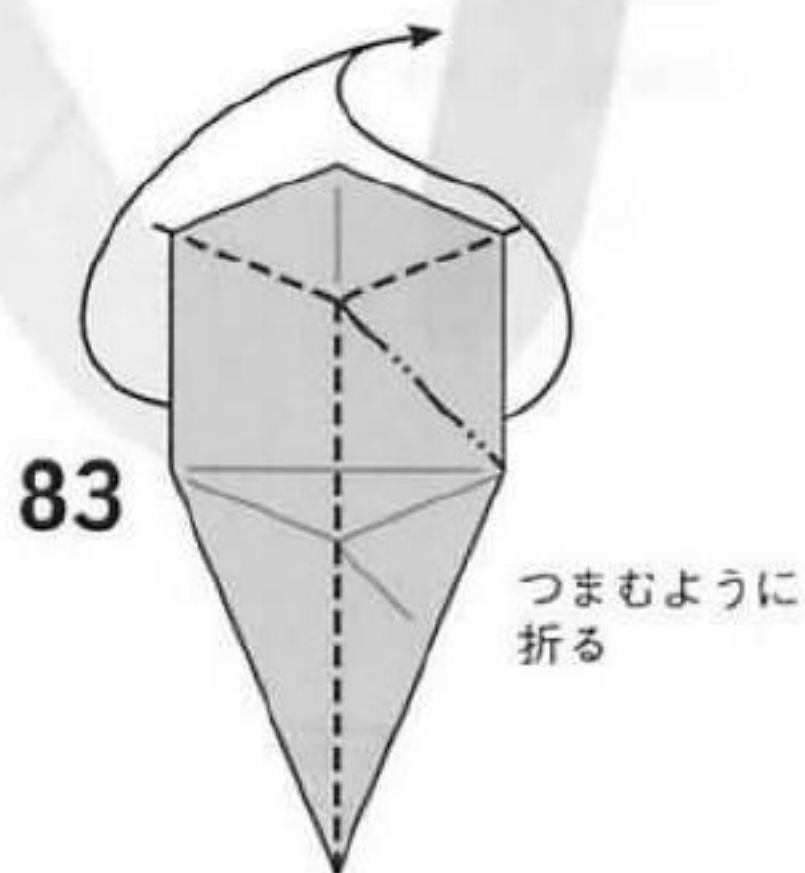
カドを合わせて
中心線まで
折り目をつける



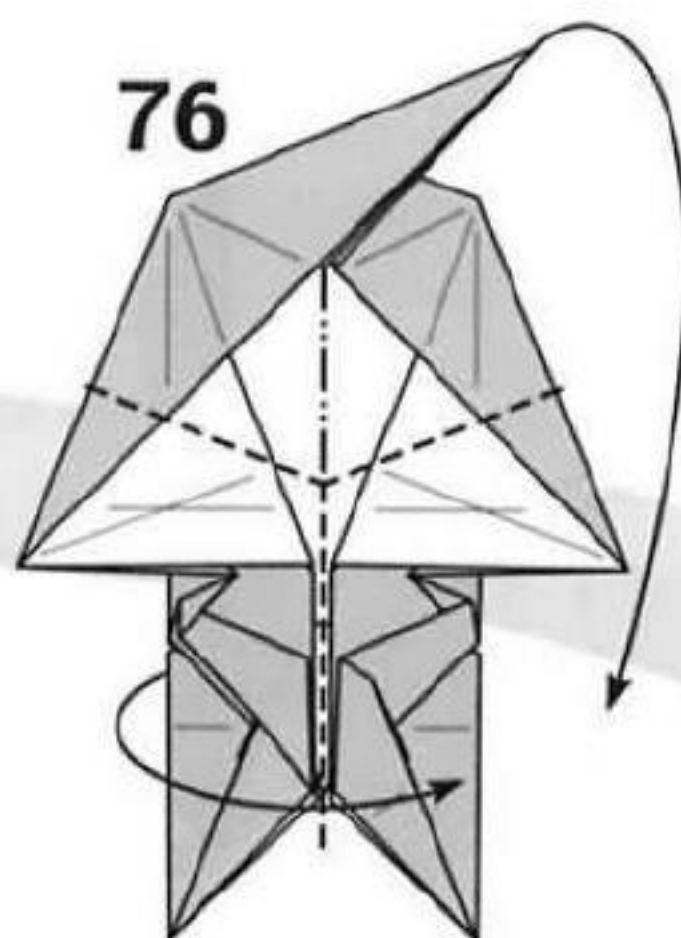
紙の重なりを
はずしてカドを引き出す



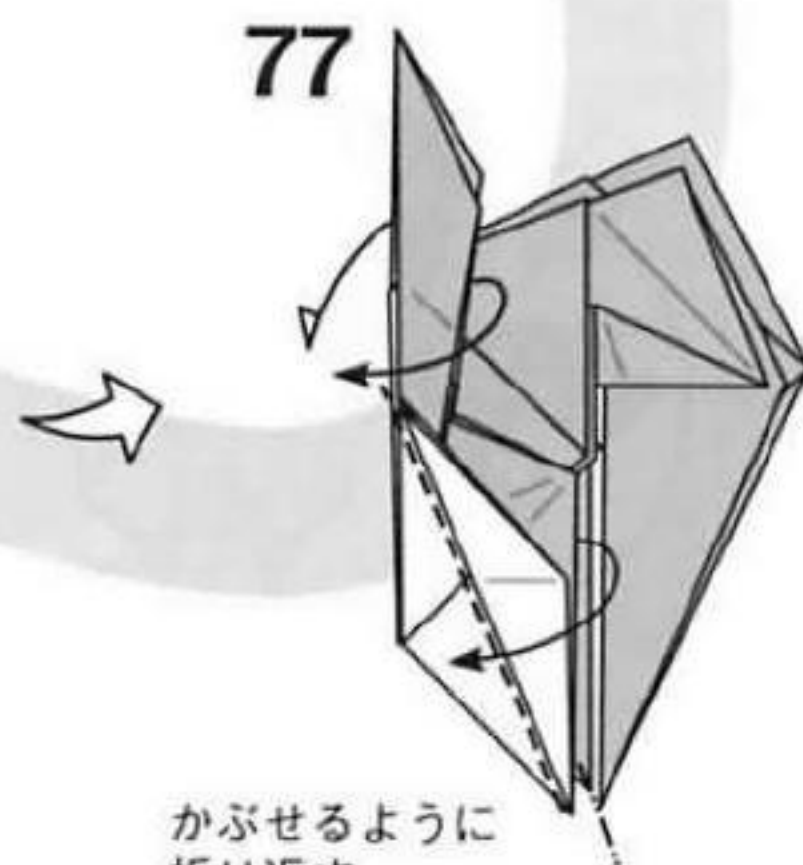
中割り折り
向こう側も行う



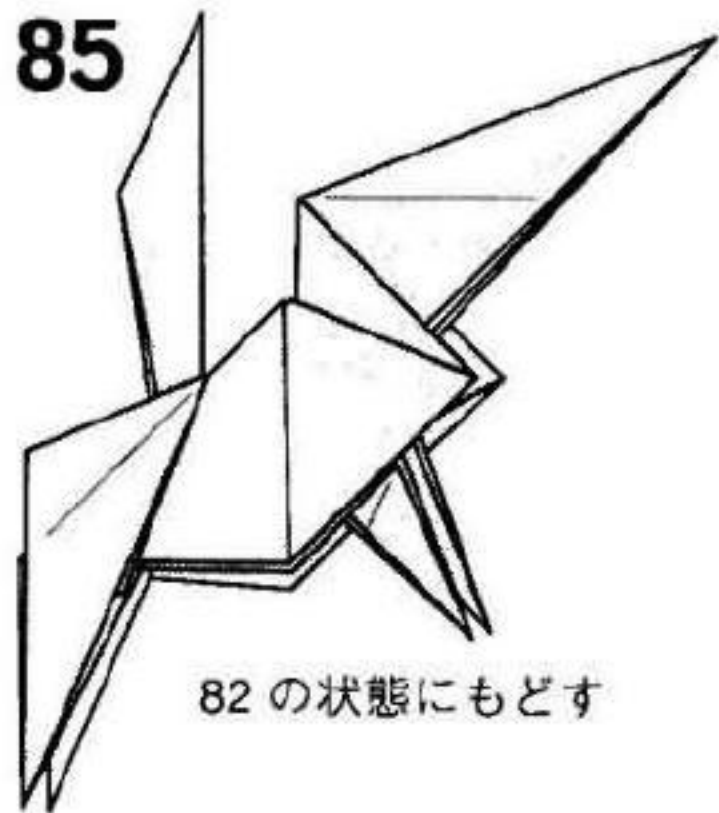
右側も 74 と同様に
折り目をつける



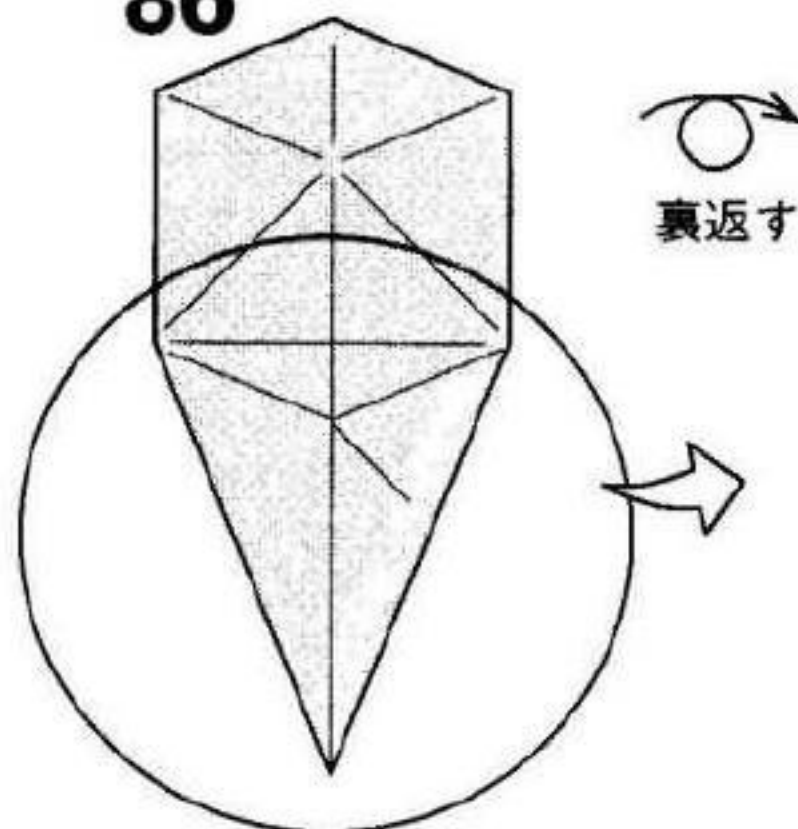
つけた折り目で
折りまとめる



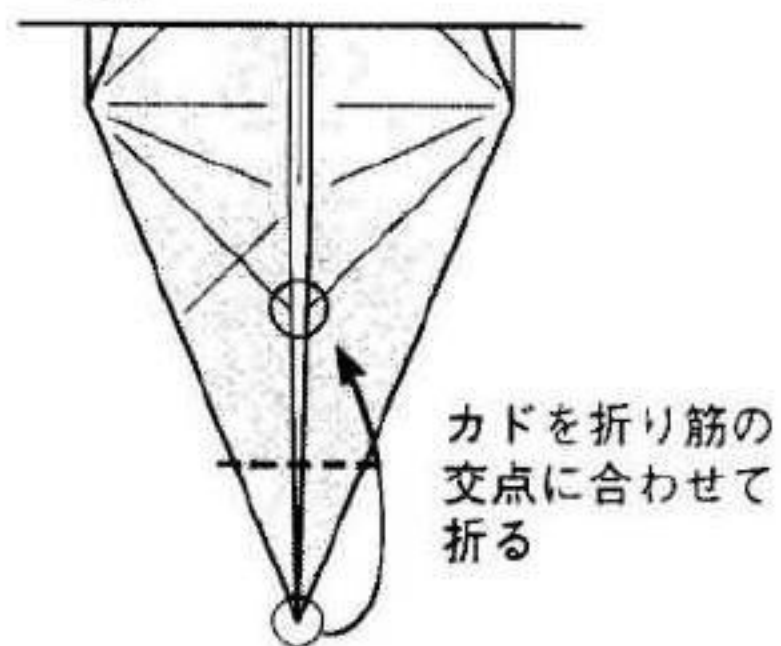
85



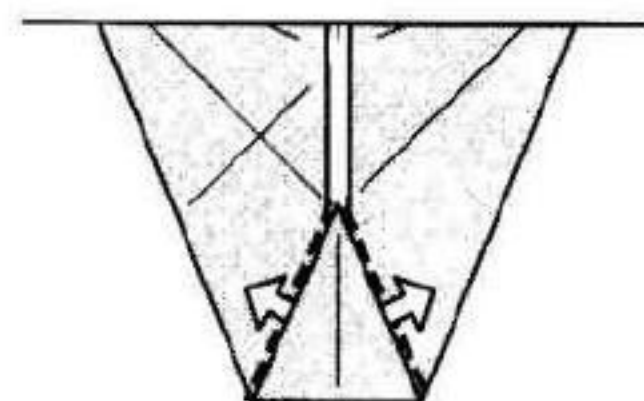
86



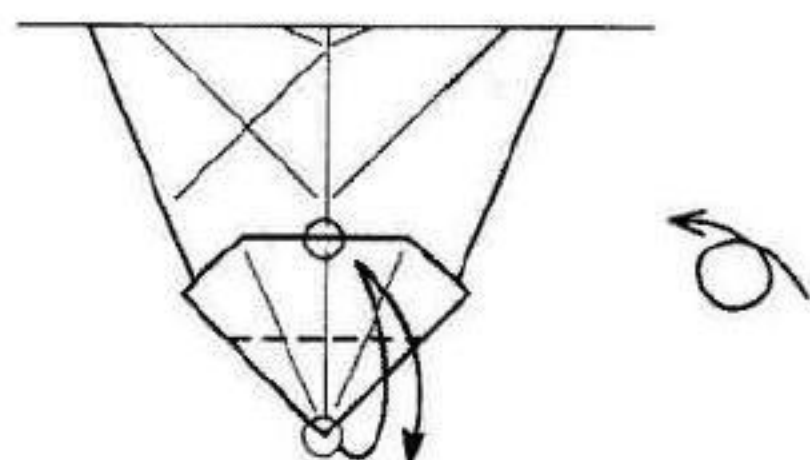
87



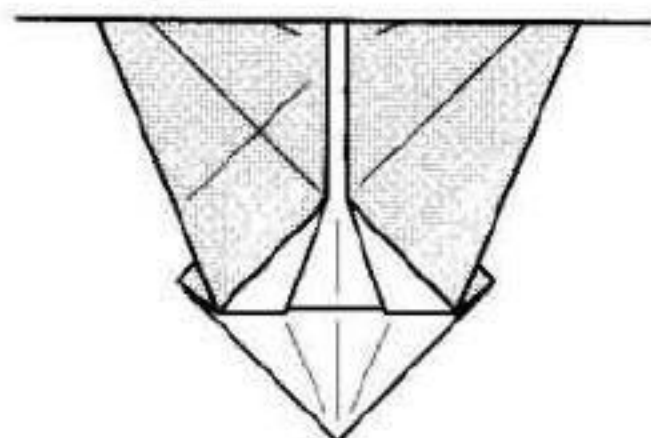
88



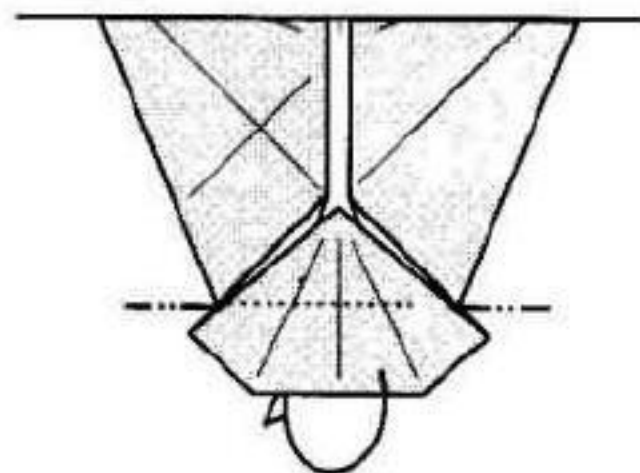
91



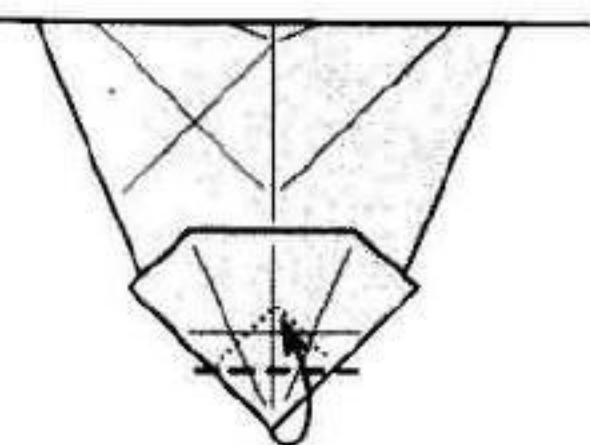
90



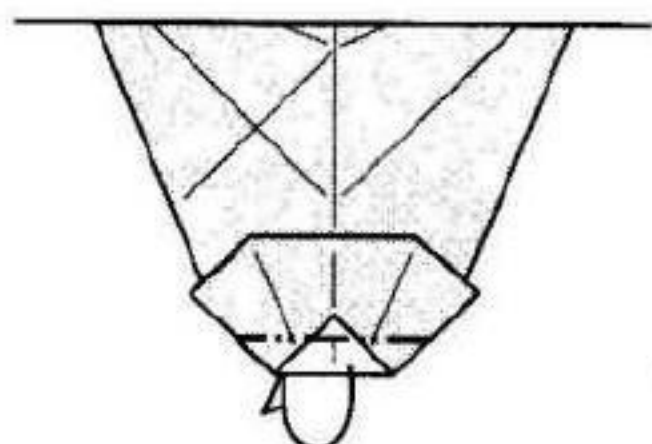
89



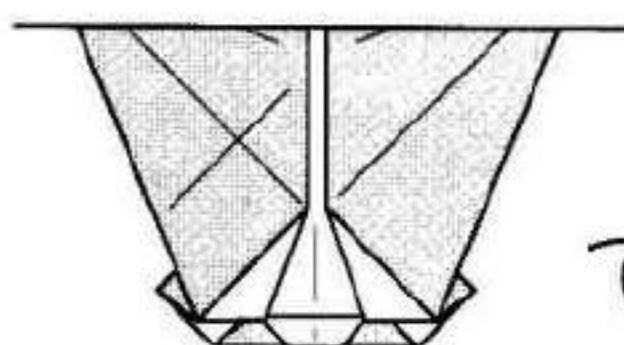
92



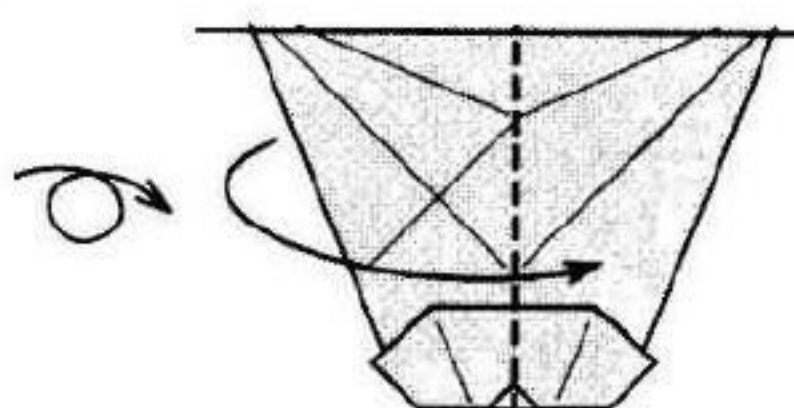
93



94

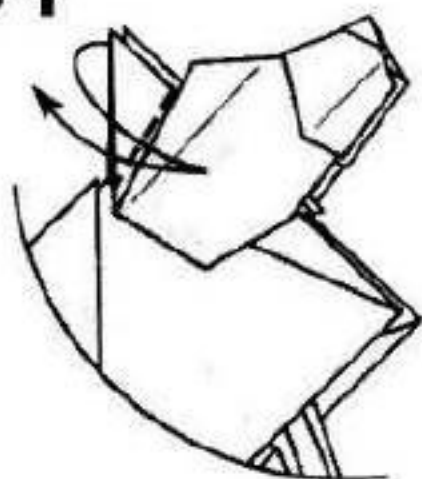


95



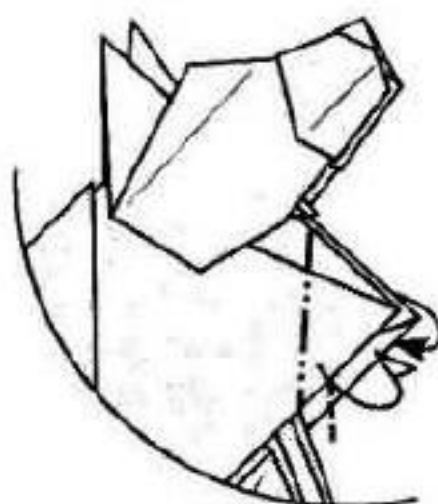
104

折り目をつけて
顔が開かない
ようにする
向こう側も行う



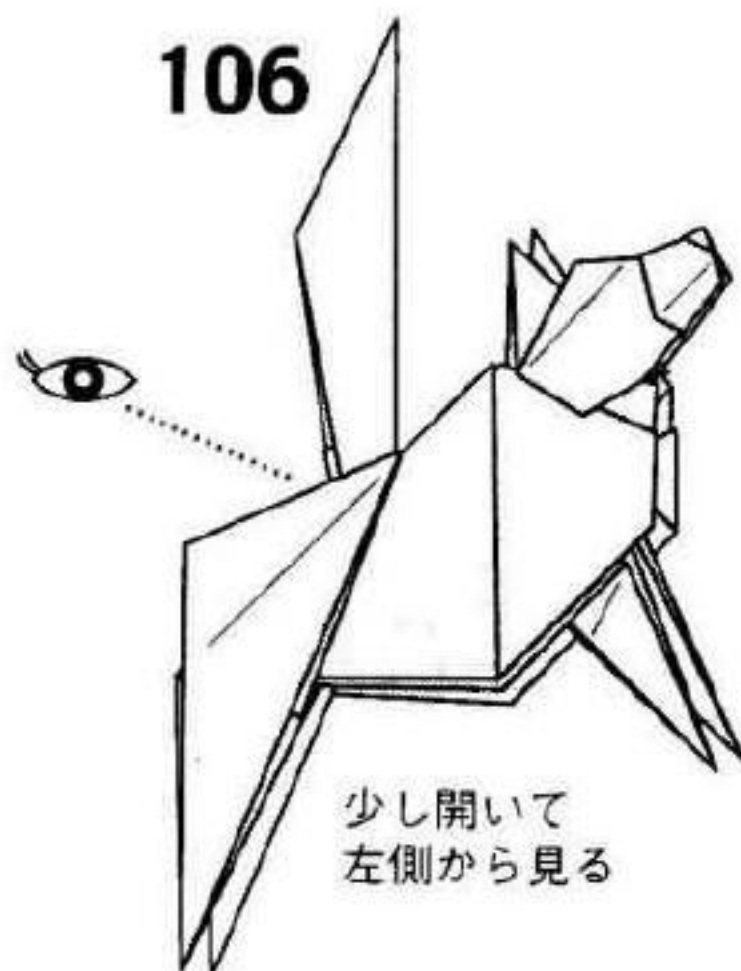
105

内側に
折り込む



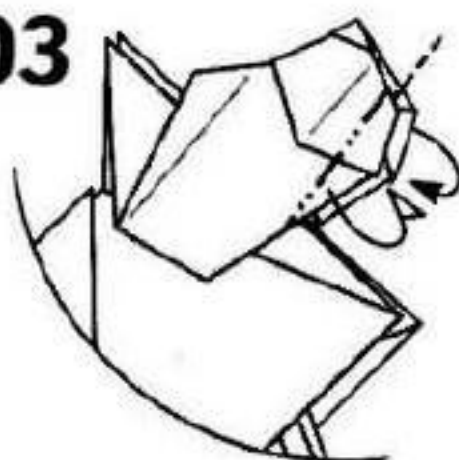
106

少し開いて
左側から見る



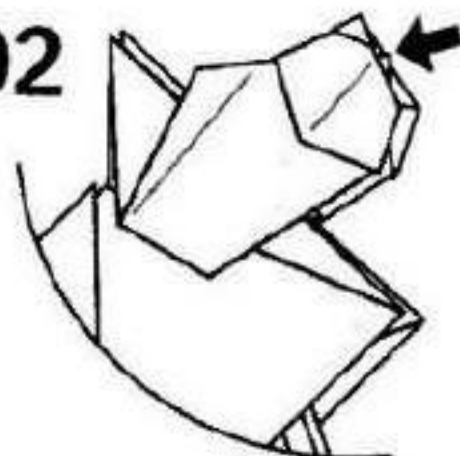
103

内側に折り込む



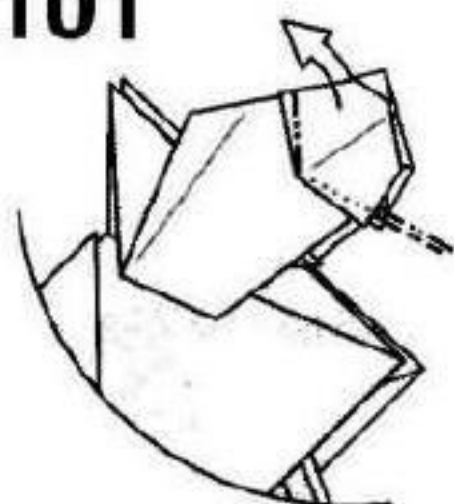
102

内側にあるカドを
中割り折りで
見えなくする



101

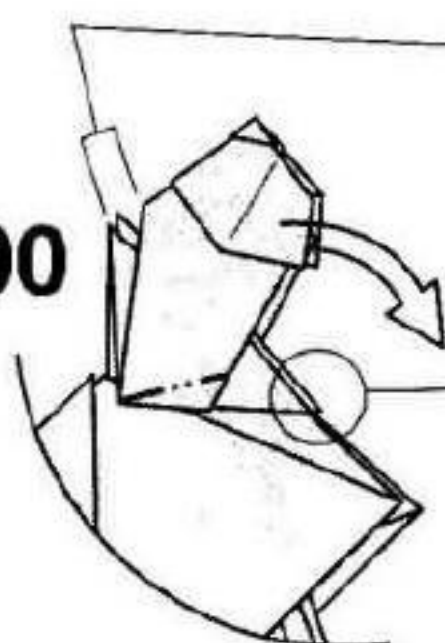
ずらして
引き上げる



100

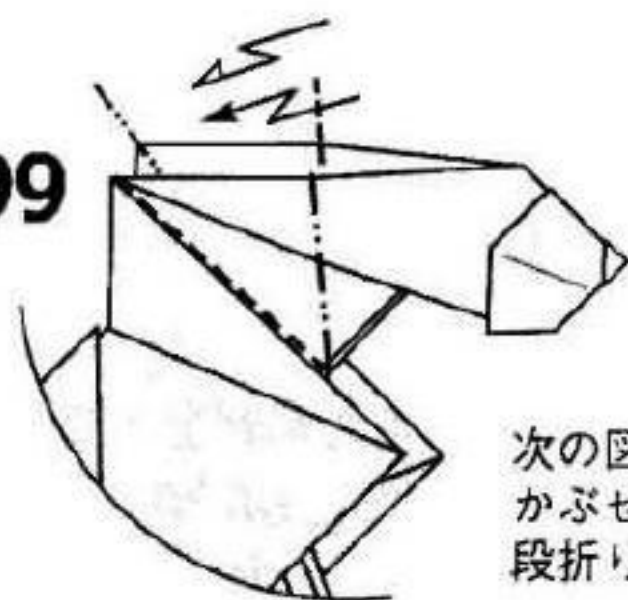
99 はここに少し
すき間をあける
ように折る

ここがずれないように
気をつけて
下にずらす



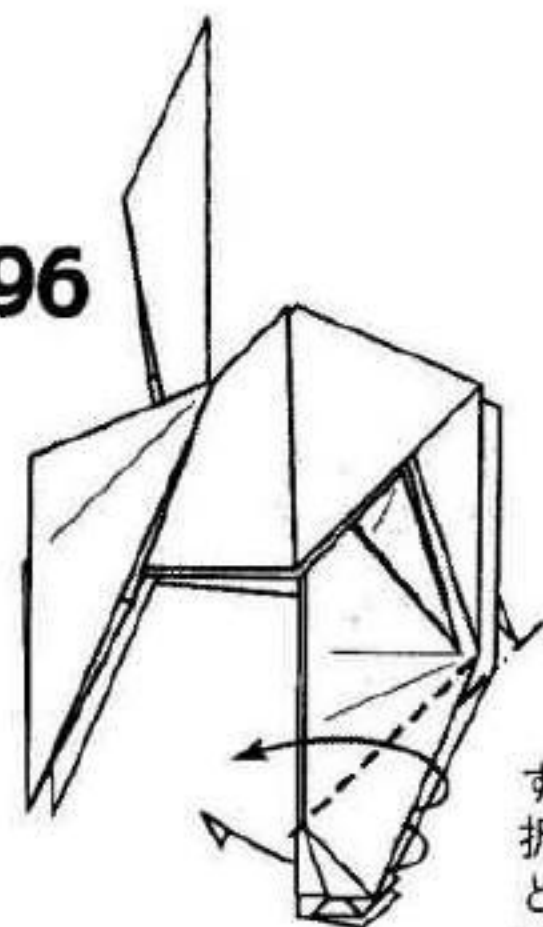
99

次の図をよく見て
かぶせるように
段折り



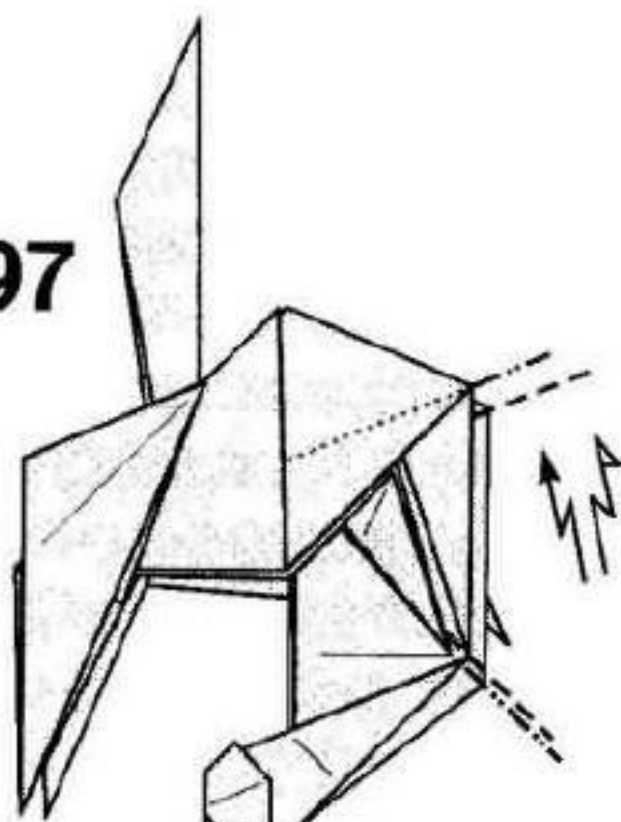
96

すでにある
折り筋の
ところで
かぶせ折り

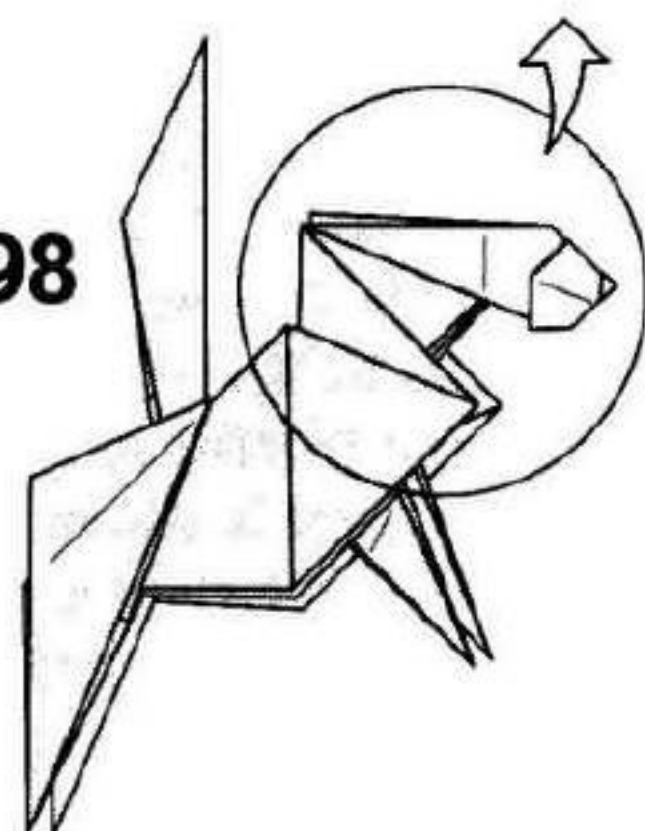


97

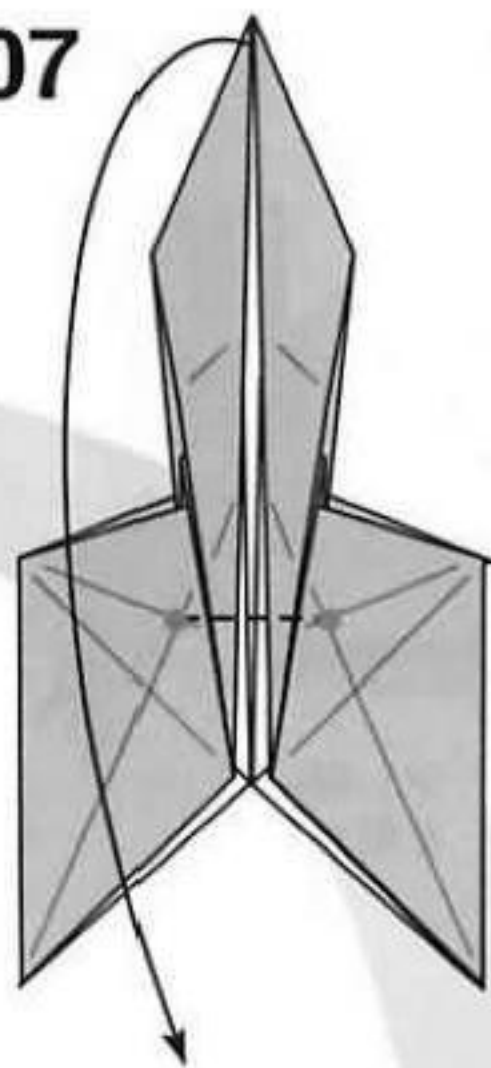
すでにある
折り目で折る



98



107



折り筋の交点を
結ぶ線で折る

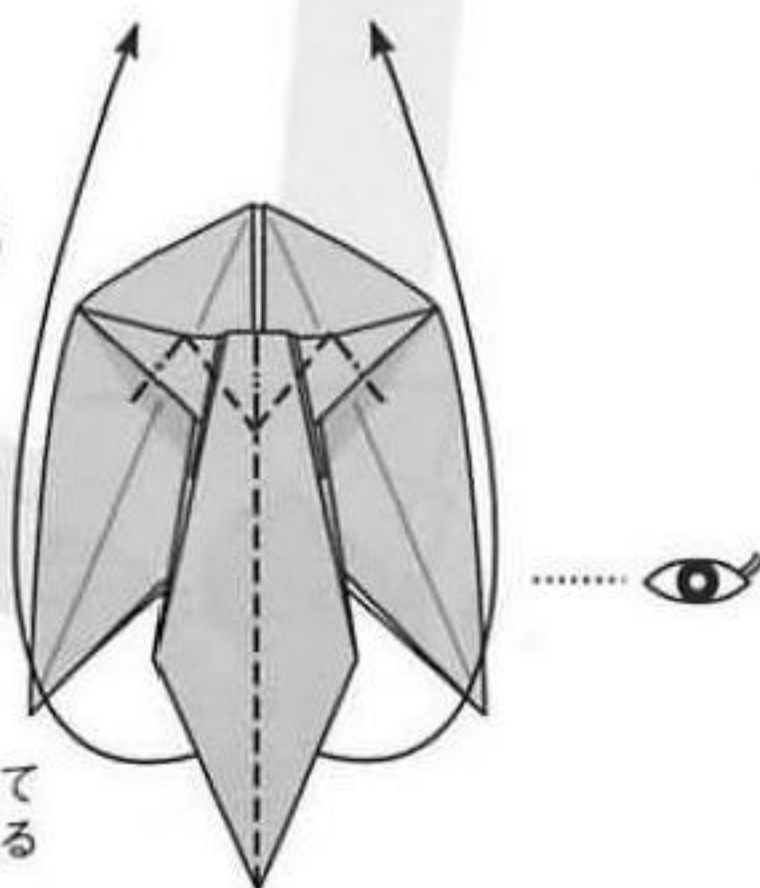
109

途中の図
尾が次の図の位置に
くるように折る



108

かぶせるようにして
カドの向きを変える

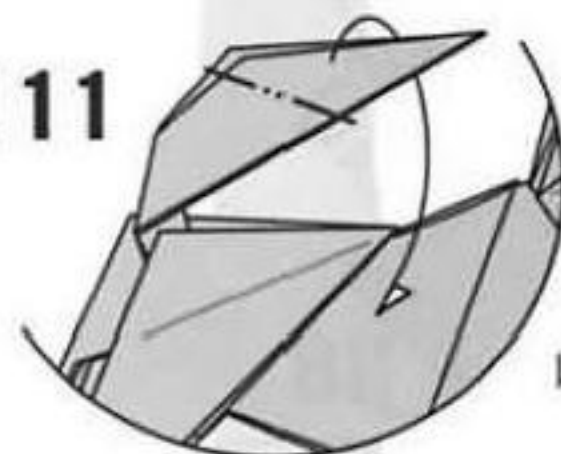


110

紙が厚いので
しっかりと折る

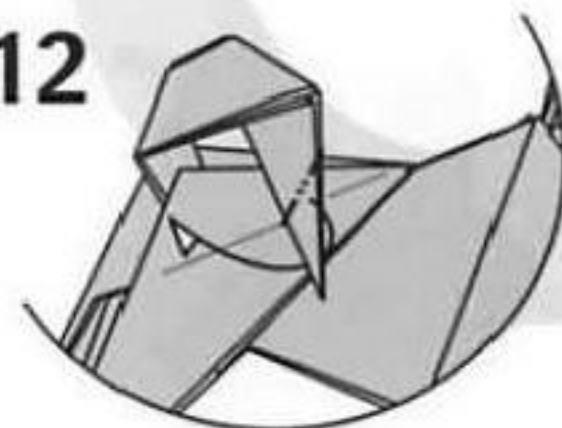


111



山折り

112



山折り



Orisuzi ("Fold-Creases")

ビバ！オリガミアン

Viva! Origamians

水野 健

Mizuno Ken

町内の消防団に参加。これが自分にとっての折り紙との出会いになりました。いきなりスーパーコンプレックス作品が目の前に現れたのです。なんと、消防団の訓練活動中に手の中で自ら創作のタナカカブトを折り込みながら参加していた田中将司(たなかまさし)君がいたのです。

サイズはいくらか本物より大きめ。大人になった自分の目には、ちょうど子供の頃にいかめしさを抱いていたカブトムシの重厚感を感じさせられるものでした。出来上がりを持たせてもらおうと、ずっしりと紙の重みを感じ、どこから見てもカブトムシの

フォルムです。口から出た言葉は、「これは何?」…紙で出来ていることは判りましたが、とても折鶴と同じ折り紙に属する物だとは思いませんでした。

元来、知りたがりの自分は、根掘り葉掘りと質問攻めの挙句、趣味や話が合うことから、一緒に話をするが増え…いつの間にか折り紙活動まで感染してしまいました。本当に感染としか言い様がない形で、自分の中に侵入して折り紙を創作…新作ができるとすぐに教えたがり、作品を見せるとちゃんと将司君も新作を用意している(!)。さらに感染した一人を含めて、いつのまにか消防団の中に折り紙サークルが生まれてしまいました。

こうして毎週、日を決めて集まるようになると、今度はコンベンションに出掛けてみよう!ということになり、探偵団の方々と知り合うことになりました。(この時の口約束がきっかけで、将司君はTVチャンピオンに出場が決まってしまう…。)

その後、まだ会った事の無い折り紙好きを求めて、インターネット上にサイトも立ち上げてしまいました。そんなこんなでどっぴりと漬かり始めた折り紙のある日常…。

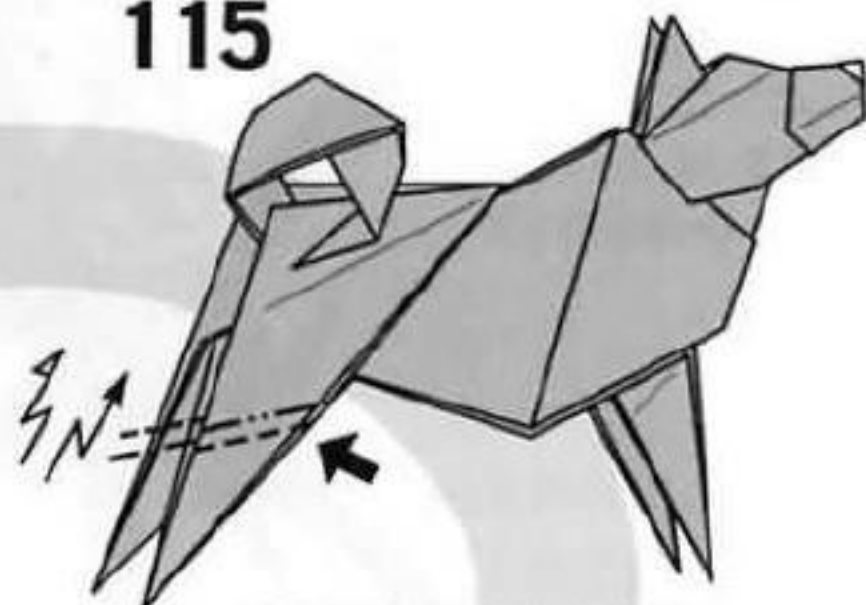
まだまだ手の中から重厚感のあるカブトムシは現れはしませんが、ネズミが飛び出したり、鳥が飛び立ったりはし始めています。

114 (下から見た図)

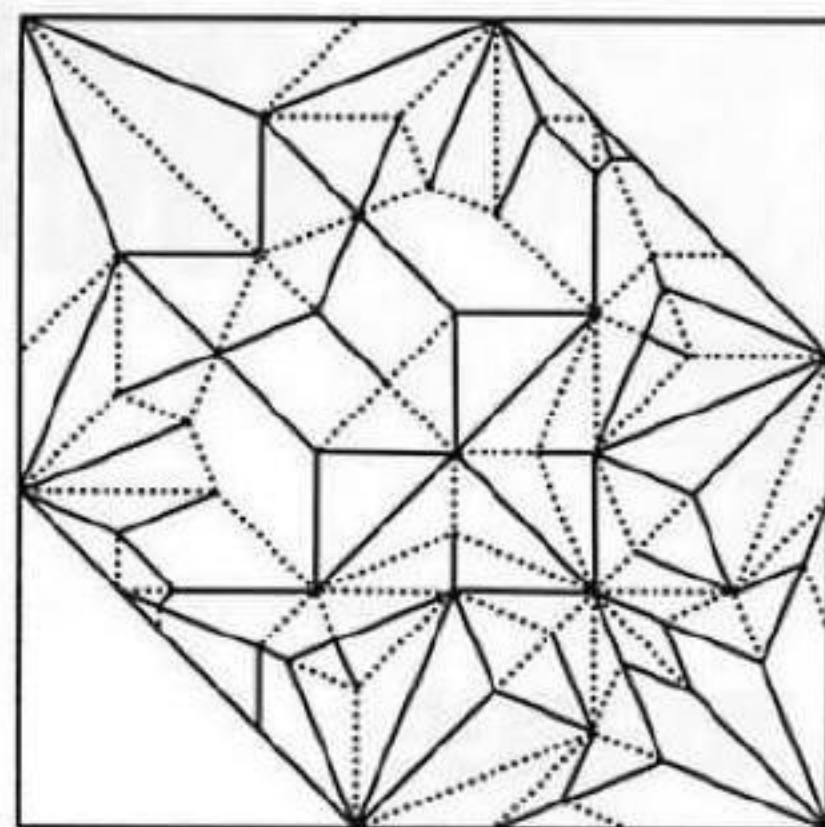


右側のヒダを
左側のポケットに
差し込んで
開き留めとする

115

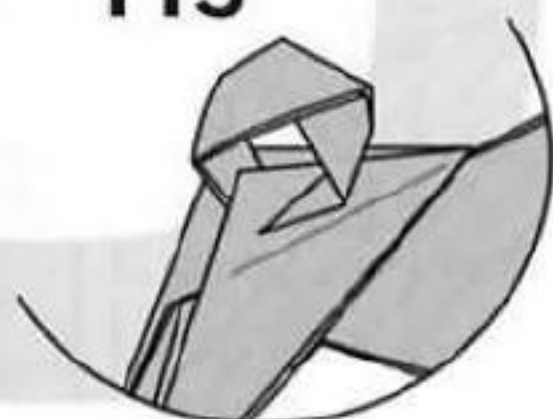


中割り折りを繰り返す
向こう側も同じ



87で折り返す部分はもう少し多めに
取った方が顔の造形のバランスがよ
くなるかもしれません。というか、顔は
各自、おこのみで仕上げて下さい。
また、タイトル下の完成図のように
腹の下を折り込んでもいいですね。

113



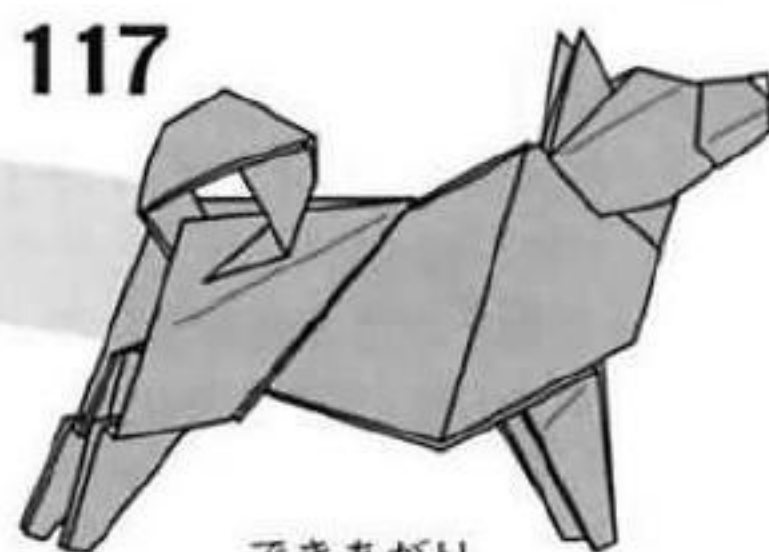
尻尾は紙が戻らないように
しっかりと折り癖を
つけること

116



先を折り込む
他の脚も同じ

117



できあがり

折紙三昧

16

Origami-Zanmai (This Origami and That)

感謝

Acknowledgements

私事で恐縮ですが6月に予告久しい
自作品集『西川誠司作品集』(おりがみ
はうす刊)を出版することが出来ました。
本書のまえがきにも書いたことですが、
この企画を決断下さった編者の山口さ
んをはじめ制作に係わっていただいた
方々には感謝の言葉も見つかりません。
おりがみはうすからはこれまでに6,7冊
の折り紙本が出されていますが、いずれ
も採算面から見れば通常の出版社では
とても実現できないような企画ばかり。本
書も投資回収できるのは何時のことかと
感謝しつつも心配になってしまいます。

さて、本書について山口さんは最後
の最後でまたひとつ大きな決断をされま
した。それは、全テキストを英訳するとい
う企画です。英訳を担当いただいたの

は、関西友の会の世話人のお一人として
ご尽力いただいている立石浩一さん(神
戸女学院大学文学部英文学科教授)。折
紙探偵団誌でも各種翻訳を続けてくだ
さっています。本書の英訳の中で私が気
になっていたのは、やはり“見立て”をど
う訳するのかということでした。本書に“見
立て”の訳として採用されたのは“diagnosis”
という語です。これは、私には考えつこう
もないものです。以下に立石さんのコメント
を引用させていただきます。『diagnosisとい
うのを使ったのは、「見立て」というのを抽
象的な形状から具体的な事物への写像
であろう、ととらえたからです。本来diagno
sisというのは、医者診断のことで、John's
diagnosis of malaria by examining Tom.
John's diagnosis of Tom's illness as malaria.

(ジョンがトムを診察した結果マラリアだ
と診断したこと)のように使います。ここ
から転じて、物事の判断・診断、という意
味で使われます。John's diagnosis of
Mary's talent as a future movie star. (ジョ
ンがメアリーの才能を、将来の映画ス
ターだと見抜いたこと)という感じです。
ですから、今回頭にあったのは、
Nishikawa's diagnosis of a lion out of this
abstract shapeでして、ある意味、折り紙の
「見立て」を、医者「診立て」に「見た
て」た、というわけです。』とのこと。用語
の翻訳はどんな文化・学術領域におい
ても概念整理や発展に資する重要な
分野です。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに Crease Pattern Challenge! 挑戦

第26回

蚊

Mosquito (*Neotopomyia tsudai*)

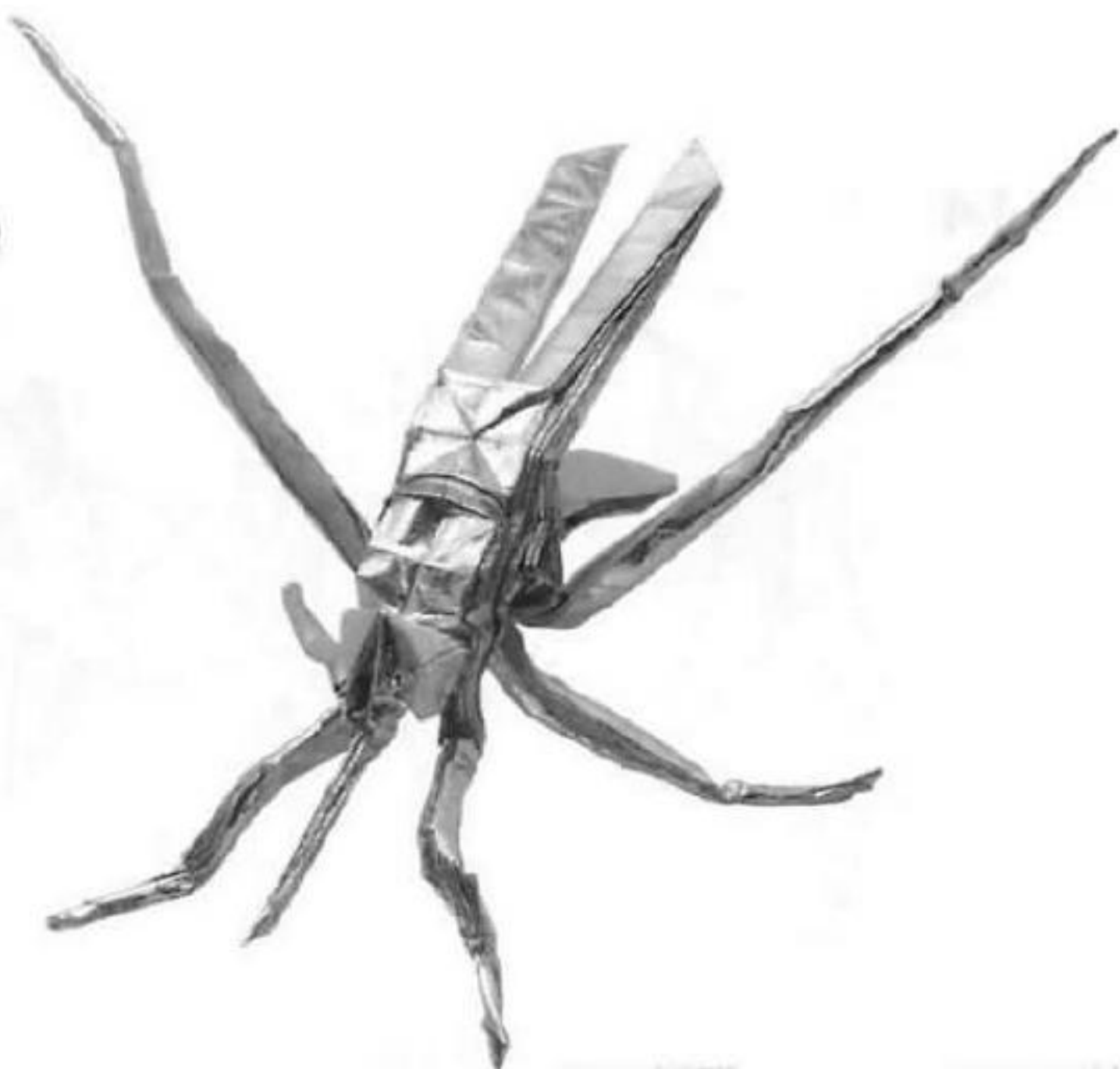
津田良夫

Tsuda Yoshio

Created : 2003.04.13

Paper Size : 30 × 30 cm

Length : 14cm



私が蚊を研究材料にしていることから、「折り紙で蚊は折れないのですか?」とよく尋ねられる。小さいし脚が細長くて折り紙にはむかないと思っていた。ところが、神谷君の「スズメバチ」で、どうして長い脚を折り出すことができるのかを理解しようと悪戦苦闘しているときに、これなら蚊も折れるかもしれないと感じた。

創作のはじめから目指していたのは、細長い後脚と翅のバランス、特に、後脚を常に上げているという特徴をうまく表現することだった。後脚をできるだけ長くするために対角線を使った。そのため、脚の順番が前、後、中脚の順になってしまい、ver.1は中脚が上に上がったような形になった。そこで、ver.2では中脚を後脚の前に折りだすことにした。このとき後脚の下に小さな突起を出しておいて、中脚の位置を固定してみた。この作品でおもしろい折り方は、蛇腹折りで三角形を渦巻き状に折り畳んでいる部分だろう。

脚の相対的な長さが実際の蚊に比べまだ短いなど気になる点があるものの、私はこの作品が気に入っている。いつもお世話になっている蚊分類の第一人者宮城一郎先生にこの作品をお送りしたところ、新属新種だとおっしゃって学名を、*Neotopomyia tsudai*、とつけてくださった。ユーモアを解する先生である。

私が折るときの手順は次の通り。対角線方向に64等分する。頭部、腹部、翅の中央よりにある小さい正方形部分は除い

Hind leg (後脚)

Fore leg (前脚)

Proboscis (吻)

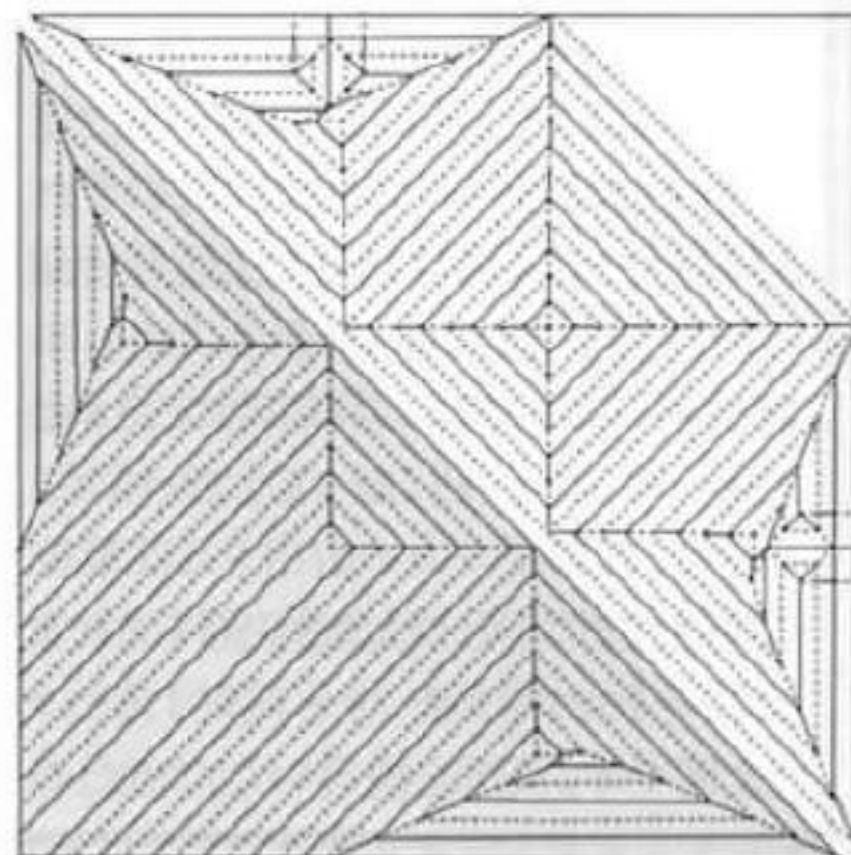
Eye (眼)

Mid leg (中脚)

Abdomen (腹部)

て、折り線を付ける。下図の網掛けをした下半分の折り線のように折り畳む。それから上半分の折り線のように前脚と中脚を折りだし、後脚付け根に小さな突起を折り出す。その後、腹部、頭部の折りだしに必要な線を付けて折りだし、脚に角度をつけつつ細く折って全体の形を整える。

15cm四方でもなんとか折れるが、フォイル紙の厚さなら30cm四方の大きさが折りやすく、脚の太さもいいかげんになる。制作時間3~4時間。



File-6

June Sakamoto

ジューン・サカモト

June Sakamoto (ジューン・サカモト) = ニュー
ジャージー州在住、日系3世。OrigamiUSA
ボードメンバー。

Juneさんは、日本折紙学会の会員として、雑誌
『折紙探偵団』の海外購読者のお世話や、折
紙探偵団コンベンションの海外参加者の通訳
などで活躍して頂いています。多彩なボラン
ティア活動の一部を聞かせて頂きました。



—OrigamiUSA (以下OUSA) ではどうい
った活動をされているのでしょうか?—

私は1992年にOUSAメンバーになり、
すぐ色々な事にボランティアとして参加
するようになりました。OUSAコンベンシ
ョンやスペシャルセッション、ミュージアム
などで折り紙を教えたり、また1996年か
らはOUSAオリガミ・ホリデー・ツリーを手伝
いはじめ、2年後にこのツリーの責任者とな
り、そして1999年、OUSAボードメン
バーに就任しました。

私は1982年～1990年まで日本に在住
していたのですが、その間日本の方はと
ても親切にしてくれて、様々な場面で私
を助けてくれました。ですから、日本の方
が(OUSAに)来たときは、なるべく通訳を
務めるようにしています。

—折り紙をはじめたきっかけは?—

7歳の時、母に折り鶴を教えてもらっ
たのが最初です。母は友人の家で折り
方を教わってきたのですが、あまり器用
な方ではないのに、母がこんな素敵な
作品を作れることにびっくりしました。そ
して、自分も折ることができてとても嬉し
かったことを覚えています。

今、私は教える立場ですが、子供が作
品を完成させたときに見せてくれる笑顔
は、私の楽しみの1つでもあります。

—長い折り紙歴ですが、創作作品は?—

私の場合、創作をしたいという気持ち
が全然ありません。たくさんのクリエイター

が素敵な作品を創りだしているの、そ
れを折れば十分だと思っています。

—最近凝っている折り紙は?—

凝っているというか、気になるのは海
洋生物の折り紙作品。今年のオリガミ・ホ
リデー・ツリーは「オリガミ・シー・ライフ」と
いうテーマでデザインしていくので、今
からいろんな作品をチェックしていて、
頭が一杯です。毎年違ったテーマで構
成するので、制作期間の10月～11月は
いつも忙しく、準備の仕事ばかりしてい
ます。この期間は週に50時間くらい折り紙
に費やしているんじゃないでしょうか。

—日本の折り紙と西洋の折り紙に違うところ
はありますか?—

ウエスタンの折り紙は最近厳しくなり
ました。はさみを入れない、糊付けをし
ない、正方形1枚で折る、というのは厳
格すぎるように思えます。ちょっと糊を
使って、少し切ったりしても、面白い作
品ならいいじゃない?って思います。

ルールを守りすぎて沢山の面白い作
品が否定されてしまったら、それは勿体
ない事。不切正方1枚折りの作品が、の
りとはさみを使ってより簡単に作れると
したら、初心者にとって取り組みやすい作
品です。あまり厳しいルールは、折り紙
の普及の妨げになるのではないかと心
配でもあります。

—雑誌『折紙探偵団』の海外読者と事務局の
橋渡しをして頂いていますが、困ることは?—

時々、新しい号の到着が遅れていて、
心配して私にe-mailを出してくる方がい
ることです。でも、きちんと説明すると、み
なさん安心してくれますので、そんなに
問題はありません。またこういった方々
は、私の対応にとっても感謝してくれま
すので、励みにもなっています。

—雑誌『折紙探偵団』はJuneさんにとって、
どんな本ですか?—

『折紙探偵団』は数ある折り紙機関誌
の中で一番良い本だと思っています。
写真がきれいで、折り図はコンプレッ
クス作品でも丁寧に書かれていて分か
りやすいし、期日どおりに1年6冊が発行さ
れています。日本語が読めなくても海外
購読者にはありがたい本ではないで
しょうか。

—雑誌『折紙探偵団』に今後期待する事は?—

そうですね、殆どの記事は日本語だ
けで書かれているので、日本語が読め
ない方が私によく質問してきます。もし時間
とスペースがあれば、英語がもう少し入
ると嬉しいです。もちろんその時は、翻訳
作業をお手伝いさせていただきます。

—JOAS全体に望む事はありますか?—

長く続けて、頑張ってください。

—これからどんな活動をしていきますか?—

外国のコンベンションへもっと参加
したいですね。BOSとCDOのコンベンシ
ョンへは参加しましたが、フランス、ドイツ、
オランダ、スペインなどのコンベンシ
ョンへも行って、沢山の折り紙の作家や愛
好家にお会いしたいです。折り紙で友人
が増えるのは一番楽しいことです。

取材を終えて

主婦として、一児の母としての仕事もこな
しながら折り紙の普及活動をしているJune
さん。創作活動以外にも折り紙界を支える仕事
が沢山あることを痛感しました。



▲OUSAコンベンションで教えるJuneさん

Photo: Origami House



▲NYのエルメスの
ショーウィンドウを
ディスプレイしてい
るところ。John
Montroll氏のつばめ
の群の中に、エルメ
スのスカーフが飛ん
でいる構成は、June
さんのアイデア

Rabbit Ear

つまみおり

Information



▲ミンゲイ国際美術館 (Mingei International Museum)の外観。

Photo by
Yamaguchi Makoto

パシフィック・コースト・ 折り紙カンファレンス・サンディエゴ

Pacific Coast Origami Conference San Diego

パシフィック・コースト・折り紙カンファレンス・サンディエゴ(Pacific Coast Origami Conference San Diego)略称ピーコック(PCOC)が、10月10日(金)から10月12日(日)まで、アメリカ、サンディエゴのハンドラー・ホテル(Handlery Hotel)にて開催される。スペシャルゲストの布施知子、ロバート・J・ラング、フローレンス・テンコの各氏による講演などもあり盛りだくさんの内容だ。3日間の内容を簡単に紹介すると以下の通り。

■10日(金)

午後、ミンゲイ国際美術館(Mingei International Museum)における作品展示「折り紙一紙を折るアートの革新的形態」(Origami Masterworks: Innovative Forms of the Art of Paper Folding)を訪問し、レセプション。同美術館にはオリガミUSAの協力を得て国際的に有名な折り紙作家の作品を集め、展示される。また、フローレンス・テンコ氏の折り紙

書籍コレクションが寄贈された図書室もある。午後7時 ハンドラー・ホテルにてオリエンテーション、折り紙教室で講習される作品が展示される。

■11日(土)・12日(日) 朝、教室受付。

折り紙教室 午前10時—午後4時

■11日(土)夜

ホテルにて懇親会、ゲーム等のエンターテインメントを予定。深夜まで折り続けたい方のためのスペースもある。

■折り紙セミナー

今回のイベントに並行して、ミンゲイ国際美術館においても10月10日(金)と10月13日(月)に折り紙のセミナーが開催される。

●10日(金) アートとしての折り紙 (The Art of Origami)

布施、ラング、テンコ各氏の折紙作家と、ミンゲイのディレクター、マーサ・ロンゲネッカー氏を交えて、時代を超えたアートとしての折り紙、展示のデザイン、折紙作家の着想の仕方、展示に耐えうる作品の作り方、などについてディスカッションする。

●13日(月) 教室における折り紙

小学校教育、数学教育、芸術教育、特殊教育における折り紙の位置づけについてのディスカッション。どちらも登録は事前に、カンファレンスとは別個に必要となる。

展示と国際会議の両方を兼ね備えた、めったにないイベントである。

■申し込み・登録について

受付優先順位は、申し込みの消印日付ごとにくじ引きとなるので、早目の登録をお勧めしたい。ただし、ミンゲイのセミナーについては、消印は関係なく先着順で、定員になり次第締め切りとなる。8月10日以前に申し込むと195ドル、それ以降、8月中の申し込みは250ドルとなる(10月4日まで受付している)。

「折り紙一紙を折るアートの革新的形態」

期間=03年10月5日-04年1月31日

開館時間=10時—4時(月曜・祝日休み)

入場料=大人5ドル、子供(6歳から17歳)

及び学生(学生証提示)2ドル

ミンゲイ国際美術館はサンディエゴの中心部からバスで10分ほどのバルボア・パーク内

●連絡先:ピーコックについての質問

E-mail: vicky@origami-usa.org

電話: (414) 921-7100

●ピーコックへの登録についての質問

E-mail: vann@origami-usa.org

電話: (619) 602-6202

●ミンゲイの展示についての問い合わせ

E-mail: Masterworks@origami-usa.org

●ホテルの予約

Handlery Hotel (619) 298-0511

<http://www.handlery.com/>



▲スペシャルゲストのロバート・ラング氏は14才から描き始めた自分の作品の折り図をファイルしてある。(自宅)

▼故、高濱利恵さんとの共著も出しているフローレンス・テンコ氏。(夕日がきれいな自宅マンションのベランダで)



▲日本から運ばれてきた作品をチェックするミュージアムのスタッフ

PCOC参加者募集中!

日本から一緒に参加する人を募集しています。現在数名が参加を予定。申し込みや、チケットの手配のお手伝いをします。皆さんで参加するといってもツアーではありません。それぞれが航空券を買って参加します。詳細は事務局にお尋ね下さい。(日本折紙学会事務局)



▲Mingelのコーネリアス氏(左)とOrigamiUSAのポーリッシュ氏(私と同じ申年)

やまぐち 真の OrigamiUSA Convention Photo Report

10年連続の参加となった今回のOUSA コンベンション。毎回、優しい人、楽しい人、おもしろい人や懐かしい顔に出会う。それが楽しみで参加しているといってもいいだろう。来年も参加できるように体調を整えておこうと思う。(来年は還暦だ。)



▲モンちゃん(ジョン・モントロール氏(中))をはさんで折り紙談義。ラング氏(左)とロビンソン氏



▲昨年からOrigamiUSAの会長になったトニー・チェン氏。スペシャルゲストのサラス氏作の帽子がよく似合っている



▲池上、神谷、松下の各氏がOrigamiUSA時代にお世話になった事務局のステーブ・ラヴォイ氏はこの秋に事務局を退職する



▲帽子が得意(帽子ばかりの本を出している)なスペシャルゲスト、ジョアン・サラス氏(右)



▲YamaguchiがOrigami折っている!と珍しがられた



▲アルド・ブッチナーノ氏(中)の「大きな紙で折る」という教室では大さくなくす玉を折っていた。



▲ビーコックの中心メンバー、ビッキー・ミハラ氏親子



▲Southeast Origami Festivalのジョナサン・バクスター氏と談笑する筆者



▲ジュン・サカモト氏。とても理解のあるご主人と

▼日本のお母さんも元気!(すぎる)



▲それでも起きない神谷氏に折り紙が飾られていく



▲居眠りする神谷氏にいたずらするラング氏



▼単なるディスプレイ台と化した神谷氏

◆折り鶴からくり発見!!

渡辺尚彦

この度、折鶴のからくり「舞衣」(まいぎぬ)の設計図、ビデオを持っておられるという情報を得て、末松先生の研究室を訪問した。

末松良一先生は名古屋大学工学部電子機械工学の教授で、からくりやロボットに詳しい先生として知られている。「舞衣」これはデンソー(株)の伊藤俊介さんが95年デンソー社内で行われたからくりコンテスト「デンソー夢卵」出展のため作られたものであるという。紹介を受けて「舞衣」の作動する映像を見せていただいた。テレビほどの大きさの木箱の中で折り目の付けられた和紙が宙で自然に折りたたまれていく。よく見ると和紙はモーター制御の4本のワイヤに支えられてその動きを造ってい

る。折られた鶴は逆の手順を踏んで再び一枚の四辺形に戻る。「これは最初和紙ではなく、折り目の部分がちょうつがいになった真鍮の板で造られていた。だけど支えのワイヤは11本も要るし重々しい感じで、そこを和紙に代えたところが4本のワイヤで済んだということだそうだよ。つまり折りぐせで少しの力で折りたたまれるという和紙の性質が活かされたんだね。」なるほど、鶴が折られるのはやはり紙でなければならなかったのかと妙に納得した。和紙という材料を工学的に見直したら案外面白い特性が見えてくるのかもしれない。

さて作品を見て今一つ驚いたのはその精巧さであった。一つのモーターにより鶴の動き、オルゴール、照明が制御されている

仕掛けも巧みであるが、表から見えない機構の部分が美しく造られていることも印象に残った。末松研の過去の学生が紙のみによる「舞衣」を製作しているという話もお聞きしたが、こういった美意識や凝り方が技術の発展に寄与しているという点は折り紙とも似た所があるのだろう。



「日本的なもの」をテーマに製作された「舞衣」は多くの意味を含みながら現在、各地でインパクトを与えているということである。

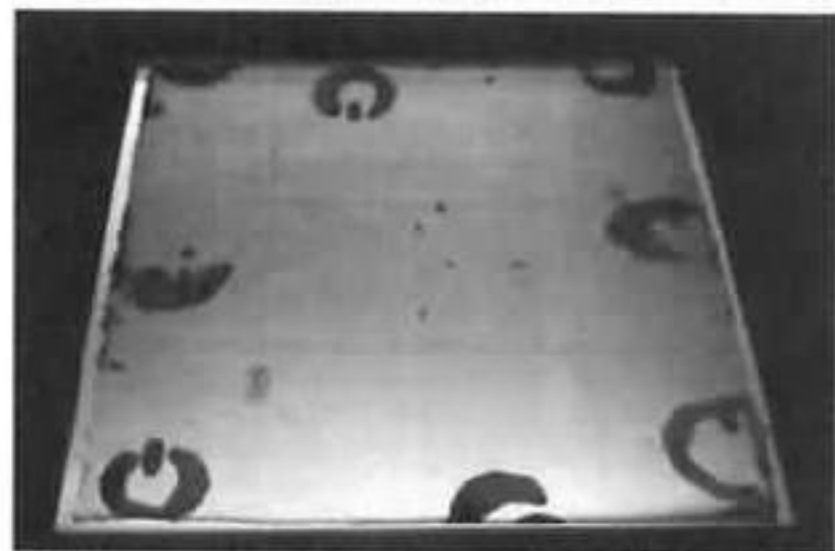
◀舞衣



北條高史の折り紙レポート 福井県今立町和紙の里 イーセン・ブラウト造形和紙彫刻展

本誌76号「ペーパーフォルダーの横顔」で紹介されたアメリカ出身の若手折紙作家、イーセン・ブラウト氏。福井県今立町の高校で英語教師をつとめる傍ら、折り紙と和紙づくりの修行を続けている。そんなブラウト氏の、約一年間の日本滞在のしめくりとしてひらかれた作品展を見るべく東京を出発したのは、おりがみはうすの山口真氏と松浦英子氏、折り紙王三連覇の神谷哲史氏、「展開図から龍神を折る」中井努氏と不肖北條の総勢5名。

5/31(土)、途中で石川県加賀市の日本折紙博物館に立ち寄りつつ(吉野氏の貴重な作品が乱雑に扱われていたのがなんとも残念…)、6/1(日)についに今



立町に到着。民家を改築したと思われる「卯立の工芸館」が今回の展示場、和紙づくりの設備もありなかなかいい雰囲気だ。24歳のブラウト氏は、ちょっと緊張した、人なつこそうな表情で迎えてくださった。

「造形和紙彫刻展」と題し、書家・木津大朴氏の書とのコラボレーションでつくられた作品群。手漉き和紙の風合いと折り目、墨痕が相互作用し、静かでありながら圧倒的なエネルギーを放っていた。作品全体を包み込むような繊細さ、タッチのよさ。独特な立体感の捉え方。さまざまに模索しつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れようとする真摯な姿勢が感じられる。

書との合作と言っても、字を書いた和紙を折るだけでなく、はじめに紙を何度かたたみ、筆を入れた上で再度広げるといった作品もあり、その発想に驚かされる。折り目にかかる墨の滲み具合が非常に面白い。さらに作品の縁を炎で焦がしてトリミングするなど、これまでの折紙の常識からは思いもよらなかった技法が展開される。

そのほか、柿渋を塗って硬質なイメージ



となった和紙で制作した、不思議な表情をもつ円柱形の作品群。圧巻は、数メートルに及ぶ長い和紙を会場の梁に渡し、立体的な模様を折り込んだ作品であった。

今回の展示にあたり、「折り紙」という表記をせず「彫刻」と呼ぶのは、「これらの作品は、伝統的な折り紙の意識をもつひとたちからは『折り紙』として受け入れられないのではないか」との思いからだという。非常に謙虚な姿勢がうかがわれるが、それと同時に、従来の折り紙の概念を打ち破ろうとする挑戦的な意気込みも伝わってくる。

さまざまな新しい息吹を吸収して帰途につく。なにか作らなくてはいけない、という漠然とした思いに背中を押され、ひたすら焦る。

ホームページ

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>
団員パスワード/Pyramid(大文字・小文字別)
関西友の会 <http://kobe.cool.ne.jp/tatekoo/>

編集後記

■今回から始まった連載「折り紙ビギナー奮戦記2」。折紙探偵団新聞の項にあった「折り紙ビギナー奮戦記」(木村哲夫氏)の2代目。折り紙にまったく興味がなかった人間がどのように変化していくリアルタイムでお伝えしていく。第1回目の中に「若い世代の活躍はその分野のバロメーター」という一節があった。素晴らしい発想やテクニックを持った若者が育ち、活況を呈している折り紙界。でも心配も少し。集中力があって勉強のできる若者が多いのだが、元気がない、挨拶ができない、ハッキリ喋らない。こういう世界にありがちな若者も多いのも確かである。■ANAのシートに着いているモニターに使われているアイコンは伝承折り紙作品だ。エンターテインメントのところに入っていると「折り紙事典」があった。ただし現在工事中。

◆ニルバさん、素敵な花をありがとう 川崎敏和

イタリアを代表する花の折り紙作家であるニルバさん(Nilva Fina Pillan)がお亡くなりになりました。私がニルバさんの作品を知ったのは1989年12月、CDOコンベンションの時です。紙の特性を生かした彼女の作品の中で「ひまわり」は特に印象深く、その「折り紙らしさ」に魅せられ数えきれない程たくさん折ったものです。

ニルバさんはピチェンツァ(オリンピック劇場で有名)で「千羽鶴」という名の文房具店を経営しておられました。店内に所狭しと飾りつけられた折り紙とそれらを楽しそうに説明するニルバさん。私の心の中にある彼女

はそのときの笑顔のままです。

ふと思いました。折り紙作家は幸せな人かもしれない。だって他界してなお作品を通して喜びと感動を与え続けることができるから。



ニルバさん(中)と川崎夫妻(ニルバさんの「千羽鶴」で)

静岡友の会

●9月7日(日)/参加費=500円/時間=10:30~12:00/会場=増武ビル/お問い合わせ:16~20時 054-254-4541(増武内山口)へ。

関西友の会

会場=長岡京産業文化会館
●8月10日(日) 14:00~17:00参加費=500円
●17:00から懇親会/参加費=5,000円程度

東京友の会

会場=文京シビックセンター
参加費=300円(中学生以下100円)/講習会=14:00~ /研究会=16:00~
●8月2日(土)地下1階 生涯学習センター・学習室/講師:宮本宙也 作品:ドラゴン
●9月6日(土)地下1階 生涯学習センター・学習室/講師:未定 作品:未定

■ORIGAMITANTEIDAN / No.80 / Published on 25.July. 2003 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Mosquito (Neotopomyia tsudai)" Produced by Tsuda Yoshio: Photographed by Sato Hitoshi / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

折紙探偵団

2003年7月25日発行 第14巻2号通巻80号
発行所/日本折紙学会
〒113-0001
東京都文京区白山1-33-8-216
Phone & Fax / 03-5684-6080
発行人/西川誠司
編集人/山口 真
編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史
デザイン/おりがみはうす
翻訳/立石浩一
発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

※このページの商品の取扱いはいすべて おりがみはうす です。日本折紙学会とは別になります。

I♥ORIGAMI おりがみはうす商品案内

広告のコーナー

アドレスが変わりました。 website = <http://www.origamihouse.jp/> E-mail = info@origamihouse.jp

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only. For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.

第9回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.9

予約受け付け開始! ※発送は8月末(コンベンション終了後)になります。

B5判/256ページ/定価:2,000円(税込)/送料:420円(梱包込)
申込み方法は、通常の通信販売方法と同じです。本の代金と送料をお送りください。(送り先住所と商品名を明記のこと)



西川誠司作品集 好評発売中!

シンプルからコンプレックスまで、32作品収録。幅広く折り紙を楽しむ1冊。

B5判/全196ページ/カラー口絵4ページ/定価:3,200円(税込)/送料:460円(梱包込)

第8回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.8

B5判/全256ページ/国内・外の作家の45作品を収録。
定価:2,000円(税込)/送料:420円(梱包込)

第7回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.7

B5判/全256ページ/国内・外の作家の51作品を収録。
定価:2,000円(税込)/送料:420円(梱包込)

※第1回～第6回の折り図集は全て絶版です。

折り紙色紙百花 (しきしひゃっか) 田中具子 著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル

B5判/全120ページ/カラー口絵8ページ/31作品収録
定価:2,500円(税込)/送料:390円(梱包込)

面～The Mask～ 布施知子 著

作者がユニット折り紙に出会う前の、面ばかりを集めた作品集

B5判/全200ページ/全27作品カラー写真紹介

定価:3,300円(税込)/送料:460円(梱包込)

折紙図鑑「昆虫I」 川畑文昭・西川誠司 共著 山口 真 編

B5判/全196ページ/カラー口絵4ページ/17作品収録
定価:3,100円(税込)/送料:460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

残り少なくなってきました。購入を検討している方は、お早めどうぞ。

B5判/全200ページ/カラー口絵8ページ 吉野一生 著

トリケラトプス全身骨格を含む14作品収録

定価:2,900円(税込)/送料:460円(梱包込)

※「折るころ」は在庫切れとなっております。

現在通信販売を停止しています。再入荷時期は未定です。



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp

『折紙探偵団』専用ファイル

変形B5判/箔押しロゴ入/定価:750円(税込)/送料:250円(梱包込)/雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能
※ファイルを複数ご注文の場合は送料が異なります。お問い合わせください。

おりがみDVD ママとおりがみ 山口 真 監修

簡単でかわいい作品の折り方を実写の動画でわかりやすく説明。折り図が読めなくてもこれなら折れる?! 1本 各120分。

●りくのどうぶつ/8作品 ●みずのどうぶつ/12作品 ●もりのとり・むし・はな/11作品

定価:2100円(税込)/送料:1本=320円, 2~3本=470円

四季の千代紙 30cm判 TOYOから発売中の「四季の千代紙」大判サイズ

発送方法が変わりました! 丸めずにお送りします。

※上質紙にカラー印刷したおりがみです。和紙ではありません。

四季をテーマにしたかわいい柄のおりがみです。モチーフが細かいのも魅力。一般のおりがみ用紙より若干厚手。

30cm×30cm/20枚入(4柄×5枚) 定価:450円(税込)

送料(変更注意):1~2セット=440円, 3~4セット=630円

恐竜柄おりがみ 70kgコルキーの表面に細かい恐竜模様を印刷。

発送方法が変わりました! 丸めずにお送りします。

35cm×35cm/10枚入 定価:1,000円(税込)

送料(変更注意):1~2セット=440円, 3~4セット=630円

恐竜柄おりがみ折り図つきセット/3種類から選べます

1. ドラゴン

(北條高史作)

2. ティラノサウルス

(神谷哲史作)

3. カルノタウルス

(神谷哲史作)



カルノタウルス



ティラノサウルス

定価:各1,200円(税込) ※送料は恐竜柄おりがみ単品と同様です。

只今制作中 まだまだ制作中。気長に待っていて下さい。

折紙図鑑「昆虫II」/ロバート・J. ラング著

折紙図鑑「昆虫III」/前川 淳 北條高史 目黒俊幸 共著

折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集

本ページに記載していない商品は、現在取り扱っておりません。ご注文頂いてもお送りできませんのでご注意ください。

商品の申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を送付させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。

※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。

※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。

※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です。(お盆・年末年始等を除く)

※書籍は冊子小袋で発送している為、本とそれ以外の商品(ファイル・紙)を同時にご注文の場合、基本的に送料は別々に頂いております。ご了承ください。

■書籍を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2003年9月30日

おりがみBOX



¥450

2段スライド式なので、
おりがみの収納や
出し入れがとても便利で
おりがみを種類別に
入れたり、
下段にのりやハサミなどの
おりがみに使用する道具を
入れたり、
いろいろな使い方が
できます。

★2段スライド式なのでおりがみの収納や
出し入れがとても便利!!

★下段にはのりやはさみ等
おりがみに使用する道具も収納
することができます。



上段には15.0×15.0cmまでの
おりがみが**100枚**
収納できます。

取っ手がついているので
持ち運びが便利です。

スライド式で
収納や
出し入れが
便利です。

みぞを使って下にある
おりがみを
簡単に選ぶ事ができます。

下段には15.0×15.0cmまでの
おりがみが**300枚**収納できます。
(のりや、ハサミなどの、**道具を**
収納する事もできます。)

※本商品はケースのみです。おりがみ・ハサミ・のり等はセットされておりません

●写真は印刷ですので実際の商品とは色は違う場合があります。



株式会社トヨー

ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0022 東京都足立区柳原1-35-4 TEL03-3882-8161
大阪支店/名古屋営業所/福岡営業所/札幌出張所/松山出張所